

## 予 算 決 算 委 員 会 会 議 録

1. 日 時 平成29年3月6日（月曜日）

午前9時28分～午後5時41分

2. 場 所 委員会室

3. 出席委員 猶 野 智 和 委 員 長	末 永 義 美 副委員長
竹 岡 昌 治 委 員	徳 並 伍 朗 委 員
秋 山 哲 朗 委 員	安 富 法 明 委 員
下 井 克 己 委 員	岩 本 明 央 委 員
山 中 佳 子 委 員	三 好 睦 子 委 員
高 木 法 生 委 員	岡 山 隆 委 員
秋 枝 秀 稔 委 員	戎 屋 昭 彦 委 員
杉 山 武 志 委 員	荒 山 光 広 議 長

4. 欠席委員 な し

5. 出席した事務局職員

綿 谷 敦 朗 議会事務局長	野 尻 登志枝 議会事務局係長
大 塚 享 議会事務局係長	

6. 説明のため出席した者の職氏名

篠 田 洋 司 副 市 長	岡 崎 堅 次 教 育 長
杉 原 功 一 会 計 管 理 者	石 田 淳 司 市 長 公 室 長
田 辺 剛 総 務 部 長	大 野 義 昭 総 務 部 次 長
細 田 清 治 総 務 部 次 長	藤 澤 和 昭 総 合 政 策 部 長
三 浦 洋 介 市 民 福 祉 部 長	西 田 良 平 建 設 経 済 部 長
白 井 栄 次 建 設 経 済 部 次 長	奥 田 源 良 総 合 観 光 部 長
倉 重 郁 二 美 東 総 合 支 所 長	佐々木 彰 宣 秋 芳 総 合 支 所 長
金 子 彰 教 育 委 員 会 事 務 局 長	末 岡 竜 夫 教 育 委 員 会 事 務 局 次 長
松 永 潤 消 防 長	有 吉 武 士 消 防 次 長
井 上 孝 志 選 挙 管 理 委 員 会 事 務 局 長	小 田 正 幸 監 査 委 員 会 事 務 局 長
末 藤 勝 巳 農 業 委 員 会 事 務 局 長	竹 内 正 夫 財 政 課 長
佐 伯 憲 一 監 理 課 長	山 本 幸 宏 収 納 対 策 課 長

佐々木 昭治	企画政策課長	中嶋 一彦	地域振興課長
鮎川 弘子	市民課長	池田 正義	生活環境課長
内藤 賢治	健康増進課長	福田 泰嗣	地域福祉課長
河村 充展	高齢福祉課長	志賀 雅彦	農林課長
中村 壽志	建設課長	安永 一男	観光総務課長
繁田 誠	観光振興課長	東城 泰典	美東総合窓口課長
岡田 健二	美東建設経済課長	荒川 逸男	秋芳総合窓口課長
山本 康房	秋芳建設経済課長	野尻 悟	教育総務課長補佐
長谷川 裕	学校教育課長	古屋 敦子	生涯学習スポーツ推進課長
井上 辰巳	文化財保護課長	岡崎 寿徳	予防課長

7. 会議の次第は次のとおりである。

午前9時30分開会

○委員長（猶野智和君） ただいまより、予算決算委員会を開会いたします。

それでは、さきの本会議におきまして本委員会に付託されました市長提出議案2件につきまして、審査いたしたいと思います。

なお、審査の日程でございますが、本日とあすの7日とし、予備日を8日としております。付託されました2件の議案のうち、まず初めに議案第3号平成28年度美祢市一般会計補正予算第9号について審査し、討論、採決を行います。その後、議案第8号平成29年度美祢市一般会計予算の説明、質疑がすべて終了したのち、西岡市長に出席を願い、総括質疑を行います。その後、議案第8号の討論、採決を行います。

平成29年度美祢市一般会計予算の説明にあたっては、歳出の款ごとの審査としますが、歳出は新規事業、重点事業、拡大事業を中心にし、またその歳出に関連する歳入について配付されている予算の概要により御説明をいただきたいと思います。款によっては所管部局が多数となるため、それぞれの部局からの説明をお願いいたします。

議長、報告等はありませんか。

○議長（荒山光広君） ありません。

○委員長（猶野智和君） それでは、これより審査を始めます。議案第3号平成28年度美祢市一般会計補正予算第9号を議題といたします。最初に財政課長より、総括的な説明を求めます。竹内財政課長。

○財政課長（竹内正夫君） それでは、議案第3号平成28年度美祢市一般会計補正予算(第9号)につきまして御説明を申し上げます。

まずは3－1ページ、表紙をごらんいただきたいと思います。

このたびの補正は、各事業の決算見込みによる調整や国の補正予算に呼応した事業にかかわる予算を計上するとともに、継続費の補正及び年度内に完成が見込めない事業についての繰越明許費の設定並びに地方債の補正を行うものでございます。

また、市債では、事業量の増減に伴い、市債の額を調整するとともに、過疎対策事業債ソフト分の借入枠の増加により、過疎債を追加し、歳出の関係費目に充当いたしましたことにより、財源振替が生じているところでございます。

それでは、歳出予算から、費目の順に従いまして、各担当のほうから説明をさせていただきます。

○委員長（猶野智和君） はい。議会事務局長。

○議会事務局長（綿谷敦朗君） それでは、補正予算書の３－２８、３－２９をお開き願います。

１款議会費・１項議会費・１目議会費、説明欄００３議会運営業務、議員報酬を８４万９，０００円減額するものでございます。

これは、当初６委員会の委員長、副委員長の報酬を見込んでおりましたが、実質４委員会の委員長、副委員長の報酬となりましたので、２委員会分の委員長、副委員長の報酬、それと平成２８年度改選がございました。そのため１カ月間議長、副議長が不在であったためその相当分を減額するものでございます。

説明は以上でございます。

○委員長（猶野智和君） はい。大野総務部次長。

○総務部次長（大野義昭君） 続きまして、２款総務費・１項総務管理費・１目一般管理費についてであります。

説明欄００２一般職員人件費の退職手当でございます。

これは、当初計上しております定年退職による予算計上１１名分以外に、勸奨による退職者１名、自己都合による退職者３名の退職手当が発生したことにより、５，９６３万３，０００円を追加するものであります。

○委員長（猶野智和君） 佐々木企画政策課長。

○企画政策課長（佐々木昭治君） 続きまして、その下、目の５財産管理費でございます。

右側の説明欄をごらんください。００４住宅団地管理販売事業におきまして、１，３００万円減額しております。内訳としまして、広告料におきまして、今年度広告宣伝手段を見直したことに伴い、３００万円減額しております。

また、業務委託料につきましては、今年度、美祢住宅団地・来福台の７丁目において、住宅団地定住促進業務を行うこととしておりましたが、当初予算で見込んでおりました参加件数よりも少なかったことから、業務委託料を１，０００万円減額するものであります。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 佐伯監理課長。

○監理課長（佐伯憲一君） 続きまして、その下、００６集中管理庁用車管理事業の業務委託料でございますが、１６０万６，０００円を減額するものでございます。

これは、監理課が集中管理しておりますマイクロバスの運転業務におきまして、山口県シルバー人材センター連合会等へ業務委託を予定しておりましたが、市の直営により一部、切りかえてマイクロバスの運転業務を実施したことによるものでございます。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 竹内財政課長。

○財政課長（竹内正夫君） その下の００７財政調整基金等管理運用事業につきましては、減債基金利子を実績に基づき１，０００円追加するとともに、庁舎等整備基金利子積立金を２万５，０００円、元本積立金を３億円積み立てております。

なお、歳入の１６款財産収入において、減債基金及び庁舎等整備基金利子として歳出総額の２万６，０００円を追加いたしております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 中嶋地域振興課長。

○地域振興課長（中嶋一彦君） その下、６目企画費でございます。

説明欄０１２情報通信施設運営事業として、業務委託料を２４０万円減額するものでございます。

これは、市民の有志が発起人となって開局する予定のコミュニティＦＭ放送局につきまして、行政情報等の放送委託料を当初予算化しておりましたが、今年度の開局が見込めないということから、それに係る業務委託料を減額するものでございます。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 佐々木企画政策課長。

○企画政策課長（佐々木昭治君） 続きまして、その下、目の１０活性化対策費でございます。

右側の説明欄をごらんください。００６Ｍｉｎｅワクワク住マイル事業において、１６２万円を追加しております。

これは、実績見込みによるものであり、商品券代として報償費を３１万円、またＭｉｎｅワクワク住マイル事業補助金を１３１万円追加するものであります。

続きまして、その下、００７三世帯同居等促進事業において、７０万円減額しております。

これも、実績見込みによるものであり、商品券代であります報償費を21万円、また、三世代同居等促進事業補助金を49万円減額するものであります。

続きまして、1枚めくっていただきまして、3-30、3-31をお開き願います。

右側の説明欄ですが、010ふるさと美祢応援寄附金事業におきまして、2,000円追加しております。

これは、歳入において、ふるさと美祢応援基金利子が当初見込みよりも2,000円多く見込まれますことから、利子を基金に積み立てるため、歳出において、ふるさと美祢応援基金利子積立金を2,000円追加するものであります。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 中嶋地域振興課長。

○地域振興課長（中嶋一彦君） 続きまして、説明欄013美祢魅力発掘隊設置事業として、204万2,000円減額するものでございます。

これは、当初2名の美祢魅力発掘隊員の設置を予定しておりましたが、そのうち1名につきましては、現時点で未設置であることより、現在募集中でございますけれども、それに係る経費を減額するものでございます。

続きまして、その下ですけれども、014市民・地域活動支援事業といたしまして、150万円減額するものです。

これは、自治総合センターが実施する自治宝くじ助成事業につきまして、今年度の申請3団体のうち、自治総合センターにおいて2団体が決定いたしましたため、申請1団体分を減額するものでございます。なお、財源は全て一般財団法人自治総合センターからの助成金でございます。

続きまして、その下ですが、13目公共交通対策費でございます。

説明欄002地域公共交通総合連携事業といたしまして、1,607万6,000円追加するものです。そのうちの業務委託料につきましては、ミニバス運行に要する経費でございまして、国から運行事業者への補助金交付額が確定したことに伴いまして、市からの委託料375万6,000円減額するものでございます。

また、生活バス路線維持事業補助金につきましては、実績に伴う路線バス運行に対する補助金でございまして、これは利用者減少に伴う運賃収入の減少や車輛修繕費の増加や人件費上昇による経常費用の増加等、実績に伴いまして、1,983万2,000円追加するものでございます。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 福田地域福祉課長。

○地域福祉課長（福田泰嗣君） 続きまして、３款民生費に移ります。

１項社会福祉費・２目障害者福祉費であります。説明欄００９特別障害者手当等給付事業において、１０８万３，０００円を減額しております。これは、特別障害者手当及び障害児福祉手当について、当初の見込みより対象者が減少したことによるものであります。

これに対する特定財源としまして、国庫支出金８１万３，０００円を減額しております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 河村高齢福祉課長。

○高齢福祉課長（河村充展君） 続きまして、３目老人福祉費でございます。

説明欄００７老人保護措置事業の老人保護措置委託料において１８４万８，０００円、００９敬老祝金支給事業の報償金において１１７万円、０１２緊急通報体制等整備事業において、事業委託料１０８万４，０００円、次のページになりますが、０１６生きがい活動支援通所事業の事業委託料において７２万円を減額しております。

これは、それぞれの事業の利用者や対象者数が当初の見込みに至らないことから減額するものでございます。

次に、０１９介護保険事業特別会計繰出金につきましては、介護保険事業の事業量の変更に伴い、介護保険事業特別会計への繰出金９１２万４，０００円を減額するものです。

なお、老人保護措置事業及び緊急通報体制等整備事業、生きがい活動支援通所事業につきましては、特定財源である負担金について、合わせて５６万２，０００円を減額補正しております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 福田地域福祉課長。

○地域福祉課長（福田泰嗣君） 続きまして、４目福祉医療助成事業費、説明欄００１重度心身障害者医療助成事業において５３５万９，０００円を、００４こども医療助成事業において１，２１１万３，０００円をそれぞれ減額しております。

これは、当初の見込みより実績が下回ることによるものであります。

これに対する特定財源としまして、県支出金 277 万円を減額しております。こども医療助成事業につきましては、御承知のとおり、市単独で実施しているもので、特定財源はございません。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 河村高齢福祉課長。

○高齢福祉課長（河村充展君） 続きまして、5 目共楽荘費でございます。

説明欄 002 共楽荘運営事業の給食業務委託料において 289 万 3,000 円、処遇調整扶助において 29 万円、介護保険扶助において 21 万円をそれぞれ減額するものです。

これは、共楽荘の入所者について、当初 32 人平均で見込んでおりましたが、長期入院や他の施設への入所による退所者が見込みより多かったことや利用者の伸びが少なかったこと等により、減額するものでございます。

なお、これらの特定財源として、措置費負担金を 328 万 3,000 円減額しております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 鮎川市民課長。

○市民課長（鮎川弘子君） 続きまして、9 目国民健康保険費でございます。

001 国民健康保険事業におきまして、国民健康保険事業特別会計繰出金を 1,488 万円追加するものでございます。

その内訳といたしましては、保険基盤安定繰出金及び財政安定化支援事業繰出金をそれぞれ追加し、その他繰出金及び国民健康保険制度関係業務準備事業費繰出金をそれぞれ減額するものでございます。いずれも事業費の確定によるものでございます。

財源内訳をごらんください。県支出金を追加しております。

続きまして 10 目後期高齢者医療費、説明欄 001 後期高齢者医療制度業務費におきまして、療養給付費負担金として 256 万 5,000 円の減額でございます。

これは、後期高齢者医療広域連合への繰出金の額が確定したことによるものでございます。

次に歳入について御説明いたします。3-24、25 ページをごらんください。

20 款諸収入・4 項・3 目ともに雑入の 3 節民生雑入のうち、後期高齢者医療療養給付費精算金として 3,232 万 5,000 円を追加しております。



これは、後期高齢者医療広域連合からの平成27年度市町療養給付費負担金の精算におきまして、還付金が発生したことによるものでございます。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 福田地域福祉課長。

○地域福祉課長（福田泰嗣君） 続きまして、2項児童福祉費・1目児童福祉総務費であります。

説明欄001児童福祉推進事業において、67万円を追加しております。

これは、認定こども園の人件費に対して市単独で補助をしておりますが、保育士4名、調理員2名の増員があったもので57万円を計上しております。

また、当初予定の無かった認可外保育園第3子預け入れに対する補助2件分として10万円となっております。

ページをめくっていただきまして、3-34、35ページになります。

2目児童措置費であります。説明欄001一時預かり事業で239万8,000円、1つ飛びまして003認定こども園補助事業で1,606万2,000円、005広域保育事業で203万1,000円を追加しております。

これらは、一時預かり、広域保育事業につきましては、当初見込んでおりました利用者数を上回る見込みとなるもので、認定こども園補助事業につきましては、公定価格の見直しの影響によるものでございます。

また、説明欄002私立保育園保育委託事業で2,436万1,000円、006児童手当支給事業で1,097万円を減額しております。

これらは、当初の見込みより対象者が減少したものであります。

これらに対しまして、特定財源の国庫支出金1,376万4,000円、県支出金294万4,000円を減額しております。

次に、4目児童福祉施設費であります。説明欄002公立保育所管理運営事業で1,107万8,000円を減額しております。

これは、秋芳北部地域統合保育所の建設に係る設計業務委託料でありまして、入札減によるものであります。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 内藤健康増進課長。

○健康増進課長（内藤賢治君） 続きまして、4款衛生費・1項保健衛生費・1目保健

衛生総務費、貸付金でございます。

これは当初、看護師奨学金の貸付3名を予定しておりましたが、1名の応募結果となりましたので、2名分の120万円を減額しております。

次に、2目予防費、償還金、利子及び割引料でございます。これは、健康増進事業について、健康教育等平成27年度健康増進事業精算に伴う県補助金の返還金として、2万円を追加するものでございます。

次に、3目母子衛生費、委託料でございます。

これは、妊婦健康診査事業につきまして、妊婦健診費用を実績見込みに伴い委託料を200万円減額するものでございます。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 池田生活環境課長。

○生活環境課長（池田正義君） ページが3－36、37ページになります。2項清掃費・1目清掃総務費、説明欄003合併浄化槽設置整備事業におきまして事業補助費を838万4,000円減額するものでございます。

これは、公共下水道、農業集落排水等が及ばない地域において、合併処理浄化槽を設置された方に5人槽では33万2,000円、7人槽では41万4,000円、10人槽では54万8,000円を交付しておりますが、年間60件の補助申請を見込んでおりましたが、現在、当該補助の申請数は40件にとどまる見込みであるため減額するものでございます。

なお、財源内訳でございますが、歳出の減額に伴い国庫支出金について224万3,000円の減額としております。

次にその下、2目塵芥処理費、説明欄003廃棄物リサイクル推進事業におきまして消耗品費を300万円減額するものでございます。

これは、消耗品費で購入している市指定のごみ袋の購入費が入札減により当初予算の見込み額を下回ったことにより減額するものでございます。

恐れ入ります。次が歳入の説明になります。資料が20ページ、21ページになります。

15款県支出金・2項県補助金・3目衛生費県補助金につきまして222万9,000円の減額とするものでございます。

この補助金は、環境省の再生可能エネルギー等導入推進基金事業費の配分を受け、

防災対策上、優先度の高い防災拠点や避難所に、自然特性などを生かした再生可能エネルギー等を導入した場合に受けられるもので、対象事業費の全額が補助となるものでございます。

事業自体は、教育委員会が大田小学校で太陽光発電や鉛蓄電池の設置工事を実施しましたが、工事費の確定に伴い補助対象額が1,770万1,000円となることから当初予算との差額を減額するものでございます。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 大野総務部次長。

○総務部次長（大野義昭君） それでは、3-36、37にお戻りください。

4項病院費・1目病院事業費において、繰出金を594万4,000円追加しております。

これは、病院等事業会計に対する繰出金でありまして、割愛という形で採用しておりました看護師2名の退職に伴い、美祢市に勤務する前に他の公立病院等に勤務していた期間に対する退職手当相当分を、一般会計で繰り出すものであります。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 志賀農林課長。

○農林課長（志賀雅彦君） 続きまして、6款農林費・1項農業費・3目農業振興費において、2,637万3,000円を減額しております。

説明欄の006経営所得安定対策推進事業の308万9,000円の減額につきましては、事業の推進母体である美祢地域農業再生協議会の経費節減等により補助金を減額するものです。

次に、説明欄の007環境保全型農業直接支援事業につきましては、事業主体が年度内に予定しておりました作業が4月以降となり、今年度の交付対象に該当しないため81万9,000円を減額するものです。

続きまして、3-38、39ページをお開きください。

説明欄の009新規就農者支援対策事業につきましては、490万円を減額しております。これは、予定をしておりました交付対象者が出産により、休職等のため青年就農給付金を350万円、及び離職による定着支援給付金140万円を減額するものです。

次に、説明欄の013いきいき農地リフレッシュ事業につきましては、事業実績見

込みにより耕作放棄地再生事業の業務委託料８０万円を減額するものです。

次に、説明欄の０１９農地中間管理事業につきまして、１，６７６万５，０００円を減額しております。

これは、主に機構集積協力金の対象が本年度より、年度末の３月から１２月末までに利用権が設定された農地が対象となるよう変更があったため、機構集積協力金１，６３０万円を減額するものです。

なお、平成２９年１月以降に設定された利用権については、平成２９年度の協力金の対象となります。３－３６ページに戻っていただきまして、これらの事業の歳入といたしまして、県支出金２，４２０万４，０００円、及び諸収入４７万２，０００円を減額しております。

続きまして、３８、３９ページをお開きください。

４目農地費において、６，９９３万９，０００円を減額しております。説明欄の００７多面的機能支払事業につきましては、２，７７５万２，０００円を減額しております。これは主に、資源向上長寿命化交付金の国の予算が大幅に減額されたため負担金２，７２８万４，０００円を減額するものです。

説明欄の００８県営中山間地域総合整備事業につきましては、国の予算配分により県事業費が減少したため、市負担金３，１２９万円など、合計３，３３１万６，０００円を減額するものです。

次に、説明欄の００９県営農地整備事業につきましては、川東西工区の換地業務に関する県委託料が減額されたため、換地委託料１０５万８，０００円を減額するものです。

説明欄の０１０県営農業用河川工作物応急対策事業につきましては、護岸工事費の増により県事業費がふえたため、市負担金５８万４，０００円を追加するものです。

次に、説明欄の０１１団体営農地防災事業につきましては、大浴ため池の工事において堤体に係る経費の減額による工事請負費の減、及び立木等補償費の減により、合計８３９万７，０００円を減額するものです。

なお、大浴ため池の改修は平成２９年度に完了する予定です。

これらの事業の歳入といたしまして県支出金２，８４９万１，０００円、及び地元分担金３１５万３，０００円を減額しております。

続きまして、３－４０、４１ページをお開きください。

2項林業費・2目林業振興費において、494万9,000円を減額しております。

説明欄の002森林整備地域活動支援交付金事業につきましては、地元協議が整わなかったため、交付金149万3,000円を減額するものです。説明欄の004美しい山づくり事業におきましても、竹林改良の申請面積減による345万6,000円を減額するものです。

なお、これらの事業の歳入といたしまして、県支出金112万1,000円を減額しております。

続きまして、6目有害鳥獣対策事業費において、494万6,000円を減額しております。説明欄の001有害鳥獣捕獲奨励事業におきまして、有害鳥獣の捕獲頭数が当初計画よりふえることが見込まれるため243万2,000円を追加するものです。

説明欄の004有害鳥獣被害防止対策事業におきまして、県からの交付決定により、推進事業費を46万6,000円増、鳥獣被害防止施設の整備を行う事業については910万5,000円の減、緊急捕獲を行う事業については126万1,000円の増、合計737万8,000円を減額するものです。

なお、この事業の歳入といたしまして、県支出金737万8,000円を減額しております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 白井建設経済部次長。

○建設経済部次長（白井栄次君） 続きまして、7款・1項商工費について御説明を申し上げます。

2目商工振興費におきまして3,633万7,000円を減額いたしております。

内訳につきましては、説明欄に記載のとおりでございますけれども、まず、002中小企業者融資事業におきまして、美祢がんばる企業応援資金融資保証料補助金を454万3,000円、また美祢がんばる企業応援資金預託金を3,040万4,000円、それぞれ減額いたしております。

この事業は、市内の中小企業者に対する融資を円滑にすることにより、中小企業者の安定化を図り、中小企業者の育成及び地域産業の振興に資することを目的に実施する事業で、従前ございました中小企業者融資事業と小規模企業者融資制度を統合し、本年度平成28年度から事業を開始いたしましたものでございますけれども、本年度の実

績見込みに基づきまして減額いたすものでございます。

左側の財源内訳の中に特定財源として諸収入を3,040万4,000円減額いたしてございますけれども、これは歳出に連動いたしまして、減額をいたすものでございます。

次に、003商工貯蓄共済融資保証料補給事業におきまして、139万円を減額いたしております。

3-42、43ページを恐れ入りますが、お開き願いたいと思います。

内容は、商工貯蓄共済融資保証料補給補助金等減額でございます。

この事業は、商工会が斡旋する商工貯蓄共済融資制度、これへの加入促進のため、融資の際に発生する保証料を補給することにより、商工会員の福利厚生と経営基盤の安定を図るものでございます。これも実績に基づいて減額をいたすものでございます。

ここで恐れ入りますが、歳入のほう、3-16、17ページをお開き願いたいと思います。

こちら、歳入の説明でございますけれども、13款使用料及び手数料・1項使用料・6目商工使用料におきまして105万9,000円を追加いたしてございます。

これは、十文字工業団地内で操業されております企業さんのうち、調理用麺を製造されている企業について、事業量の増加に伴い水道の使用量が増加傾向にありますことから、今回増額いたしたものでございます。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 安永観光総務課長。

○観光総務課長（安永一男君） 引き続き、4目観光費といたしまして1,310万8,000円の減額であります。

右側の説明欄016観光事業特別会計繰出金につきまして、1,310万8,000円の減額です。内訳といたしまして、ふるさと納税優待券等入洞者、ジオパーク関連学校児童入洞者、秋吉台高原マラソン及びカルストウォーク参加者等の入洞者に関します収入補填金となります。

また、観光施設の改修工事の財源といたしまして、一般会計より長期貸付金を借り受けておりますが、この事業に充当いたします金額を減額したことによります。

金額の内訳は、収入補填分が109万2,000円の増、長期貸付金が1,420万円の減であります。

以上、説明を終わります。

○委員長（猶野智和君） 志賀農林課長。

○農林課長（志賀雅彦君） 続きまして、８款土木費・１項土木管理費・２目地籍調査費です。

説明欄の００３地籍調査事業におきまして、１，１６２万９，０００円の減額をしております。これは、実績及び測量委託料に係る入札減等によるものです。

なお、この事業の歳入といたしまして、県支出金８２２万円を減額しております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 中村建設課長。

○建設課長（中村壽志君） それでは、その下でございます。２項道路橋梁費・１目道路維持費につきまして、委託料と工事請負費と公有財産購入費と補償、補填及び賠償金を合わせまして、３，４７５万円を減額するものでございます。

右のページの説明欄００１道路維持事業のうち、測量設計委託料として、２００万円の減額を計上しております。

これは、大嶺町東分地内の市道街路灯補修に伴う測量設計委託料でございまして、このたびの工事は、既設街路灯の灯具交換等の修繕を行ったことにより、測量設計業務の必要がなくなったため、減額するものでございます。

続きまして、その下、道路整備工事として、３，２００万円の減額を計上しております。

これは、大嶺町奥分地内で施工しております市道麦川桃ノ木線法面对策工事でございます。平成２８年度の社会資本整備総合交付金の国費配分額が、要望額に対して大幅な減となったことにより、継続箇所につきましては、工事完了いたしました。新規箇所につきましては、今年度中の施工が困難となったため、県と協議し、その工事費を減額し、改めて、平成２９年度予算に計上するものでございます。

続きまして、その下、土地購入費２５万円と補償金５０万円の減額を計上しております。

これは、先ほど申し上げました市道麦川桃ノ木線法面对策工事の新規箇所の土地購入費と立木・電柱移転等補償金でございます。先ほどと同様に、交付金の配分額が要望額に対して大幅な減となったことにより、県と協議し、改めて、平成２９年度予算に計上するものでございます。

なお、事業の歳入といたしましては、国庫支出金として、2, 135万円を減額しております。

続きまして、次のページをお開きください。3-44ページ、45ページでございます。

5項住宅費・1目住宅管理費につきまして、委託料と負担金、補助及び交付金を合わせまして、339万5, 000円を減額するものでございます。

右のページの説明欄002住宅・建築物耐震化促進事業のうち、木造住宅耐震診断事業委託料として、31万円の減額を計上しております。

これは、耐震診断を申請された方が1名であったことにより、不要額を減額するものでございます。

続きまして、その下、建築物耐震診断事業補助金として、200万円の減額を計上しております。

これは、希望者が無かったことにより、不要額を減額するものでございます。

続きまして、その下、説明欄003高齢者向け優良賃貸住宅事業のうち、家賃減額等補助金として、108万5, 000円の減額を計上しております。

これは、事業者がバリアフリー仕様や緊急通報装置の設置など、一定の整備基準を満たして供給する高齢者向け賃貸住宅への家賃減額等補助金でございまして、入居者が減少したことなどにより、不要額を減額するものでございます。

なお、事業の歳入といたしましては、国庫支出金として、169万8, 000円を、また、県支出金として、85万円を減額しております。

続きまして、その下、2目住宅建設費の工事請負費につきまして、74万6, 000円を減額するものでございます。

これは、右のページの説明欄001公営住宅等整備事業の施設整備工事でございます。入札減に伴う減額でございます。

なお、事業の歳入といたしましては、本来、この事業費の50%が国庫支出金となりますが、県と協議し、平成29年度においても公営住宅施設整備工事がありますことから、今年度の社会資本整備総合交付金当初配分額を据え置き、平成29年度において過充当分の調整を行うことになりましたので、上段の住宅管理費で減額した国庫支出金169万8, 000円を追加しております。

以上でございます。



○委員長（猶野智和君） 有吉消防次長。

○消防次長（有吉武士君） それでは、消防費について説明をさせていただきます。

資料同ページ3－44、45ページをごらんください。

9款消防費・1項消防費・1目常備消防費について、24万9,000円減額するものであります。

これは、説明欄009消防・防災施設等整備事業、はしご付消防自動車の更新整備における入札減によるものです。減額に伴い市債等財源の更正を行っております。

続きまして、2目非常備消防費について、73万2,000円減額するものであります。

これは、資料3－45ページ、説明欄003消防団拠点施設等整備事業の消防団消防自動車、美東方面隊綾木第1部隊の積載車になりますが、及び005石油貯蔵施設立地対策補助金事業の消防団消防自動車、こちらの車両は秋芳方面隊岩永第3部隊の積載車、この2台の更新整備における入札減によるものです。

また、ここで資料ページを移っていただきますが、資料3－22、23ページをごらんください。

15款県支出金・2項県補助金・7目消防費県補助金、説明欄の石油貯蔵施設立地対策等補助金が当初計画から86万3,000円追加決定されたことに伴い財源更正を行っております。

資料3－44、45ページにお戻りください。

続きまして、3目消防施設費について、127万円減額するものです。これは、資料3－45ページ、説明欄の001消防・防災施設等整備事業として耐震性貯水槽2基を整備、1基は伊佐町下村、もう1基は美東町綾木薬王寺、及び既設防火水槽の解体を1カ所、場所は伊佐町下村、それぞれにおける入札減によるものです。減額に伴い市債等財源の更正を行っております。

以上で消防費の説明を終わります。

○委員長（猶野智和君） 野尻教育総務課長補佐。

○教育総務課長補佐（野尻 悟君） それでは、3－46、47ページをお開きください。

10款教育費・1項教育総務費・2目事務局費、説明欄003臨時職員人件費において、育休・病休の代替職員が当初の見込みより少なかったことにより、賃金を32

5万6,000円減額するものであります。

次に、説明欄005教職員住宅管理事業において、266万6,000円を減額するものであります。

これは、中村教職員住宅の解体工事の入札減であります。

○委員長（猶野智和君） 長谷川学校教育課長。

○学校教育課長（長谷川 裕君） 続きまして、5目外国青年英語指導事業費でございます。説明欄001外国青年英語指導事業において138万8,000円減額しております。

これは、外国語指導助手3名が全員契約の更新を行い、異動がなかったことにより、帰国旅費、研修旅費、JET渡航費用負担金等が当初見込みより少なくなったため減額するためです。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 野尻教育総務課長補佐。

○教育総務課長補佐（野尻 悟君） 続きまして、2項小学校費・1目学校管理費、説明欄001臨時職員人件費において、賃金145万8,000円減額するものです。

これは、東厚小学校において、県費による学校事務職員が配置されたことによるものであります。

次に、説明欄002スクールバス等運行事業において、委託料を実績見込みにより、また、スクールバス購入費を入札減により合わせて200万4,000円を減額するものです。

次に、説明欄003小学校管理事業において、小学校の校務用パソコン購入に係る入札減により、253万3,000円を減額するものです。

これらに伴う特定財源として、スクールバス購入に係る国庫支出金を84万円減額するものであります。

続きまして、3目学校施設費、説明欄001小学校施設整備事業において、259万円を減額するものです。

これは、大嶺小学校いす式階段昇降機設置工事等の入札減であります。

次に、説明欄002秋芳桂花小学校整備事業において8,502万4,000円を追加するものです。

これは、桂花小学校の校舎建設工事を平成28年、平成29年度の2カ年で行って

おりますが、これに併せて屋外整備工事を行うこととしておりました。屋外整備工事については、平成29年度事業採択に向けて要望を行ってきたものですが、国の平成29年度補正予算の成立を受けて、平成29年1月11日に補助事業の内定があったため、工事請負費1億2,074万4,000円を追加し、旧秋芳北中学校の校舎解体工事の入札減3,572万円を減額するものです。

屋外整備工事は、体育倉庫や農機具置き場などの付属建築物新設・改修工事やウッドデッキなどの広場整備工事、正面通路拡幅工事、構内舗装整備工事や遊具・砂場の設置などを行うこととしております。

次に、説明欄003太陽光発電施設設置事業において79万9,000円を減額するものです。

これは、大田小学校太陽光発電施設設置工事の入札減であります。

次に、説明欄004長寿命化改修事業において1,143万2,000円を減額するものであります。

一枚おめくりいただきまして、3-48、49ページをごらんください。

これは、厚保小学校の長寿命化改修に係る設計委託料の入札減であります。

次に、説明欄006小学校空調設備整備事業であります。

これは、淳美小学校の空調設備設置工事について、平成29年度事業採択に向けて要望を行ってきたものですが、国の平成28年度補正予算の成立を受けて、平成29年1月11日に補助事業の内定があったため、既存建物調査業務委託料40万円と淳美小学校の空調設備工事に係る工事請負費1,440万円を追加するものです。

工事請負費につきましては、大嶺小学校、伊佐小学校、大田小学校、秋吉小学校を28年度に空調設備の整備工事を行っておりますが、その入札減483万8,000円と相殺いたしまして工事請負費を956万2,000円追加するものでございます。

淳美小学校の空調設備整備工事は、普通教室8教室に空調設備を整備することとしております。

一枚お戻りいただきまして、3-46、47ページをごらんください。

これらに伴う特定財源といたしまして、国庫支出金につきましては、まずは、秋芳桂花小学校整備事業に係る公立学校施設整備費負担金が、市の予算額にかかわらず、1年目3割、2年目7割の割合で交付されるため、5,543万8,000円を追加し、また、秋芳桂花小学校の屋外整備工事に係る学校施設環境改善交付金を1,351万

7, 000円追加、さらに淳美小学校の空調設備整備工事に係る学校施設環境改善交付金を384万7, 000円追加、合わせて7, 280万2, 000円追加するものであります。

3-48、49ページをごらんください。

3項中学校費・1目学校管理費、説明欄001中学校管理事業において、中学校の校務用パソコン購入に係る入札減により、146万2, 000円減額するものです。

次に、説明欄002スクールバス等運行事業において、委託料を実績見込みにより486万1, 000円減額するものです。

続きまして、2目教育振興費、説明欄001中学校情報化設備整備事業において、秋芳中学校の教育用パソコンの購入に係る入札減により、133万6, 000円減額するものです。

続きまして、3目学校施設整備費、説明欄001中学校施設整備事業において、秋芳中学校の体育倉庫新築ほか工事の入札減によりまして、248万8, 000円減額するものです。

説明は以上です。

○委員長（猶野智和君） 古屋生涯学習スポーツ推進課長。

○生涯学習スポーツ推進課長（古屋敦子君） 続きまして、その下、5項社会教育費・3目図書館費において、説明欄003図書館管理運営事業において10万円を追加しております。

これは、西中国信用金庫から、西中国信用金庫誕生10周年記念事業として、図書館の図書購入のため10万円の寄附をいただいたことから、備品購入費の図書費を追加しております。

なお、歳入におきまして、同額の10万円を、社会教育費寄附金として追加しております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 末岡教育委員会事務局次長。

○教育委員会事務局次長（末岡竜夫君） その下でございますが、7目秋吉台科学博物館費でございます。博物館管理運営事業におきまして221万1, 000円減額するものでございます。

これは、博物館におきまして学芸員の補助として博物館施設等で専門的業務を行う

ための特別専門員を当初４人の予定で予算計上しておりましたが、１年を通して３人で業務を行うことができましたので、特別専門員１人分の報酬と保険料を減額するものでございます。

○委員長（猶野智和君） 野尻教育総務課長補佐。

○教育総務課長補佐（野尻 悟君） それでは、３－５０、５１ページをお開きください。

６項保健体育費・３目給食施設費、説明欄００２給食調理場管理運営事業において、実績見込みにより、賃金を２００万８，０００円減額し、ガス代の入札単価増により、燃料費を１６７万２，０００円追加するものでございます。

説明は以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 志賀農林課長。

○農林課長（志賀雅彦君） 続きまして、１１款災害復旧費・１項農林施設災害復旧費・２目補助災害復旧費において、３６０万９，０００円を減額しております。

説明欄の００１現年農林施設補助災害復旧事業におきまして、国の査定により工事費が減額されたため、測量設計委託料１００万円、災害復旧工事費２６０万９，０００円を減額するものです。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 竹内財政課長。

○財政課長（竹内正夫君） 続きまして ３－５２、５３ページをお開き願います。

１２款公債費におきまして、元金を１３万５，０００円追加する一方で、利子８４５万６，０００円を減額いたしております。

これは、地方債償還金の利率見直しに伴い、元金と利子の構成が変更になったことから元金と利子を調整したことによるものでございます。

以上が歳出の説明であります。続いて、歳入を担当課から説明します。

○委員長（猶野智和君） 細田総務部次長。

○総務部次長（細田清治君） 続きまして、歳入につきまして御説明申し上げます。３－１４、３－１５ページをお開きください。

１款市税・１項市民税・２目法人でございます。

施設の現年課税分の法人税割を６，３００万円減額するものでございます。

市内約６２０の法人のうち、例年約２４０前後の法人が法人税割を収められておら

れます。当初予算については、過去の実績や一部の事業所で企業収益が好調なところがあることから予算計上しておりましたが、平成28年度中の決算による確定申告で前年度より大幅な税額減の申告をされた事業所があることから、法人税割の決算見込みが当初予算の額を下回るため、減額するものでございます。

次に、2項固定資産税・1目固定資産税でございます。

1節の現年課税分を5,500万円追加するものでございます。主な要因は償却資産において、山口県設備投資動向調査を参考に当初予算を計上しておりましたが、企業の設備投資の実績が当該調査を上回ったため、追加するものでございます。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 竹内財政課長。

○財政課長（竹内正夫君） 続きまして、歳出の説明の際に御説明申し上げていない特定財源以外のものについて御説明させていただきます。

9款地方特例交付金につきましては、交付額の確定を受けまして、61万4,000円を追加いたしております。

また、その下の10款地方交付税でございますが、地方交付税額の確定に伴い1億7,933万1,000円を追加しております。

続きまして、市債について御説明いたしますので、3-24、25ページをお開きください。

市債につきましては、冒頭でも申し上げておりましたとおり、事業量の増減に伴う調整と過疎対策事業債ソフト分の借入枠の追加等による補正を行っており、全体では4,480万円の追加となったところでございます。

続きまして、3-6ページへお戻り願います。

ここでは、第2表継続費の補正をお示しいたしております。児童クラブ設置整備事業及び秋芳桂花小学校整備事業について、事業費の変更に伴い限度額の補正をしております。

続いて、その横の3-7ページをごらんください。

ここでは、第3表繰越明許費として、6事業をお示しいたしております。

このうち、まず、10款教育費・2項小学校費の2つの事業につきましては、国の補正にかかわる事業実施による繰り越しであります。

その他の事業につきましては、個別の理由により、年度内の事業完了が見込めない

事業を繰り越すものでございます。

次に、債務負担行為の補正の御説明を申し上げます。次の３－８ページをお開きください。

M i n e ワクワク住マイル事業ほか２件について限度額の変更を行っております。

続いて、その横の３－９ページをごらんください。

ここでは、第５表地方債の補正をお示しいたしております。

記載のとおり、福祉医療助成事業ほか４事業について追加するとともに、低公害車導入事業債ほか８事業について、限度額の変更を行っております。

以上で、議案第３号平成２８年度美祢市一般会計補正予算（第９号）についての説明を終わります。

○委員長（猶野智和君） 説明が終わりました。この際、１０時４５分まで休憩いたします。

午前１０時３４分休憩

-----  
午前１０時４５分再開

○委員長（猶野智和君） 休憩前に続き、委員会を開きます。先ほど説明が終わりました。本案に対する質疑はございませんか。三好委員。

○委員（三好睦子君） お尋ねいたします。３－２９ページなのですが、０１２の情報通信施設運営事業でコミュニティＦＭの開局が見込めないと説明があったのですが、今後も開局はないということなのでしょうか。

○委員長（猶野智和君） 中嶋地域振興課長。

○地域振興課長（中嶋一彦君） ただいまの三好委員の御質問にお答えいたします。先ほど御説明しましたのは、今年度、平成２８年度の開局が見込めないという御説明をしたことでありまして、今後も見込めないということではございません。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 三好委員。

○委員（三好睦子君） ありがとうございます。聴覚障害者の方もいらっしゃるのなるべくよろしくお願いいたします。

○委員長（猶野智和君） ほかにございませんか。安富委員。

○委員（安富法明君） ４件ほどお聞きします。まず、今のページなのですが、３－２

9 ページ、財産管理費の住宅団地管理販売事業なんですが、これ来福台の宅地の販売ということで業務委託料が減額になっております。基本的に、どこに、委託先がどうなのかということと、実績がわかればお答えをいただきたいというふうに思います。

その下の、今の三好委員の質問にあったFM美祢ですね。開局が遅れたということなんですが、それはそれでいいんですが、何て言いますか、防災無線の関係で、FM美祢が利用できないかっていうことで検討されているようなことも聞いたような気がするんですが、そういう事実があるのかどうなのか。これ、一般質問等に出ているようなので検討されているのかどうなのかだけをお聞きをしたいというふうに思います。

それから、3－4 1 ページに有害鳥獣対策の追加の補正が出ております。これ、補助金が増額になっているわけで、従来ですね、有害鳥獣捕獲に対する補助については、総額で決めたら、事業内容といいですか、捕獲頭数が多くなった場合単価が下がって、それ以上は、何て言いますか、予算の範囲内で事業をされていたような記憶があるんですが、昨今の情勢があるわけで、捕獲頭数がふえれば予算は増額していくよっていうお考えになっておるのかどうか。

それから、3－4 7 ページをお願いします。学校建設にかかわる入札減についてお聞きをしたいんですが、桂花小学校の施設除去工事——まあ解体工事ですね、3, 500 万円の入札減で、当初予算をお示しいただいて、ちょっと入札減がかなり大きいように思うんですが、基本的に見積もりが適切じゃあないんじゃないかというふうなことを思ったりします。その下の、長寿命化改修工事のこれは設計ですかね。設計委託料もかなり大きいように思うんですが、当初予算との比較を示していただいて、今言いましたような当初の見込みが適切じゃあないんじゃないかというふうなことに對するお答えをいただきたいというふうに思います。

以上です。

○委員長（猶野智和君） はい、竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） 今、安富委員が話をされたんで、私関連として、本市の入札制度というのはきちんとされているということで日頃から評価をしていたわけですが、最近ちょっと低入札について、いろいろ話を耳にするわけですが、28年度ですね、できれば、今桂花小学校と長寿命化改修事業ですか、これ多分厚保のことだろうと思うんですが、にかかわらず、あちこちで入札減がかなり多く見られます。したがって金額じゃあなくて率なんですが、低入札率の非常に高いものがあると思うんです。



その——できればちょっと、リストを示していただきたいなあと思うんですね。

それから、もうひとつは低入札になった場合の工事が、いわゆる所期の目的どおりできるかどうかということで、何らかの審査基準かなんかあるだろうと思うんですね。その場合の取り扱い、これをひとつ安富委員の関連ということで、委員長に受け止めていただきたいと思います。

○委員長（猶野智和君） 佐々木企画政策課長。

○企画政策課長（佐々木昭治君） 安富委員の御質問にお答えいたします。まず最初に住宅団地管理販売事業におきます業務委託料につきましての御質問でございます。

こちらのほう、美祢住宅団地来福台の7丁目において本年度、住宅団地定住促進業務を行うこととしておりました。

これは具体的には、当初来福台7丁目において建売住宅販売を行う事業者を募集し、参加事業者による協議会、当初予定区画は10区画予定しておりましたが、住宅販売業務を委託することとしておりました。募集しましたところ事業者が1社、1区画のみであったことから、事業見直しをし、来福台7丁目において建売住宅、または注文住宅を建築する事業者に対して、合同住宅見学会への参加、合同イベントへの協力、基礎工事見学会の開催、完成予想図の作成並びに看板の設置を求めて事業者を再度募集しましたところ、2事業者から4棟の参加がありました。4区画の販売という形になりますけれど、がありました。

しかしながら、当初予算で見込んでおりました10区画よりは参加件数が少なかったことから、このたび業務委託料を1,000万円減額するものでございます。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 安富委員。

○委員（安富法明君） 努力をされていることは、よく分かっているつもりなんです、今の状況を伺う限りでは、委託業者といたしますか、まあ不動産屋さんでしょうね、等の応募がないっていうふうな答えのように聞こえるんですが、それに対する対策っていいですか、今の状況が人口が減る時代ですし、ただ金利は安いですが、勤め先の関係もあるでしょうから、なかなか一筋縄ではいかないというのは分かるんですが、その辺の対策ってというのはどういうふうなあれがとられているんでしょうか。

○委員長（猶野智和君） 佐々木企画政策課長。

○企画政策課長（佐々木昭治君） 安富委員の再質問にお答えをいたします。現状、販

売がなかなか厳しいんじゃないかということなんですけれども、先ほど業務委託、来福台の7丁目で販売したのは7区画ではありますが、全体で申し上げますと、その委託料の伴わない販売に伴いますと、今年度8区画売っております。来福台が7区画、りんどうの丘が1区画で8区画となっております。ですが、当初目標でありました16区画までは売却ができておりません、ということで来年度は再度、今度は3カ所の美祢市住宅団地の売買において、市と宅地購入希望者の売買契約や宅地引き渡し、所有権移転等、売買の業務の仲介を行った宅地建物取引業者に対して販売奨励金を交付する制度や3カ所の美祢市住宅団地において、住宅の見学会を2日以上行った事業者に対して実施奨励金を交付する制度などを実施することとしております。

また、もう既に今年度も行っております、もう2回伺っておりますが、山口と宇部にあります住宅展示場における、そちらに出向いて、職員が住宅販売っていいですか、住宅を求められる方とのお話しをする機会をつくるようにしております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 大野総務部次長。

○総務部次長（大野義昭君） それでは続きまして、今現在準備が進められておりますFM美祢の開局に、防災無線等の活用を考えておられるかという御質問ですけれども、市としましては、コミュニティFMを活用した防災情報の配信というのを現在考えておりますので、この開局に向けてこの防災情報を配信するための支援等ができればするということで方針を立てております。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 安富委員。

○委員（安富法明君） この件は、先ほど言いましたけれども一般質問が出ておるようですので、後にお譲りをすると言いますか、お任せをしますけれども、よろしく願いしたいと思います。次をお願いします。

○委員長（猶野智和君） 志賀農林課長。

○農林課長（志賀雅彦君） 安富委員の有害鳥獣捕獲奨励事業に関する御質問ですが、狩猟者の捕獲意欲が低下すること考えられますので、予算内の按分した補助金というのではなく、年度当初で示した金額を今後も支払っていきたいと考えております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 安富委員。今の鳥獣の件ですか。

○委員（安富法明君） 分かりました。次なんですけど、どうでしょう。竹岡委員の質問が……。

○委員長（猶野智和君） 今、次お答えいただきますけれど。

○委員（安富法明君） じゃあ、そうしてください。

○委員長（猶野智和君） 野尻教育総務課長補佐。

○教育総務課長補佐（野尻 悟君） 秋芳桂花小学校の施設除去工事と長寿命化改修事業の設計委託料のそれぞれの当初予算額等の御質問でございますけれど、まず、秋芳桂花小学校の施設除去工事につきまして、当初予算では6,295万7,000円を見込んでおりました。最終的な契約金額は2,709万6,120円で契約をしております。

それから、長寿命化改修事業の設計業務委託料でございますが、当初この業務にかかりまして予算を3,676万円で見込んでおりました。こちらの設計業務の最終的な契約金額は2,277万3,960円で契約をしております。それぞれの差額につきまして、減額の補正をしておるところでございます。（「何%かね」と呼ぶ者あり）済みません、お待たせをいたしました。秋芳桂花小学校の施設除去工事につきましては、当初予算額と最終的な契約金額と比べまして、43%の金額で契約しております。それから、長寿命化改修事業の設計委託料につきましては、64%となっております。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 先ほど竹岡委員からもお話ありましたが、低入札のリストですとか、低入札の審査基準（「委員長、教育委員会じゃあないですよ。私が言っているのは一般論」と呼ぶ者あり）はい、田辺総務部長。

○総務部長（田辺 剛君） 竹岡委員のほうから、御質問があった件については、すぐにお答えできませんのでちょっとお時間をいただけたらと思いますが、あすでもよろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）それでは、あす資料をお示しして。

○委員長（猶野智和君） 竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） そうしますとですね、きょう恐らく午前中にこの補正予算終わるだろうと思うんですが、じゃああしたその資料をもとに29年度の予算の時でも併せて入札のいわゆる低入札をどうやって——もう一つ答えられるのがあるんじゃないですか。低入札後の何か、そのままということはないと思うんですね。初期の目的ど

おり、きちんとやれるかやれないかという何かをやられるはずだというふうに思っておりますので、その辺は説明いただきまして、後は委員長、あすでも時間いただけますか。

○委員長（猶野智和君） はい。田辺総務部長。

○総務部長（田辺 剛君） 低入札、低価格での入札があった場合には一旦、落札保留をして、その価格で適正な工事ができるかどうかという、低入札価格調査っていうのを内部の決まりに沿って実施しておりますが、その要綱なりに沿って実施しておりますが、その要綱等についてもあしたお示しさせていただいたと思います。

○委員長（猶野智和君） 安富委員。

○委員（安富法明君） 竹岡委員のほうから関連で質疑があるわけですが、とりあえず、その、例えば解体工事の当初予算に対して43%というのは、どう考えても普通じゃあないような気がするんですよね。安けりゃええっちゃうもんでも、まあ解体するんですから、まあ、ねえ、あと成果が出るわけでもないですから安いほうがいいよっていう話があるかもしれませんが、先ほど言いましたように当初の見積もりが荒いじゃあないかというような話にも当然なりますよね、こういう数字が出てくると。

その辺のことを実質どのように、発注者側としては考えられる、お考えなのかっちゃうことですよ。この長寿命化のほうの64%っていうのも、35%落ちるっていうのもまあ、僕も事業をやっているわけじゃあないからよう分かりませんが、これものかなりのものだというふうに思うんですよね。その辺についての、その主管課っていいですか、発注者としてのお考えっていうのはお示しをしておいていただきたいというふうに思うんですがね。後の対策もあるでしょう。それはまた譲りましょう。

○委員長（猶野智和君） 田辺総務部長。

○総務部長（田辺 剛君） 先ほどの竹岡委員の御質問のお答えの中でも申し上げましたが、低価格で入札があった場合には一旦保留をして、そして適切に工事ができるかどうかということを調査をして、確認できた場合に、その落札ということでやっておりますので、ちょっとその、工種によって、土木工事と建築工事、まあ工事によってその判断の基準が若干変わっておりますので、この除去工事についてはその辺りの調査をした結果、適切に工事がされるというふうに判断をして落札をしたものというふうに考えております。ですから、おっしゃるとおり安ければいいというものではないと考えておりますので、適切に工事がされるという確認がとれないと発注者としては

発注すべきではないというふうに考えております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） よろしいですか。西田建設経済部長。

○建設経済部長（西田良平君） いわゆる見積もり、積算としての妥当性ということであると思いますが、工種によりまして、土木工事というのは県のほうのかなり詳細な部分まで積算体系というのがもうすでに構築されている状況にありますが、建築部分につきましてはある程度やはり見積もり等を取りながら、最終的には設計書、積算書に仕上げていくっていうケースもあります。

今、この施設の除去工事について妥当であるかどうかについては資料が今ございませんので、我々のほうとして調べた上で、またあすにでもお答えできるところがあるかと思います。あすでもお答えしたいと思います。

○委員長（猶野智和君） 安富委員。

○委員（安富法明君） 分かりました。じゃあ併せて、竹岡委員の質問されました件と同じことなので、委員長のほうでそのように計らってください。お願いします。

○委員長（猶野智和君） ほかにございますか。戎屋委員。

○委員（戎屋昭彦君） 3－31の地域公共交通総合連携事業の生活バス路線についてちょっとお聞きしたと思います。先ほどの説明で運賃収入減、車両の補修等で1,980万ほど費用がかかりますということで説明があったと思うんですが、これにつきまして、当初の見込みで運賃収入がどのくらいで、昨年に比べて利用者数、もしくは運賃収入がどのように移行したか、それについてまたかなりの路線系統があると思うんですけれど、その辺り全般的に収入が減ったものか、ある地域が減ったのか、その辺り分かれば教えていただきたいと思います。

○委員長（猶野智和君） 中嶋地域振興課長。

○地域振興課長（中嶋一彦君） ただいまの戎屋委員の御質問にお答えいたします。当初の予算ですけれども、1億2,087万4,000円に対してこのたびの決算見込みが1億4,070万6,000円となっております。

こちらのほうですが、こちらの対象期間につきましては平成27年10月1日から平成28年の9月30日までの間の対象と、路線につきまして対象となっております。その間の利用者数ですけれども、全体で約3%の減少となっております。特にこの地域が極端に減ったということは、ばらつきは特にはありませんけれど、収入に

関しましては利用者数が３％減ったということ、それから費用につきましては——経常費用ですね——費用につきましては大きな要因といたしましては、バスの老朽化に伴います修繕費が大きな要因となっておりますことからそちらの費用の方も増加したというところが原因となっております。よろしいでしょうか。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 戎屋委員。

○委員（戎屋昭彦君） あ、今の説明の中でいろんな老朽化ということで費用が増大したということでございますので、またこれ、来年度の予算の件でバスの費用も計上していらっしゃると思いますんで、またそちらのほうでまたお話しを聞きたいと思います。

○委員長（猶野智和君） 竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） 関連ばかりで申し訳ございませんが、今、バスの老朽化により修繕費がふえてきたということですので、ちょっと分かればお答えいただきたいんですが、美祢市がこの事業に対して用意しているバスがいったい何台あるのか。

それから当然老朽化により修繕費がふえてくるということになるならば、耐用年数がどの程度経っているのか。それから、今後の更新をしていかなくちゃこの事業そのものが成り立たなくなってくるんじゃないかなという気がいたします。

それからもう１点は、利用者、お互いがこれをどうやって利用率を高めるかっていうのは行政のほうも、それからダイヤとかありますから乗られる方の利便性もあるだろうし、それから事業を受けておられるバス会社のほうも、まあいろいろお互いがよくなくちゃあいけませんので、その辺の利用拡大策をどうお考えなのか、その点についてお示しできればしていただきたいなと思います。

○委員長（猶野智和君） 中嶋地域振興課長。

○地域振興課長（中嶋一彦君） ただいまの竹岡委員の御質問にお答えいたします。全てお答えできませんが、お答えできるものをこの場でお答えしたいと思います。

現在、美祢市で用意しております——用意しておりますというか、こちらのほうで当初から用意しておりますバスにつきましては、広域バス路線以外、つまり具体的にはコミュニティバスでありますアンモナイト号です。アンモナイト号は現在６台あります。６台のうち、２台ほどは——済みません、確かな年はちょっとここでは記憶にありませんけれども、６台のうち一番古いものです。一番古いものが平成１２年３月

に購入しております。一番新しいものですが、平成16年2月に購入しております、まず、4台分ですね、平成12年、14年、16年に購入しているバスでございますけれども、こちらの購入につきましては、県の廃止路線代替バス運行事業補助金というものが当時ありましたので、そちらのほうで県のほうと市のほうで購入しているという実績があります。それから残りの2台ですが、平成13年、14年2台ほど購入しております。こちらのほう、もともとカルスト号で使用しておりましたバスを、国の交付金事業を利用しまして改造いたしまして現在利用しております。

運行距離の方ですが、1番古いものが——一番長いものが94万キロ、現在の運行距離で94万キロというものがあります。で、一番走行距離が短いものに関しましても50万キロになっておりまして、バス事業者からの聞き取りによりますと、運行距離はだいたい10万キロぐらいが目安だろうというふうには聞いております。——済みません、100万キロです。申し訳ございません。100万キロが目安というふうに聞いております。こちらのほう、現在の補助制度も今後よく調査いたしまして、当初は先ほどお話ししましたように県の補助制度がありましたけれども、こちら国、または県の補助制度、または交付税の措置があるかどうかその辺も検討いたしまして、今後の購入等につきましては考えていきたいというふうに思っております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） よろしいですか。ほかにございませんか。秋山委員。

○委員（秋山哲朗君） それでは、2点ほどお伺いしたいと思います。3-37の衛生費の清掃費のことなんですけれども、合併処理浄化槽設置整備事業補助金838万4,000円を減額されておられます。先ほどちょっと聞き漏らしたんですけれども、60件の予算を組んでおられて何件だったのかとですね、全体の金額、昨年の予算を持っておりませんけれど全体の金額がいくらだったかということをお教えいただきたい、いうのと、そしてその下水道、そして集落排水以外が恐らく合併処理浄化槽の整備がされると思いますけれども、今普及率がどのくらいになっておるんかということをお聞きしたいと思います。

そしてもう1点、その下の廃棄物リサイクル推進事業、これも300万円、先ほどの説明ではごみ袋の入札減ということでありました。実は昨年、ごみ袋の指定ごみのごみ袋の会社が変わったということで、一時ちょっと薄いんじゃないかと、破れやすいんじゃないかという話があったと思います。それが、恐らくこの入札減が影響した

と思いませんけども、それからどういうふうに改善されたか、この金額も今300万円減額されておられる、トータルでいくらであったのかということを、併せてお尋ねしたいと思います。

○委員長（猶野智和君） 池田生活環境課長。

○生活環境課長（池田正義君） 秋山委員の御質問にお答えします。まず、合併処理浄化槽の件なんですけど、28年度の申請見込みは40件の予定でございます。当初の予算が2,330万4,000円ということになっております。

続きまして……。 （「減額になったものが40件のうち何件なかったんです」と呼ぶ者あり）20件……。 （「20件しかなかったっていうこと」と呼ぶ者あり）いやいや、40件ございました。 （「60件のうち40件ということ」と呼ぶ者あり）はい、20件分を減額補正ということになります。

それと、その下の塵芥処理費のごみ袋の件でございます。ごみ袋に関しましては、当初の予定価格が——当初の予算額が、これちょっとすべて……ちょっと消耗品費が全部入ってますので、ごみ袋だけとは限りませんが、1,915万6,000円が需用費の予算額でございまして、入札額が1,254万5,172円ということで、落札率が65.5%というふうになっております。

で、秋山委員のおっしゃった、確かにごみ袋が裂けやすいという事案が発生しております、このたび28年度落札された業者が初めての業者でございました。ただ、入札は指名競争入札をしておりますけども、その指名競争入札にあたって仕様書というのを作成しておりますが、仕様書自体は約10年ぐらい前から変わっておりません。

ちなみに、こういった内容かを申し上げますと、厚さが0.04ミリメートル、誤差範囲が0.008ミリメートル、材質が高密度ポリエチレン100%、いわゆる乳白色のレジ袋と思っていただいてもいいんですが、としております。

で、厚みに関してだけ規定がありまして、あとはカルストクリーンセンターで処理をするわけなんですけど、カルストクリーンセンターは御承知のとおり、焼却する施設ではございません。粉碎機でごみを破碎して固形燃料化にしておりますけども、あまり破碎しにくい素材ですと施設が止まるということで、ある程度は破碎しやすい素材というふうになっております。

で、このたび落札された業者に、こういった事案が起こるということを伝えまして、製造元に原因を究明するように伝えましたけども、理由としましては、収集袋の製造



過程における裁断時の不具合と、原料を混在する際に隔たりがあったということを文書回答いただいております。

で、ごみ袋の納期自体は9月と1月というふうに2回に分けておりまして、ごみ袋が裂けやすい事態が起こったのが9月に納品されたもので、その後のこちらからの改善要望によりまして、1月に納品されたものについては、ランダムに実証試験をしましたが、一切もう裂けるということはございませんでした。

ただ、9月に納品された品物がまだまだありますので、1月に納品されたものと入れかわるには、しばらくまだ時間を要すると思いますので、市民の皆様には大変御迷惑をおかけすると思いますけれども、御理解と御協力を賜りたいと思います。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 秋山委員。

○委員（秋山哲朗君） 今の回答が、やはり65%の入札率という中で、基準がないからそれを使ったんだということですね。そして、やはりその破れやすいということは、私のところだけじゃなしに、市のほうにもそういう苦情があったと思うんですよ。だから、その辺の品質はきちんと皆さん確かめられないと、今後こういうことが二度と起こらないようにしないと、せっかくごみを詰めたけど、みな出てしまうというふうな苦情が随分きてましたから、ぜひ気を付けていただきたいというふうに思います。

そして、先ほどの合併処理浄化槽の普及率というか、どのぐらいになっておるかという答弁がなされておりますが、その辺は併せてお願いします。

○委員長（猶野智和君） 池田生活環境課長。

○生活環境課長（池田正義君） 大変申し訳ありません。ちょっと普及率のほう忘れておりまして、ちょっと具体的な数字は、また後ほどお答えさせていただくということでもよろしいでしょうか。（「結構です」と呼ぶ者あり）

○委員長（猶野智和君） じゃ、後ほどよろしくをお願いします。はい、杉山委員。

○委員（杉山武志君） 今御答弁の中で、納期が9月と1月のものがあると。で、9月に納品されたものは残ってるから、まだ市場に出回るかもしれない、御容赦くださいというお話だったんですが、業者のほうがその品質管理、原材料に濃淡があったということをおっしゃられているんですから、回収して新たに納品していただくということとはできなかったんでしょうか。

○委員長（猶野智和君） 池田生活環境課長。

○生活環境課長（池田正義君） 杉山委員の御質問にお答えいたします。この全品回収するかどうかは、ちょっと業者と協議したんですけれども、いわゆる不良品となった、裂けやすいごみ袋が全数ということであれば、当然作成のしかえということもあったんですけれども、ただ全数に及ばないかもしれないということで、こちらとしても協議の結果、様子を見ようということになりまして、そのまま今使わせていただいている状況でございます。

それと、秋山委員の中にちょっとありました仕様書の件、今は厚みしかございませんけれども、今回の裂けやすい事態が発生したということで、他市の仕様書の内容も見まして、仕様書の中にそういった項目を加えていこうというふうに、今考えておるところでございます。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 杉山委員。

○委員（杉山武志君） 最近ですね、パソコンのシステムの関係とかもあるんですけど、きちんとした仕事、納品をしていただいておりますから、良心的な判断として回収して、業者さんが再納品されるのが筋だろうと思いますので、その辺も今後踏まえて検討していただけたらと思います。よろしくお願いします。

○委員長（猶野智和君） 御要望ですか。ほかにございますか。はい、岡山委員。

○委員（岡山 隆君） それでは、児童福祉費について質問したいと思います。

3-34、35になります。説明の002ですね、私立保育園保育委託事業2,436万1,000円減額となっております。そして、逆に認定こども園の補助事業、これが1,606万2,000円増額です。こういったところの説明で、公定価格の見直し等があつてからということ、まあ説明がちょっとあつたんですけれども、これについては、認定こども園制度におきまして、公立または私立保育園がですね、児童が今頃幼稚園の園児もそこに行けば延長ですね、保育時間もそういったことができるということで、そういったところで、幼稚園もかなりお母さんが働いた後も長く預けられるようになったということで、今後予算の減額、また認定こども園の補助事業がプラスになっていったという、こういったところで、園児のニーズというのが、私立保育園のほうが減って、そして認定こども園、幼稚園のほうに園児がいつてるといふ、こういったかたちが大きく影響してるということでいいですね。確認です。

○委員長（猶野智和君） 福田地域福祉課長。

○地域福祉課長（福田泰嗣君） 岡山委員の御質問にお答えをいたします。認定こども園、これは御承知のとおり平成２７年度から、こども子育て支援新事業として、幼稚園でも保育園と同じ機能を持たせて、そこで保育園、つまりゼロ歳から未就学児、全体を受け入れましょうという体制になったものでございます。

で、ちょっと古いデータはございませんが、平成２７年に始まりまして、２７年からの現状、保育関係の現状を言いますと、私立の保育園、幼稚園、認定こども園合わせまして、大体３８０名ぐらいの児童さんを見ております。で、ちなみに公立は２１０名ぐらい、これが大体横ばいの状態でございます。

で、ただ、じゃ、私立保育園の現状を見てみますと、２７年から２０人程度ですね、毎年減員をしておる状態でございます。じゃ、逆に認定こども園はどうかと言いますと、これは横ばいでございます。

だから、ある程度その制度が変わる段階で、ある程度移行された方というのは、もちろんおられるかと思いますが、自然減であるとか、そういった辺りもあるのではないかと、一概に認定こども園の預け入れのほうに、私立保育園の児童が流れておるといふふうには言えないのではないかとこのように考えております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 岡山委員。

○委員（岡山 隆君） こういった認定こども園制度というのは、特に都市部において保育園だけでは収容できなくて、幼稚園でしっかりと預かりが長期になっていくようにという、そういう思い入れが強い制度であったと思います。まあ、美祢市に対してはどうかなというところもありますけれども、国の流れの制度ですから。

それで移行も今美祢市は人口減少、子供さんの生まれるのが今、年間で１００人程度ですから、そういったところの今影響が大きいんじゃないかという、こういう御説明もあったわけでありまして。今後この予算額というのが、今そんなに移行はないということと言われましたので、これからの流れとして私立保育園、この委託事業、そういった認定こども園のこの補助事業というのは、今回は補正としてこの数字が出ましたが、今後はこれはあれですかね、今回とはまた違うといえますか、そんなに大きな保育園における、私立の保育園の委託事業においては大きな減額はない、認定こども園を大きくプラスになることはないという見方でいいんでしょうか。その辺をお尋

ねします。

○委員長（猶野智和君） 福田地域福祉課長。

○地域福祉課長（福田泰嗣君） 今のは補助の減額ということでしょうか。（発言する者あり）これは実績に基づいて計算をして補助、国が2分の1、県が4分の1、市が4分の1というふうに出しておりますので、全体的に子供の数が減っておりますから、自然減はあるかと思いますが、徐々に減っていく方向にはあるのではないかというふうに思っております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） よろしいですか。ほかにございませんか。安富委員。

○委員（安富法明君） たびたび済みません。もう1件だけお願いします。

3-27、歳入の市債についてなんですが、説明欄の上から3行目あたり、秋吉台の山焼き事業債ってというのが310万円減額に実はなってます。で、歳出における例えば事業費の減額等があるわけじゃないわけなんですが、基本的に大体1,000万ぐらいの事業費で毎年山焼きをやっております。で、県の補助が百五、六十万あってですね、残りを起債で対応してるような市債——対応してるような予算の形態になってます。で、これが29年になると、その他の財源とかっていうふうに変わってくるわけなんですが、それはともかくとしまして、これについての説明をお願いできたらと思います。

○委員長（猶野智和君） 竹内財政課長。

○財政課長（竹内正夫君） ただいまの御質問についてお答えしたいと思います。28年度につきましては、対象事業費の減少に伴い起債のほうを減額いたしております。

29年度につきましては、財源を振りかえまして違うところから財源をしておりますので、過疎債の需要とか起債の需要とかないということでございます。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） もうちょっと、マイクに近いところ……。

○財政課長（竹内正夫君） 28年度につきましては、起債の充当の対象事業の減少により減少いたしております。29年度につきましては、対象事業費の財源をほかの起債以外の財源からとしておりますので、29年度はないというふうになっております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 安富委員。

○委員（安富法明君）　じゃ、今の説明ですと、要するに起債が認めてもらえにくくなったから、29年度は財源を違うところに求めるよというふうに聞こえるんですが、それはそれとしてですね、結局山焼きを——毎年の恒例事業となってる山焼きをですね、起債で対応するというのもどうかなと、ずっと思ってたんですが、そのことと今言いましたように300万減額、山焼き対策に充てる起債が300万つかなかったよということでしたら、事業費はどうなんでしょうね。普通歳出が減ってきて、じゃ700万ぐらいで山焼きやったのかっていうと、そうじゃないと思うんですよね。一般財源でどっか一緒に込みで出てるよということなんですかね。そういうふうにお聞きをしたと思うんですが、その2件についてお答えをいただけたらと思います。

○委員長（猶野智和君）　竹内財政課長。

○財政課長（竹内正夫君）　先ほどの過疎対策事業債というものを山焼きの起債としてあげておりますけども、この過疎対策事業債のソフト面につきましては、上限額が決まっているという事情もございまして、当然その上限を足してしまってる部分については、どうしても借入れができないということで、その部分については一般財源で対応しているという状況でございます。

以上です。

○委員長（猶野智和君）　安富委員。

○委員（安富法明君）　財政はそれでいいと思うんですよね。これは、また猶野君——委員長一般質問に出しておられるんで話されるかもしれませんが、大変秋吉台の山焼きというのは、先般事故もあるにはあったんですが、基本的には秋吉台を守っていく、景観を守るためには、やはり欠かせない事業だろうというふうに思うわけですが、その事業が、そういうふうなかたちでの財源不足的な印象を与えるようになっていきますか、私にすればそういうふうな感じを持つんですが。そういうことじゃなしに、きちんとした財源を振れないかっていうふうなことを思うわけですね。そういうふうなつもりでお聞きをしたんです。今後のことがいろいろあって、事故に対していろいろなかたちで見直し等もすればですね、当然この事業費が少なくなることはないと思うんです。だから、そういうことを見ながらお聞きをしています。お答えができますでしょうか。

○委員長（猶野智和君）　篠田副市長。

○副市長（篠田洋司君）　ただいまの安富委員の御質問にお答えをしたいと思います。

委員おっしゃるとおりだろうと思います。財源の問題、非常に重要な問題でございます。過疎債のソフトを充てたというのは、過疎債のソフトが市の持ち出し、後年に渡って市の持ち出しが少しでも有利になるということで、財源を充てているわけでございます。

委員おっしゃるとおり秋吉台の管理につきましては、自然公園法に県が管理するというふうに明記されているわけでございます。今後の財源確保については、当然県にも交渉させていただく、また、協議の中でいろんな財源を確保しながら、実施に向けて取り組む方向で、今調整をしておるところでございます。

参考までに、まだ29年度の予算が審議されてないわけでございますけど、このたびのふるさと秋吉台の山焼き事業に関しましては、ふるさと納税を一部財源とさせていただいております。これは、ふるさと納税をされてる方の要望でもございますので、その一部を財源として充てさせていただいております。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） よろしいでしょうか。ほかにございませんか。はい、秋枝委員。

○委員（秋枝秀稔君） お尋ねいたしますけど、3－34でですね、広域保育委託料っていうのがございます。これは、美祢の子供さんが他市町村の保育をお願いするという、こういう事業かと思えますけど、今概算でいいですが、ちなみに何人ぐらい美祢市以外に保育されているか、逆に今度は美祢市が受け入れている子供さん何人ぐらいか、おおよそで結構ですけど、教えていただけたらと思います。

○委員長（猶野智和君） 福田地域福祉課長。

○地域福祉課長（福田泰嗣君） 秋枝委員の御質問にお答えをいたします。広域保育にいたしましては、受け入れ児童数は大体5名ぐらいを受け入れておるところでございます。で、逆に他市からの受け入れがそうですけど、本市から他市へ行かれてる方、これにつきましては、今年の今の現状で言いますと8名ほどおられます。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） よろしいですか。ほかにございませんか。杉山委員。

○委員（杉山武志君） 私からは全般的に言えることなんですが、募集をされたり公募をされたり、各事業でされておりますが、人数に満たない件数に満たないためという理由がですね、相次いで出ております。募集、公募のあり方について、ちょっとお考

えを伺いたいなと思うんですけど。市報ですとか、ちらし等により、市民の方にお知らせ、募集をされておろうかと思えますけど、内容によっては、人が減ってるんだからということで減額されるところもありましょうが、私なんかもよく市民の皆さんからの御質問を受けて、じゃ、ちらし持って行きましょうって言ったところ、ちらしもない、口頭でいくらいくらですと言われたり、そういう状況下もあります。

で、先ほどの合併浄化槽ですとか、新規就農者ですとか、住宅もそうですし、美祢魅力発掘隊ですか、等々ですね、せっかく予算を組まれて市政を組まれておるのに、それが活かされていないという問題にもつながってこようと思います。その政策、施策も良し悪しなのか、その施策が市民の要望にそぐってないのか、その辺も含めて検討していく必要もある問題じゃないかと思いますが、ひとまずは募集、公募のあり方でですね、市報ですとか、ホームページに頼っておる状態だろうと思うんですけど、ほかにお考えがないかお尋ねします。

○委員長（猶野智和君） 公募のあり方、全般な——ちょっと補正からは外れますが、そういうお答えできるのであれば。はい、篠田副市長。

○副市長（篠田洋司君） ただいまの杉山委員の御質問でございます。公募のあり方とというか、周知のあり方であろうかと思いますが、農業関連でありましたら農業集落長会議等、農協とタイアップして説明する必要があるでしょうし、現在もしておりますし、今後もその予定でございます。

で、いかに効率的に効果的に住民に周知するかということは、非常に大事なことでございますので、今の広報、またホームページ、その他有効な手段は、会議等で積極的に周知を図っていききたいというのが基本的なスタンスでございます。

委員から御質問がございましたように、より本当に効果的、効率的に住民の方に周知していただく方法っていうのは、絶えず見直し、検討を図っていききたいというふうに考えております。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 杉山委員。

○委員（杉山武志君） 予算ですね、お金が残るといえるのはありがたいことなんですけど、せっかく組まれておる予算が効率よく使用されるということのも重要なことだと思いますので、その辺も含めてよろしく願いいたします。

○委員長（猶野智和君） ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（猶野智和君） ないようでしたら、質疑なしと認め、質疑を終わります。

○委員長（猶野智和君） それでは、本案に対する御意見はございませんか。下井委員。

○委員（下井克己君） すいません。あの、まだ竹岡委員の質問の答えが返ってない時点で、意見、採決に行ってもよろしいでしょうか。

○委員長（猶野智和君） 竹岡委員、そのあたり何か……。はい、竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） 低入札のことですか。あの、あす、委員長にも了解をとったと思うんですが。29年度予算のときに併せてやろうかと思うんですがね。あの、大きな——あの、予算がどうのこうのじゃないから、大きな流れの話ですから。はい。それで結構です。だから、議論をする場をいただけたら結構です。

○委員長（猶野智和君） はい。下井委員。

○委員（下井克己君） 一つ言わせていただきます。

あの、先ほどのごみ袋の件なんですけど、10年前の仕様書というふうに言われましたと思います。で、コピー用紙にしても、ビニール系にしても、もう今現在、10年前と比べるとものすごく変わっと思っています。で、そういう面からすると、仕様書の見直しをされるべきじゃないかと思いますので、意見として言わせていただきます。

○委員長（猶野智和君） 賛成の御意見ということでよろしいですね。（「賛成でよろしいですよ」と呼ぶ者あり） はい、ほかにございませんか。

それでは、これより議案第3号を採決いたします。本案について、原案のとおり決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

全員異議なしと認めます。よって、議案第3号は原案のとおり可決されました。

この際、午後1時まで休憩をいたします。

午前11時50分休憩

-----

午後 1時00分再開

○委員長（猶野智和君） 休憩前に引き続き、委員会を開きます。この際、執行部より発言の申し出がありましたので、許可いたします。池田生活環境課長。



○生活環境課長（池田正義君） 先ほどの秋山委員からの合併処理浄化槽の普及率の数字をまだお答えできておりませんでしたので、この場をお借りしてお答えいたします。人口普及率でございますが60.1%ということでございます。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 中嶋地域振興課長。

○地域振興課長（中嶋一彦君） 委員長のお許しをいただきましたので、発言させていただきます。午前の議案第3号一般会計補正予算の質疑の中で竹岡委員よりバス車両の耐用年数についての御質問がありましたけれども、御解答しておりませんでしたので、この場をお借りして御解答申し上げます。

バス車両の耐用年数につきましては、国土交通省中国運輸局山口運輸支局によれば、法的な規定は特に定めていないとのことでした。

また、私が午前には回答いたしました走行距離100万キロにつきましても、これはあくまでもバス事業者の聞き取りでありまして、バス事業者の買い替えの希望ということでありまして、同じく、法的な規定は定めていないとのことですので、併せて補足させて御報告申し上げます。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 議案第8号平成29年度美祢市一般会計予算を議題といたします。最初に、竹内課長より総括説明を求めます。竹内財政課長。

○財政課長（竹内正夫君） それでは、議案第8号平成29年度美祢市一般会計予算の概要につきまして、御説明申し上げます。

お手元に配付してございますもののうち、平成29年度予算の概要に基づきまして、御説明をさせていただきますので、御準備のほうをよろしくお願いいたします。

それでは、本市では、第一次美祢市総合計画の基本理念の実現に向け各個別計画の整合性を図りながら施策を着実に推進するとともに、定住促進、少子高齢化対策、地域経済の活性化など、直面している諸重要課題への対応を早急に進める必要があります。

こうしたまちづくりの実現のため、平成29年度予算を新しい美祢市創造予算と位置付け、市民が主役のまちづくり、住みたくなる、住み続けたいまちの創造、教育環境の充実、地域経済の活性化、雇用の拡大、市行財政改革の推進の5つの柱を軸にその上で今一番必要な施策、将来の美祢市のために最も有効な施策の推進に重点を置き、

美祢市に住みたい、住み続けたいと感じてもらえるまちの創造に向けた第一歩を踏み出す予算編成を行いました。

それでは、まず、3ページをごらんいただきたいと思います。

ここでは、2当初予算の規模という見出しで、上から順に一般会計、各特別会計、企業会計の平成29年度当初予算の総額を前年度との比較でお示しをしているものがございます。

一般会計につきましては、168億6,000万円となりまして、前年度と比較いたしますと10億2,200万円の増となったところでございます。

特別会計につきましては、国民健康保険事業特別会計をはじめ、7つの特別会計がございますが、合計が90億5,908万3,000円、一般会計と合計いたしますと259億1,908万3,000円となり、前年度と比較すると13億1,371万7,000円、5.3%の増となったところであります。

続きまして、平成29年度の一般会計歳出予算の概要につきまして御説明申し上げます。

ここで少しページが飛びますが、26ページをごらんいただきたいと思います。冊子の中ほどに差し込んでありますA3のカラーで印刷したものでございます。

これは、第一次美祢市総合計画基本計画に示されている重点プロジェクト概念図を基に、平成29年度当初予算の先ほど申し上げました5つの柱を重ね合わせたものであり、総合計画の理念の実現や本市の抱える課題への対応を推進するための主要事業を体系的に整理したものでございます。

平成29年度予算は、後期基本計画の3年目に当たりますが、計画では、理念実現に向けたまちづくりを短時間で行うこととしており、平成29年度においても国際交流の推進、六次産業化の推進、ジオパーク活動の推進の3つのプロジェクトをトリプルエンジンとして位置づけ、さらにこのトリプルエンジンの取り組みを漫画、アニメーションの活用によってわかりやすく、楽しくそして面白く情報発信することで推進力を増し、その結果、喫緊の課題である定住促進プロジェクトが効果的に機能し住みたくなる、住み続けたいまちの創造につなげていきたいという考えに変わりはございません。

それでは、主な事業内容の説明をいたします。

平成29年度予算の編成に当たりましては、すべての施策を実施するための土台や

足腰となる行財政改革の推進を継続して進めるとともに、市内でコミュニティ活動を行う団体に対し、地域のコミュニティ活動の充実、強化に要する経費の助成を行うコミュニティ助成事業５５０万７，０００円や地域創造プランに基づき、主体的に実施する事業に要する経費の助成を行う地域創造プラン実現事業２００万円を新規事業として計上しております。

また、平成２９年度においても引き続き移動市長室を開催し、市民の皆様の意見を反映した市民が主役のまちづくりを推進してまいります。

その上で、先ほどの概念図にありますとおり、最終的には住みたくなる、住み続けたいまちの創造を実現することが、目標でございます。

そのために、特に人口減少、少子高齢化が進む本市では、子育て世代に選ばれ、住みたいと思えるまちづくりとなるよう、子供を育てやすい環境づくりが最も重要であると考え、平成２９年度においては、秋芳北部地域統合保育園整備事業２億８，２８６万２，０００円を計上し、保護者のニーズに合った保育環境の充実を図ることとしております。

また、時代の進展に対応した魅力と活力に満ちた学校の創造と心豊かな人づくりに向け、次世代を担う小学生・中学生の育成を進めるために、昨年度から着手しております秋芳桂花小学校整備事業を確実に進捗させるほか、厚保小学校の長寿命化改修事業、複式学級学習支援事業などの新規事業に取り組みます。

また、生涯学習推進の一環として実施する市民大学講座についても２８３万４，０００円と事業費を拡充し、教育充実都市の実現を図りたいと考えております。

また、観光振興に当たっては、基本構想に示されている観光立市や今後の市のまちづくりを推進するための要であるトリプルエンジンに関連していることから、観光客の増加にインパクトの大きいジオパーク活動や国際交流の推進を引き続き重点的に進めることとしております。

具体的には、ジオサイトの一つである大岩郷の周辺整備に５，０００万円。ＡＬＴを増員し、小学校の外国語活動及び中学校の英語教育の充実、実践的コミュニケーション能力の育成と国際理解教育の推進を図る、生きた英語力育成推進事業１，９２６万７，０００円などを計上しております。これら関連の事業費の総額は、ジオパーク活動の推進については、５，５８１万３，０００円を、国際交流の推進については、２，５６９万８，０００円をそれぞれ計上いたしております。

また、平成29年度は、地域資源を新たな視点で活用していく施策の展開を図ることとしております。

その取り組みとして、スポーツイベントと観光交流事業を融合した事業展開を図ることとしており、レノファ山口FCのホームタウンを機に、市民のスポーツ機運を高める事業を実施するとともに、レノファ山口と連携し、美祢市の魅力を市外、県外に情報発信し交流を深める、スポーツ・観光交流事業288万8,000円や、サイクル県やまぐちブランドの確立・定着を目指し、県等との関係機関と連携し、秋吉台上を主コースとしたJプロツアーの開催などをはじめとしたサイクルイベントを実施する、みね発！サイクルイベント実施事業600万円などを計上し、新しい角度から交流人口の拡大を図り、それを地域経済の活性化、雇用の拡大に結びつけたいと考えております。

また、施策を効果的に推進するために情報発信にも力を入れます。

ソーシャルメディアや企業のホームページに本市のバナーを張り付けるなど、インターネット広告を活用し、イベント情報や本市の魅力の発信を強化する、美祢市のいいこと拡散事業348万9,000円を計上し、各種イベント情報の発信はもとより市のさまざまな行政情報についても新しい手法で積極的な周知を図ります。

定住促進については、本市の最重要課題の一つとして認識しており、定住促進に係る取り組みは、引き続き強力に推進することとしております。

関連する総事業費につきましては1億5,538万2,000円を計上し、新規事業として、結婚後の新生活に係る費用を補助する結婚生活支援事業1,600万円を計上するほか、要望の多かった住宅リフォーム助成事業について、事業費を1,000万円に拡充しております。

これまで、主な主要施策のうち一部の事業について説明させていただきましたが、これらの施策を相互に関連させ、市域全体の活性化を図ることにより、総合計画の基本理念と住みたくなる、住み続けたいまちの創造が実現につながるという信念のもと事業を推進してまいります。

最後にその他の基本計画の基本目標の主要事業は、ここに掲載してあるとおりでございます。なお、新規事業には「新」と、拡充事業については「拡」と記載してあります。

以上が、当初予算の規模並びに重点事業に係る説明であります。

続きまして4ページにお戻り願います。

ここでは、3一般会計当初予算とありますが、歳入の状況をお示ししております。

まず、1款市税につきましては、市内の一部の企業の法人市民税の減が見込まれていることにより、市税全体では、2,551万8,000円、0.8%減の31億9,521万7,000円となったところでございます。

次に、3款利子割交付金については、前年度比58.9%減の321万4,000円を、第5款株式等譲渡所得割交付金では前年度比44.5%増の1,466万2,000円をそれぞれ計上しております。これは、昨今の株式市場における状況を踏まえ計上しております。

次に、6款地方消費税交付金につきましては、実績推移により、前年度比10.3%の増の4億7,269万7,000円を見込んだものでございます。

次に、10款地方交付税につきましては、7ページをお開き願います。

まず、普通交付税につきましては、前年度と比較して2億円減の51億円となっております。普通交付税につきましては、御承知のとおり、平成27年度からの合併算定替えの逡減及び算定係数の見直しにより、減少しております。さらに、29年度につきましては、先ほど――過日報告、発表いたしました交付税の過大交付分。その減額分も踏まえて2億円の減としておるところでございます。

次に、特別交付税については、昨年度同額の10億円を計上しております。

再び4ページにお戻り願いたいと思います。

次に18款繰入金につきましては、前年度と比較して7,516万2,000円、8.8%増の9億3,285万5,000円となっております。

ここで、16ページをお開き願いたいと思います。

右から2番目の取り崩し見込みが平成29年度予算において計上した分でございます。

(1) 一般会計では、財源不足等に対応するため、財政調整基金を7億円、ゆたかなまちづくり基金を1億6,600万円取り崩すことといたしております。

その1つ下のふるさと人財育成基金403万8,000円については、中学生を海外に派遣し国際感覚を持った人材を育成する事業等の、ふるさと人財育成事業に充当することとしております。

さらにその下、ふるさと美祢応援寄附金6,281万7,000円につきましては、

寄附者が希望する活用方法に配慮し、ふるさと美祢応援寄附金事業やジオパーク活動応援事業等の事業に充当することとしております。

一般会計に係る基金残高については、平成28年度末の見込額は、(1)の表のおよそ中央の1番下、66億750万6,000円、平成29年度末の残高見込みが一番右端で、57億5,445万1,000円を見込んでおります。

次に17ページをごらんいただきたいと思います。

ここでは、市債残高の推移をお示しいたしております。

(1) 一般会計における市債について、平成29年度におきましては、大型建設事業が集中し、繰越事業分も含め、27億1,560万円を起債することとしております。元金の償還見込みを19億4,196万円としておりますことから、平成29年度末での残高見込みは183億9,357万5,000円となり、前年度末と比較して7億7,364万円の増となることを見込んでおります。

なお、起債に当たりましては、交付税算入の大きい有利な起債を中心に行うこととしておりますので、実質的な負担は借入額ほどはございません。

次に、5ページにお戻り願いたいと思います。

上段の表、イ、一般財源比率をごらんいただければと思います。

この表の上段が一般財源に係るもの、下段が特定財源に係るものでございます。平成29年度の一般財源の構成比は67.4%で、地方交付税の減等により0.9%低下いたしました。

その下の、ウ、自主財源比率をごらんください。

表の上段が自主財源、下段が依存財源をそれぞれ示しております。自主財源につきまして、平成29年度においては29.2%となり、繰入金が増などにより、0.3%の増となりました。

以上が、一般会計に係る概要の説明でございます。

続いて、歳出のほうから各担当より説明があります。

○委員長（猶野智和君） 説明が終わりました。これからは、費目ごとに説明を求めます。

それでは、議会費を議題といたします。事務局より、説明を求めます。綿谷議会事務局長。

○議会事務局長（綿谷敦朗君） それでは、予算の概要28ページ、予算に関する説明

書の１１０ページ、１１１ページをお開きください。

１款議会費・１項議会費・１目議会費、議会運營業務、議会だより発行業務といたしまして１３６万２０００円を計上しております。

これは市民に議会活動等を広報するため、議会だよりを発行するための経費でございます。年４回、各定例会ごとに１万１００部印刷し、各戸配付する予定でございます。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 説明が終わりました。それでは、質疑を行います。質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（猶野智和君） 質疑なしと認め、質疑を終わります。次に、総務費を議題といたします。執行部より、説明を求めます。大野総務部次長。

○総務部次長（大野義昭君） それでは、２款総務費の説明をいたします。

予算書は１１２ページからになります。それでは、予算の概要に従いまして説明いたします。

障害者雇用推進事業において、３９８万６，０００円を計上しております。

これは、障害者の雇用の創出を目的とした、障害者雇用職員２名分の報酬等であります。

次に、防災通信事業において、１安全・安心メール拡充事業に５２万４，０００円を計上しております。

これは、登録者数をふやすため、登録者数の上限を５００人増加するものであります。

２災害時通信用設備整備事業に２７万円を計上しております。

これは、平成２８年度に引き続き２年計画で行うもので、災害情報収集のため、電波状況のよくない拠点施設に中継用のアマチュア無線用アンテナを整備するものであります。

次に、防犯灯整備事業において、防犯灯設置費補助金を３０万円増額し、１３０万円を計上しております。

次にマイナンバー推進事業において、５３４万６，０００円を計上しております。

これは、マイナンバー制度が適正・的確に運用できる体制整備を行い、本年７月か

らの本格的な情報連携開始に伴う、安全管理措置の徹底、内部監査の実施、研修等を行い、個人番号の収集、管理等を適切に行うものであります。

続きまして、２９ページになります。

電算管理業務において、１コンビニ収納導入事業に４３１万円を計上しております。

これは、市民税や国民健康保険税等の納付について、平成３０年度からコンビニでも取り扱いができるよう、電算システムの改修を行い、準備するものであります。

次に、２議会高度情報化推進事業に２８万３，０００円を計上しております。

これは、議会と共同で、タブレット導入に向けた、先進地視察経費や講師委託料でございます。

次に市制施行１０周年記念事業において、１記念式典開催事業として、１４４万１，０００円を計上しております。

これは、平成３０年３月２１日に開催を予定しております式典に係る経費でございます。

○委員長（猶野智和君） 佐々木企画政策課長。

○企画政策課長（佐々木昭治君） 続きまして、その下になりますが、ふるさと交流大使記念イベント事業において、１５０万７，０００円を計上しております。

これは、市制施行１０周年記念事業としまして、本市のふるさと交流大使３名によるイベントを実施するものであり、作品展示や児童等との交流に係る所要の経費を計上しているものであります。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 大野総務部次長

○総務部次長（大野義昭君） 続きまして、本庁舎整備事業に５７万２，０００円を計上しております。

これは、本庁舎の整備に関して、設置する本庁舎整備検討委員会に関する経費で、委員報酬等でございます。

○委員長（猶野智和君） 鮎川市民課長。

○市民課長（鮎川弘子君） 続きまして、無料法律相談事業３５万円を計上しております。

市民の日常生活における法律的諸問題の解決を図るため、弁護士による無料の法律相談を開催するもので、４月から毎月１回、年間１２回の開催を予定しております。



以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 説明は以上でよろしい……。石田市長公室長。

○市長公室長（石田淳司君） 続いて、30ページをお願いします。

最上段になりますが、2目の文書広報費でございます。広報作成業務ということで、552万円を計上しております。

これは、平成28年度から連載を開始しました——掲載を開始しました漫画広報を引き続き、掲載し読みやすく、親しみやすい紙面の作成に努めることとしております。

続きまして、美祢市のいいこと——美祢のいいこと拡散事業ということで348万9,000円を計上しております。

これは、企業のホームページに本市のバナーを張り付けるなど、インターネット広告を活用しまして、本市のイベントや魅力を発信するものでございます。

続きまして、市勢要覧作成事業として、759万1,000円を計上しております。

これは、合併10周年を迎えるにあたり、市勢要覧を作成することとしております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 佐々木企画政策課長。

○企画政策課長（佐々木昭治君） 続きまして、その下になりますが、目の5財産管理費の住宅団地管理販売事業において、1,711万2,000円を計上しております。

本市は、美祢住宅団地（来福台）、長田定住団地、並びに旦住宅団地（りんどうの丘）の3つの住宅団地を有しており、平成29年度は、住宅展示場に出張して販売促進活動を行うなど、引き続き積極的に宅地を販売することとしており、所要の経費を計上しております。

なお、財源につきましては、土地売却収入を充当しますとともに、庁用車を購入する部分につきましては、地方債を充当することとしております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 石田市長公室長。

○市長公室長（石田淳司君） 続いて、6目の企画費でございます。

公共施設マネジメント推進事業ということで345万2,000円を計上しております。

これは、平成28年度に策定した公共施設等総合管理計画の充実化や公共施設白書の作成に努めまして——作成に向け調査、研究を山口大学に委託するものでございま

す。

その下になりますが、美東地域にぎわい創出事業ということで、１００万円を計上しております。

これは、平成２８年度と２９年度にかけまして、美東総合支所を中心とした、賑わいあるまちづくりを提案するため、調査・研究を山口大学に委託にするものでございます。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 佐々木企画政策課長。

○企画政策課長（佐々木昭治君） 続きまして、３１ページをごらんください。

一番上ですが、漫画・アニメ活用推進事業において、３０７万円を計上しております。

本事業は、小中学生や高校生、社会人を対象に漫画塾を開設し、漫画の描き方を学ぶことを通じて漫画の持つわかりやすさや、楽しさ、面白さなどの表現力を身に付ける機会を提供するとともに、漫画・アニメの活用推進における担い手の養成を図ることを目的としており、平成２９年度も引き続き実施することとしております。

なお、特定財源として、ふるさと美祢応援基金繰入金を３０７万円充当しております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 中嶋地域振興課長。

○地域振興課長（中嶋一彦君） 続きましてその下ですが、情報通信施設運営事業、情報施設運営事業として９，６０４万８，０００円計上しております。

これは、美祢市有線テレビ運営に関する事業費でございまして、主なものは、放送施設の指定管理委託料と、放送センター内にあります高圧受変電設備の老朽化による改修等が主な経費でございます。

主な財源としましては、加入分担金と有線テレビ使用料になります。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 佐々木企画政策課長。

○企画政策課長（佐々木昭治君） 続きまして、一番下の目、目の１０活性化対策費です。

美祢ＩＪＵ促進事業において、２１９万５，０００円を計上しております。

平成２９年度は、昨年１１月に設立されました、委員１０名で構成する定住促進協議会と協働して、ＵＪＩターンフェア等への参加や、インターネットを通じた美祢市の魅力発信等に取り組み、定住促進を図ることとしており、定住促進協議会負担金など、所要の経費を計上しております。

続きまして、一番下ですが、美祢里山らいふ促進事業において、７７３万円を計上しております。

本事業では、本年１月に開始しました、お試し暮らし住宅の貸し付けを行いますとともに、空き家の情報収集を行い、空き家等情報バンクの登録空き家をふやす取り組みを行うこととしております。

また、空き家等情報バンク登録家屋の改修費と所有権移転登記費用に対する補助も引き続き行うこととしており、それらに係る補助金等、所要の経費を計上しております。

なお、特定財源として、お試し暮らし住宅貸付料の９万円を充当しております。

次に、１枚めくっていただきまして、３２ページをごらんください。

１番上ですが、新規事業としまして、結婚新生活支援事業において、６００万円を計上しております。

本事業は、経済的な理由により結婚に踏み出せない市民に対して、結婚後の新生活に係る費用を補助することにより、婚姻の促進を図ろうとするものであります。

具体的には、夫婦の平成２８年分の所得額の合計が３４０万円未満の世帯に対して、新居の住居費及び引っ越し費用を、１世帯あたり最大２４万円補助するとともに、美祢市独自の支援として、美祢市内の店舗で購入した家具・家電の購入費について、１世帯あたり最大６万円を補助するものであり、１世帯あたり最大３０万円の補助を受けることのできる結婚新生活支援事業補助金を６００万円計上しているものであります。

なお、特定財源としまして、県補助金３６０万円を充当しております。

続きまして、その下、Ｍｉｎｅワクワク住マイル事業において、１，１７８万１，０００円を計上しております。

本事業は、市内で自らが住むための住宅を取得された、補助要件に該当する市民に取得費の一部を補助する事業であり、一年間の補助金額のうち、３万円以内は美祢市商工会が発行する商品券で交付することとしておりますことから、報償費として３２

6万円、M i n e ワクワク住マイル事業補助金として852万1,000円を計上しております。

なお、M i n e ワクワク住マイル事業補助金は、10年間で均等に分割して交付することとしておりますので、債務負担行為におきまして、平成29年度新規分の限度額としまして、3,780万円を設定しております。

続きまして、その下ですが、三世代同居等促進事業において、100万円を計上しています。

本事業は、親子の相互扶助を促進するとともに、定住人口の増加を図るため、市内への転入や、市内における住宅取得により、三世代が同居あるいは、近居になった場合に補助金を交付するもので、30万円を3年間で分割して交付します。

また、一年間の補助金額のうち、3万円以内は美祢市商工会が発行する商品券で交付することから、報償費30万円と三世代同居等促進事業補助金70万円を計上しております。

なお、三世代同居等促進事業補助金は、3年間で均等に分割して交付することから、債務負担行為におきまして、平成29年度新規分の限度額として、140万円を設定しております。

続きまして、その下ですが、ふるさと美祢応援寄附金事業において、9,443万5,000円を計上しております。

平成29年度は、寄附金額を6,000万円と見込み、歳出の主なものを申しますと、まずは、頂いた寄附金を基金に積むためのふるさと美祢応援基金元本積立金としまして6,000万円を計上しております。

次に、業務委託料として、3,038万9,000円を計上しております。

これは、寄附された方への返礼品の送付等の業務に係る委託料と、ふるさと納税システム保守に係る委託料であり、返礼品の送付等の業務に係る委託料3,000万円には、ミネコレクションの品物などの市内の農産品や、美祢市への宿泊クーポン券代などの費用が含まれております。

なお、平成29年度は、インターネットによる広報の一層の充実を図ることとしております。

また、特定財源として、ふるさと美祢応援寄附金6,000万円、ふるさと美祢応援基金利子4万4,000円のほかに、ふるさと美祢応援基金のうち、寄附された方

がその使途を市長にお任せするとされた寄附金額の一部3,439万1,000円を財源として充当しております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 中嶋地域振興課長。

○地域振興課長（中嶋一彦君） 続きまして、美祢魅力発掘隊設置事業として1,160万1,000円計上しております。

本事業は、地域おこし協力隊を設置する事業ですが、平成28年度は美東町赤郷地域に1名配置しておりますが、平成29年度には、東厚保町植柳地域と秋芳町の国際芸術村に1名ずつ配置する方向での募集を考えております。

特に、国際芸術村への隊員の設置については、県文化振興課とタイアップして事業を進めることによって、アートを活用した地域活性化に貢献する隊員の設置を計画しております。

また、同事業を行うことによって、隊員を中心とする地域の活性化を推進し、また隊員を通じて地域間交流を行うことを目的としております。

このため、隊員に支払う報酬や、隊員の活動の支援に関する業務委託料など、所要の経費を計上しております。

続きまして、その下ですが、コミュニティ助成事業として550万7,000円計上しております。

これは、市内でコミュニティ活動を行う団体に対し、地域社会の健全な発展と住民福祉の向上に寄与するため、地域のコミュニティ活動の充実及び強化に要する経費の助成を行うものです。

対象事業としましては、拠点施設設備、環境保全・美化、文化・スポーツ・伝統、地域資源活用、コミュニティビジネスの全5分野で構成しております。

なお、財源はふるさと美祢応援基金繰入金及び自治宝くじ助成金です。

続きまして、その下ですが、地域創造プラン実現事業として200万円計上しております。

これは、誇りの持てるふるさと、地域づくりや地域の課題等に対応するため、地域が策定した地域創造プランに基づき、主体的に実施する事業に対して1団体あたり100万円を上限として支援を行い、プラン実現を通じて地域力の向上、活性化を図ります。

なお、財源はふるさと美祢応援基金繰入金です。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 石田市長公室長。

○市長公室長（石田淳司君） 続いて、３３ページになります。

最上段になりますが、生涯活躍のまち形成事業に５６０万円を計上しております。

これは、公民館エリアを中心にワークショップを開催、及び計画の策定を検討することとしております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 中嶋地域振興課長。

○地域振興課長（中嶋一彦君） その下ですが、復帰センター共生推進事業として、４５万９千円計上しております。

これは、美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略における重要戦略の取り組みとして、地域住民及び事業者等に対し、共生への意識醸成を進めるとともに、センター出所者の社会復帰サポートを行い、人材の再生を図るため、社会復帰促進センターの立地を活かした取り組みを行うものです。

平成２９年度の主な取り組みとしましては、センター生の地域貢献事業に関する支援、センターと地域住民との共生事業への支援、山口大学医学部による矯正医療の研究補助等を計画しております。

続きまして、その下ですが、１１目ふるさと創生事業費、ふるさと人財育成事業として、４０万９千円を計上しております。

この事業は、本市の人材育成を図るため、市内の中学生及び高校生を海外に派遣することによって、国際交流と国際理解のある人材を育成するための支援を行います。

また、伝統工芸・芸能等の伝承と発展に資する人材を育成するため、技能の習得や研さんについて支援することとしております。

なお、本事業の財源としまして、ふるさと人財育成基金繰入金４万３千８百円と、ふるさと人財育成基金利子５万２千円を充当することとしております。

続きまして、その下ですが、１３目公共交通対策費、ＪＲ美祢線利用促進事業のうち、ＪＲ美祢線カード作成事業として、７万５千８百円計上しております。

この事業は、美祢市ふるさと交流大使にデザインをお願いし、ＪＲ西日本(株)広島支社にも協力いただいた上で、ＪＲ美祢線のトレーディングカードを作成し、定期券

購入者やイベント参加者等へそれを配付することによって、J R美祢線をP Rするとともに、利用促進につなげようとするものです。

続きまして、その下ですが、生活バス路線維持費事業として、1 億 2, 6 7 8 万円計上しております。

これは、現在市内を運行しておりますバス事業者が6 社、全4 6 路線系統がありますが、この運行に対する補助金でございまして、財源のうち、8 7 4 万 8, 0 0 0 円は県支出金でございます。

続きまして、その下ですが、地域公共交通協議会事業、地域公共交通確保維持改善事業として、9 1 8 万円計上しております。

この事業は、現在の本市の地域公共交通総合連携計画が平成2 9 年3 月をもって終了することや、地域公共交通に関する法律が改正されたことにより、美祢市の公共交通における路線再編を実現するため、法律に基づき策定するものです。

今年度は、本市の新たなマスタープランである地域公共交通網形成計画の策定を行ってきたところでございますが、平成2 9 年度は、そのマスタープランを実現するための実施計画である美祢市公共交通再編実施計画を策定し、その計画期間内（4 年間）で市民の方々が利用しやすい運行ダイヤの設定、地域にあったミニバス運行、児童・生徒のための通学環境の改善等を行い、市民のニーズに沿った公共交通を整備するため、計画策定を行う法定協議会であります美祢市公共交通協議会に負担金として支出するものでございます。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 細田総務部次長。

○総務部次長（細田清治君） 2 項徴税费・2 目賦課徴收费、賦課業務でございます。

予算の概要は3 4 ページになります。

土砂災害特別警戒区域等背景図及び地番一覧表作成業務でございます。

これは、土砂災害防止法に基づき、山口県が土砂災害特別危険区域に指定した市内1, 4 4 7 箇所の区域に存在する土地の地番を特定するため、背景図の作成、及び該当地番の一覧表作成業務を委託するもので、事業費として委託料2 8 9 万 8, 0 0 0 円を計上しております。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 鮎川市民課長。

○市民課長（鮎川弘子君） 続いて、3項・1目ともに戸籍住民基本台帳費でございます。

個人番号カード管理業務として、317万4,000円を計上しております。

これは、平成27年10月に始まった個人番号制度のカード管理業務に対応するための経費で、個人番号カード、通知カードの作成や発送に係る経費のほか、関連機器の借り上げや保守経費を見込んでおります。

特定財源は、国庫補助金232万円、その他証明手数料2万6,000円を計上しております。

次に、窓口延長事業といたしまして、8万3,000円を計上しております。

これは、住所異動等に伴う手続の集中する年度末前後の住民係窓口業務を平日の午後7時まで延長するための経費で4月が3日間、3月で3日間。合わせて6日間を予定しております。財源は、カード交付事務費補助金が5,000円でございます。

続きまして、その下でございます。証明書コンビニ交付事業でございます。

個人番号カード、いわゆるマイナンバーカードを利用しまして、コンビニで住民票の写し等の各種証明書が交付できるサービスを構築するもので、事業費155万6,000円を計上しております。

平成30年7月からのサービス開始を予定し、利用できる証明書といたしましては、住民票、印鑑証明書、戸籍事項証明書、戸籍附票そして税務証明書、この税務証明書は現年度分の所得課税証明でございますが、この5つの証明書を予定をしております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 井上選挙管理委員会事務局長。

○選挙管理委員会事務局長（井上孝志君） 続きまして、4項の選挙費です。

来年度は、山口県知事選挙が3月22日——2月22日が任期満了になります。それで執行予定にしております。それに係る経費2,168万8,000円、全額県の支出金でございます。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 説明が終わりました。それでは質疑を行います。質疑はございませんか。竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） まずですね、33ページ。概要書の33ページ。生涯活躍のまち形成事業。昨年は857万5,000円。それから、29年度は560万というこ



とになっております。

そこですね、午前中のちょっと補正の時に私見損ねたんか、よくわかりません。28年度の補正では857万5,000円はどうなったのか。いわゆる何が聞きたいかという28年度中に、どういう事業の取り組みをなされたのか。まあその辺がお聞きしたいんですね。そして、29年度はどのようにされていかれる予定なのか、お伺いしたいと思います。

34ページに28年度は共に生きるまち推進費ということで1,462万3,000円。この中にたぶん、生涯活躍のまち基本計画をつくるという予算が組まれていたと思います。29年度は、そこがゼロになって新たな場所に抽出してあるようでございますが、まずお聞きしたいのは、それが1点。

もう1点は、監査事務局からは何もなかったんですが、一応総務費の中に入っておりますから、お尋ねをしたいと思うんですが、昨年と比較して900万少ない、ということですので、人事に関して何か大きな変化があるのかどうか。そのまず2店についてお尋ねをしたいと思います。

○委員長（猶野智和君） 石田市長公室長。

○市長公室長（石田淳司君） 竹岡委員の生涯活躍のまち形成事業の件でお答えいたします。

まず、28年度の財源は30ページの上段に書いてありますとおり、27年度の繰越事業といたしまして857万5,000円を繰り越しております。そのうち、28年度の事業費が540万円を支出することとしております。

28年度の事業の内容といたしましては、まず28年5月に美祢市生涯活躍のまち構想を策定されて——策定しております。その中に4つの想定モデルが掲載をされます。具体的には、就労に関すること、次に趣味・ボランティア活動に関すること、3番目として、観光文化活動に関すること、4番目として、起業に関することでございます。

これの想定モデルに基づきまして、平成28年度は山口銀行YMZOPと山口大学経済学部の方々に御協力いただきまして、美祢市生涯のまち——生涯活躍のまち基本計画を策定をすることとしております。

具体的な内容といたしましては、先ほど申し上げました4つの想定モデルによる美祢市としてはこういう生涯活躍のまち構想に基づく基本計画ができるんじゃないかと

いう例示を示しまして、市民の皆様、それから事業者の皆様方にお示しをしたいというふうに考えております。

29年度は、その例示を参考にしていずれかの団体なり、法人さんなりがですね、この事業に乗ろうということであればですね、予算書に書いてあります生涯活躍のまち形成事業計画を策定し、事業を進めることとしております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 監査……なら、こちらよろしいですか、先で……。小田監査委員事務局長。

○監査委員事務局長（小田正幸君） それでは、竹岡委員の御質問にお答えいたします。

平成28年度当初予算では、職員を2名、計上していたものが本年度は職員1名の計上となったことによる減額でございます。

なお、あと1名の職員につきましては、再任用フルタイム職員を充てることとしており、その人件費につきましては、総務費・総務管理費・一般管理費の一般職員人件費において計上されているものでございます。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） いま、監査のほうはわかりました。

それから、秘書課のほうからお話しがあったんですが、私は本来ですね。生涯活躍のまち形成といいますか、まち形成基本計画。いわゆる基本構想。たぶん、美祢市のまち・ひと・しごとの総合戦略の中で1つの大きな柱として、この美祢市の生涯活躍まちづくり構想は立てられたと思うんですね。そして、28年度は基本計画をつくる段階になったわけです。いま室長のほうからのお話では4つくらいモデルが示されたよと。そのモデルを今から周知徹底とおっしゃったんですが、私はまず1点はですね、これはあの、まち・ひと・しごととの関係でどういうふうに位置づけられておるのか。いわゆるたぶん、まち・ひと・しごとのほうは、企画政策部のほうが所管なってると思うんです。そこの中の大きな柱の1つが秘書課にいつている。

これどうしてもですね、去年の8月やったですかいね。あれから疑問を感じていたんですが、まず1つは540万かけられてどういう基本計画ができたかわかりませんが、基本計画はいつお示しいただけるのかということとですね、所管がなぜこういう状態で分かれているのか。どうしても疑問を感じるんですね。

関連性が……たとえば、基本計画からあって、後期計画があって、そしてまち・ひと・しごと総合戦略があってですよ。その中の1つの柱の中にいわゆるC C R Cの考え方があるわけですね。それが、違うところにぽんといってる。どうもそうした取り組みについて、もともと去年の、去年私が質問した時、市長はあまりやる気じゃないと。関東周辺ですらないと。こうおっしゃったんですね。

ですが、この生涯活躍のまちづくり構想は、単なる東京圏から引っ張ってこうという発想じゃないと思うんですよ。これをやることによって経済面、あるいはそのシニア層の健康面。それから全体に考えてみれば、社会活動っていいですか、この美祢の中でのです。そしてまちづくり計画に整合してなくちゃいけない。その上で、いわゆる市全体がエネルギーシフトに進むようにというのが、この生涯活躍のまちづくり基本計画だろうと思うんです。

で、この中では計画の策定を検討しますとしか書いてないし、今室長のお答えもそうだったんですね。ですから、基本計画がでたら、今度は事業計画をお立てになるんじゃないかと。で、事業計画を立てるときに初めてパートナーがいるんじゃないかなと私はそう思うんですね。まあ今回は山銀さん、山大さんの協力を得てつくられたということです。いずれ議会のほうにも出てくるだろうと思います。

論点がちょっと整理がついてませんが、1つは今年度事業計画。いわゆる基本計画じゃなくて事業計画だろうと思うんです。このことが1点と基本計画がいつでてくるのか。

それからもう1つは、所管についてどうしてもそうした流れの中で大きく疑問を感じてるんですが、その辺の御説明もお願いをしたいと思います。

○委員長（猶野智和君） 石田市長公室長。

○市長公室長（石田淳司君） 竹岡委員の再質問にお答えいたします。委員おっしゃいましたように、平成27年10月に策定いたしました美祢市まち・ひと・しごと総合戦略に大きな重要戦略が4つございます。そのうちの1つが、いわゆる生涯活躍のまち構想になろうかと思います。

先ほどもちょっと触れましたが、28年度におきましては、4つのモデル——4つの想定モデルに基づきまして、基本計画を策定する。これは、3月中にはお示しをし、公表をしたいというふうに考えております。

委員おっしゃいましたように、事業を実施する団体・法人が必要になってまいりま

す。これにつきましては、この28年度に示しました基本計画をごらんになられまして、私のところが、この法人がやってみたい、やろうと、いう法人なり団体がいらっしゃいましたら、その方々とパートナーを組みまして、形成事業計画を策定するという流れになります。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） 今、室長が言われたいわゆる事業主体といいますか、行政がやるわけじゃないですから。そうしたものが事業所がいるということは去年の一般質問かどっかで市長と議論したと思うんですね。お互いに共通理解できてるんですが。

私が申し上げているのは、基本構想の中のモデルが示されてますよってあれ、ほんの4つやったか、5つやったか覚えてませんが、こういう考え方もありますよというのを示しただけなんですよ。

したがって、28年度にさらに突っ込んで、まだまだいろんなことが考えられるんじゃないかということで基本計画が組まれてくるだろうなと思っていたんです。勘違いでしょうか。

○委員長（猶野智和君） 石田市長公室長。

○市長公室長（石田淳司君） はい。竹岡委員の再質問にお答えします。

竹岡委員おっしゃいましたように本年度策定いたします基本計画は先ほど言いました想定モデルに基づいて、具体的な例示を示すものでございます。ですから、まあごらんになりました事業所なり、法人なり団体の方々ですね。まあ十分に参考になるものかなというふうに思っております。

それと先ほど、ちょっと言い洩らしましたが、8月以降市長公室ができて、生涯活躍のまちに関わる事務について市長公室がとることとなりました。それまでは企画政策課が持っておったところです。

市長が4月に就任されまして、市長のほうからですね、公民館単位でのまちづくりをしたいというような内容をおっしゃいました。まあ内部で協議した結果ですね、生涯活躍のまちがですね、ある一定の区域で、まちづくりを進めることも必要だろうということでですね、公民館エリアでのまちづくり、それから生涯活躍のまちとの整合性が図れるんじゃないかということでですね、市長公室にきたという経緯がございます。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） 一応、納得はできませんが、説明は了解いたしました。

この29年度予算を見ても、また後ほど話しようかなと思ったんですが、市長が言われる公民館単位での予算がどこにも反映されてないんですよ。

で、ならばC C R C事業の中で取り組まれるのかなと思ったら、どうもそうでもないような気がするんですが……。その議論はですね、また市長とやりたいと思いますので。一応、今のところはここで終わりたいと思います。

○委員長（猶野智和君） ほかにございますか。山中委員。

○委員（山中佳子君） 28ページ。マイナンバー推進事業についてお尋ねします。

29年7月から本格的に情報連携が始まるということですが、どういうふうな情報連携でしょうか。お聞かせください。

○委員長（猶野智和君） 大野総務部次長。

○総務部次長（大野義昭君） ただいまの山中委員の御質問にお答えいたします。

今年7月から各……。今度は、市町村間の情報連携。要するにマイナンバーをもとにいたしまして、いろんな個人情報等の各自治体等の情報連携が始まるということでございます。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 山中委員。

○委員（山中佳子君） 34ページとも関連しますが、個人番号カードの普及率というものは今どのくらいになっておりますでしょうか。それから、これの必要性についての説明が十分されているのかどうか、その辺のところちょっとお尋ねします。

○委員長（猶野智和君） 鮎川市民課長。

○市民課長（鮎川弘子君） 山中委員の御質問にお答えをいたします。

まず、マイナンバーカードの普及率についてでございます。平成29年2月末時点で人口が2万5,536人中、交付枚数につきましては、2,197枚でございます。普及率は8.6%ということでございます。交付と併せてですね、交付といいますのは、お手元にカードを手にした方なんです、申請を、申込みをされておられる方というのが2,602件ございまして、そちらにつきましては、10.2%ということになっております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 大野総務部次長。

○総務部次長（大野義昭君） 続きまして、マイナンバーカードの関係の必要性でございます。もうこれは、当初から申し上げておりますとおり、税分野ですね。それと福祉分野、あと、災害対応の分野でこういった個人情報を活用するということで、必要性に関しましては、そういった主な分野ごとに情報連携をとりまして、申請書類の簡素化とか、あるいはいろんな個人情報の結び付けですね。これは正確にできるように行うといったことで必要性があるというふうになっております。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 山中委員。

○委員（山中佳子君） その際のカード発行の本人負担というものは、写真代だけではないのでしょうか。

○委員長（猶野智和君） 鮎川市民課長。

○市民課長（鮎川弘子君） 御本人が負担される、当初カードを作成されるにあたっては、写真代だけということで。紛失をされたりということになりますとまた改めて費用が発生いたしますが、当初についてはそれだけでございます。

○委員長（猶野智和君） ほかにございますか。秋山委員。

○委員（秋山哲朗君） 先ほど、あの、竹岡委員も質問されましたけれども、34ページの共に生きるまち推進費。平成28年度は1,462万3,000円。これは当初予算では、ゼロということで、恐らく28年度中に見直しをされたというふうに思っておりますけれども、昨年度の当初予算の概要書の中にこの共に生きるまち推進費、これは1,462万3,000円。まったく同金額あります。この中の事業費の項目は1から5まであるわけですね。これをトータルすると1,462万3,000円。その中の社会復帰促進センターと共に生きる推進事業414万7,000円というのが、このたびの予算の概要書の前のページに復帰センター共生推進事業というのがありまして、28年度当初予算が414万7,000円、これ全く同額なんですけれども、今年度は459万7,000円と、45万円アップしておるわけなんですけれども、そこであの、質問するのは、共に生きるまち推進費、ゼロにされた。これは当初の目的を達成したと考えていいのかどうかというのと、さらにこの社会復帰促進センターと共に生きる推進事業。これが若干ふえているわけなんですけれども、これとは全く関係なし

につけられておるのかどうかという、この2点をお伺いしたいと思います。済みません。わかりません。いやいや難しいことではない。

○委員長（猶野智和君） 竹内財政課長。

○財政課長（竹内正夫君） ただ今の御質問にお答えしたいと思います。

予算の費目につきましては、昨年度からですね、事業内容——まあ組織の変更等踏まえまして、事業内容を見返し、費目について29年度については、改めましてより適切な費目に戻したという経緯がございます。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） もう少し……ゼロになった理由とか、その辺りをはっきりと。中嶋地域振興課長。

○地域振興課長（中嶋一彦君） ただいまの秋山委員の御質問にお答えいたします。

平成28年度は、ともに34ページですけれども、共に生きるまち推進費の中にその前のページ、33ページですけれども、社会復帰促進センターの共生推進事業という名称で414万7,000円入ってございましたけれども、平成29年度からは、それが外に出まして、社会復帰促進センター共生推進事業として、新たに外に出した状態で事業を組んだということでございます。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 秋山委員。

○委員（秋山哲朗君） ということは、イメージ的に予算拡散したということですよ。

だから、そのほかの4項目については、この1年間で所期の目標を達成したんですか、ということをお伺いしたんですけれども。そういう御理解でいいんですかね。

ただ、社会復帰促進センターの事業だけは残しますよということでしょう。あとの4つの事業については終わったから、やめたんだよ。ということでいいんですよ。ただ嫌だからやめたとか言ったら困るんですけどね。そこちょっとお伺いしたい。

○委員長（猶野智和君） 竹内財政課長。

○財政課長（竹内正夫君） 再度、御質問にお答えしたいと思いますが、その他の事業につきましても、平成29年度におきまして、例えば教育関連の事業でありましたら教育委員会費のほうに。企画関連でありましたら地域活性費。そういった費目のほうに振り分けをしておりますので、共に生きるまち推進費という目は廃止いたしておりますが、それにぶら下がっておりました事業につきましては、そのほかの費目のほう

に継続して事業として入っております。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 秋山委員。

○委員（秋山哲朗君） ということは、事業の中身をばらしてよその課に任せたよということの理解でいいですか。だから、あくまでも共に生きるということは名前をやめるけども、事業としてはよその課で継続してやるよということの理解でいいんですか。もしも、そうであればまたその時にこの項目は例えばこれ5つありますよね。去年の予算書の中にありますけれども、5つの中の1番目がここに残してあるよ、2番目はここに残してあるよ、3番目は——2番目は社会復帰促進センターと共に生きるですか。だから、1と3と4と5、この件については、どこそこに残してるよ、ということがですね。またその時でいいですから、説明できたら説明していただきたいと思います。よろしくお願いします。

○委員長（猶野智和君） よろしいですか、それで。竹内財政課長。

○財政課長（竹内正夫君） また資料につきましては、後日よく対比ができるものを提出させていただきたいと思ってます。

1件所属につきましては、昨年度につきましてもですね。費目について、1つの共に生きるまち推進費で予算編成しておりましたけれども、もともと、所属についてはですね、それぞれの1つの課が共に生きる推進費の事業を実施しておりませんでしたので、昨年度につきましても、各それぞれの事業につきましては、各担当課がですね、分かれており、事業を推進しておったということでございます。

以上です。

○委員長（猶野智和君） では、対比の資料を後ほど提出のほどよろしくお願いします。

ほかにございませんか。戒屋委員。

○委員（戒屋昭彦君） 何点かお尋ねします。

まず最初に、一般会計、防災関連のとこなんですけれども、安全・安心メール充実事業ということで、500人の追加ということで52万4,000円予算計上されていらっしゃいます。

これに伴って、まず最初にこれで一応、想定何名を予定していて、トータル何名の方が今この安全・安心メールに入っていらっしゃるのが1件と、もう1つは市の職員の方が、大変失礼ですけど、何名入ってらっしゃるか、もし分かればお願いした



いと思います。

それと、その下のところですね、災害時の通信設備の設備事業ということで、アマチュア無線のアンテナ整備ということで、これはどの地域のあたりを今設定されておられて、これによって美祢市の電波状況が１００としたら今、どの程度のいきわたりになるかが１点です。

それともう１つは、先ほどの午前中の生活バス路線のことでお聞きしましたけれど、また予算の時でということでお話しさせていただきますが、この２８年度の当初予算が１億２，０００万円と。そして、今回は２９年度が１億２，６７８万円ということで、プラス約６００万費用が増大しております。

これで午前中のお話の中では、２，０００万近くを補助増額の補正予算ということでやってらっしゃいまして、これに伴って補修費用とかも、整備の費用がかなりかかってますということで、来年度の予算の中で結構また、このバス先ほど聞いたら結構年数が古く、一番古いものも９０万キロ超えているということで、そのあたりの補修費用、並びにバスの更新等は全く考えていらっしゃらないかということをお尋ねしたいと思います。

○委員長（猶野智和君） 大野総務部次長。

○総務部次長（大野義昭君） それでは、ただいまの戒屋委員の御質問にお答えいたします。

まず、安全・安心メールでございますけど、現在安全・安心メールが市内で１，９５０人の加盟がございます。これに５００人上乗せいたしまして、２，５００人の登録を目指しております。それとあと、職員に関しましては全員が登録しております。

それとあと、アマチュア無線のカバー率なんですけれど、今年度予定しておりますのが、綾木出張所、真長田出張所、大峰地域交流センター、堀越コミュニティーセンターを予定しておりまして、これ昨年に引き続いてやりますので、この今年も新たな中継所の開設によってほぼ全域がカバーできるというふうに聞いております。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 中嶋地域振興課長。

○地域振興課長（中嶋一彦君） 戒屋委員の御質問にお答えいたします。

生活バスにつきまして、来年度の補修費用、それから更新についての御質問だったと思います。

まず、補修費用につきましては、このバス事業者が経常費用として計上しているもので、来年度の計画につきましては国交省山口運輸支局、それから中国運輸局が計画の、事業計画の承認をしたものにつきまして、今回美祢市の予算として計上しておりますもので、この補修費用のみを美祢市で計上するという考えは持っておりません。

それから、バスの更新についてでございますけれども、特にアンモナイト号のバス車両につきましての更新につきましては、29年度の予算には入れておりませんが、バス事業者、並びにそれからバスの車両の内容につきまして、もう少し検討、それから関係機関への調査を含めまして、検討いたしまして、バスの更新が本当に必要なのか、現在どういう状態なのかをということを含めまして検討を進めたいというふうに考えております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 戒屋委員。

○委員（戒屋昭彦君） いろいろ御解答ありがとうございます。まず、初めに安全・安心メール。

これいま合計2,500名を来年度予定ということで、美祢市の人口からするとまだ加入率が低いものですから、今いろんなホームページ等でも、安全・安心メール入ってくださいってことは掲載しておられますけれども、やはりもう少し市民の方々に、ホームページを見られない方もいらっしゃるわけですから、そのあたり、どしどしいろんな手法なり、いろんなことでこういったことで加入してくださいということを勧めていただけたらというふうに思ってます。

それから、アマチュア無線のほうについては、一応昨年度から引き続きということでこれで全地域ということで何とか電波通じているというので一応一安心しております。

それからもう1つ、バスのほうでございますけれど、先ほどアンモナイト号で、29年度にバスの更新について、業者といろんなことで相談していきたいということでおっしゃられましたけれど、やはり今の段階でかなり年数経ってますから、やはり早く。当然費用のかかることだと思いますけれども、ぜひ効率のいい、故障したら困りますし、いろいろなこと含めて、やっぱ美祢市の方々の足となっておるわけですから、ぜひそういうことを早く検討してもらえればと。

そういった補修費用については計上してらっしゃらないということですが、当然そのあたりはバス業者、運行会社のほうでより一層、点検等含めて故障がないよ

うにしてもらうように話を進めてもらえたらと思います。

○委員長（猶野智和君） 返答よろしいですね。ほかにございませんか。下井委員。

○委員（下井克己君） 29ページのコンビニ収納導入事業とそれから34ページの証明書コンビニ交付事業であります。

コンビニというのは市内のコンビニ全店舗ですか。それで、納税に関しては問題ないと思うんですけど、証明書はマイナンバーカード利用するようになってます。その辺のセキュリティというか安全対策といいますか、その辺はどのようにお考えでしょうか。お尋ねします。

○委員長（猶野智和君） 大野総務部次長

○総務部次長（大野義昭君） ただいまの下井委員の御質問にお答えいたします。

まず、最初のコンビニがどこのコンビニを利用できるかということなんですけど、これに関しましてはほぼ全国のコンビニが利用できるというふうに思っております。

それとですね、当然のことながらマイナンバーカードを利用して収納なり、あるいは証明書の発行を行うわけなんですけど、これ安全対策はですね、いまほぼ主導は国が、こういった内容を主導しておりますので、安全対策は各自治体だけの問題ではなく、国を挙げての安全対策がされておると理解しております。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 下井委員。

○委員（下井克己君） あの済みません。私店舗を疑うわけではないんですが、夜とかも当然やられると思います。その場合には、バイトの方が1人、2人とかいう店舗もございます。その辺でマイナンバーカードの使用はどうかなというちょっと不安をもったもんで質問したんですが……。

○委員長（猶野智和君） 大野総務部次長

○総務部次長（大野義昭君） ちょっと訂正いたします。

先ほど、収納にマイナンバーカードを利用するとお伝えしましたが、収納のほうはマイナンバーいらないということですね。

それと、あと証明書ですよ。当然夜もですね、予定では遅くなるまで、夜11時くらいまでを利用できるというふうに思っておりますので、その辺の安全対策ですよ。これもちょうと実際、もう実際に行っている自治体も多数あります。こういった先進地の自治体等々もいろいろ研究いたしまして、安全対策に今後、万全を尽くして

いくようにしたいと思います。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） よろしいですか。岡山委員。

○委員（岡山 隆君） それでは、大きく2点についてお尋ねしたいと思います。32のふるさと美祢応援寄附金事業、それと35ページの障害者福祉推進事業、この2点についてお尋ねしたいと思います。

まず最初に、この32のふるさと美祢応援寄附金事業については、まず、ふるさと基金が運用されまして、基金の積み立てが、ふるさと美祢応援基金が1億9,681万4,000円ですか。こういう形で……。

○委員長（猶野智和君） 岡山委員、民生費の部分はまだなので……。

○委員（岡山 隆君） 民生費。ごめんなさい。32ページね。この1点についてお尋ねしたいと思います。

それで、今申し上げましたようにふるさと美祢応援寄附金事業で、事業が継続されまして、この寄附金がですね。今申し上げましたようにふるさと美祢応援基金が1億9,681万4,000円、ここまでふえてきたということで今回初めて取り崩し見込みがですね、6,281万円、こういうかたちになっております。

それでですね、今ふるさと応援基金につきましてはですね、非常にいいことであるということでもかなり推進されてきましたけれども、あまりにもこの返礼品が過剰になりすぎて、全国的にいかがなものかと、こういった声が最近大きくなっております。それに対して、総務省もちょっとその対策にちょっと乗り出していかなくちゃならないと、こういうところの声も出ておましてですね、今後こういった返礼品に対しましては、判断基準というのをその人が今後設けるということも言っていたような気がしております。

それでですね、今後ふるさと美祢応援寄附金事業を行っていくことは非常に大切なものでありますけれども、今後はそういった返礼品に対してのこういった判断基準というのはお考えになってるかどうか。まずこの点についてお尋ねしたいと思います。

○委員長（猶野智和君） 佐々木企画政策課長。

○企画政策課長（佐々木昭治君） 岡山委員の御質問にお答えいたします。ふるさと納税。私たちはふるさと美祢応援寄附金と申しておりますけれど、ふるさと納税の制度において、返礼品の金額が寄附額に対して、かなりの額を占めていると。あるいは、

いま国からの指摘がありますのは、転売されやすい家電等の商品を寄附金にされると。そういうのが問題ではないかという投げかけがされております。

本市におきましては、御承知のとおり、農産物。本市で生産できる農産物やまた本市にお越しいただくための旅行のツアーですかね。そういうふうにしておりますので、本市ではそういうのが該当しないと思ってますし、御承知のとおり、私ども1万円いただきますと、半分を業務委託料としてJTB西日本のほうに委託料として払いますが、そのうち、8割——商品代が8割くらいですかね。まあ、送料が加わりますのでもう少しかかりますけど、それくらいの商品——返礼品をですね、寄附者の方にお返しをしておりますので、私どもは総務省が考えておる課題であるというふるさと納税には該当しないと考えております。

また、今後も適切にそういうかたちで事務を進めていきたいと考えております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 岡山委員。

○委員（岡山 隆君） 非常にそういった、まず返礼品については、適切に美祢の農産物もね。こういったものでしっかり対応していくということを聞きまして、安心しております。

それでですね、今回この寄附金事業の積立金の中から、漫画・アニメ活用推進事業ということで、ふるさと美祢応援基金寄附金を充当するというお話もありました。こういったことは特に広報などに漫画でですね、載っておるとそこを必ず見て、非常に広報を見る機会というものがふえたのではないかと考えておりますし、これは非常にいいことではないかと考えておりますし、これは非常にいいことではないかと考えております。

こういったふるさと美祢応援寄附金の基金を充当していくということで、今後寄附金は市長にお任せということも随分ありますし、あと、いろんな美祢市の発展のためちゅうことでいろいろ要望がたしかあったと思います。

それでですね。今後市長は市長で、そういった充当されるということでいいんですけども、その辺に関する市長にお任せする部分、そして行政にお任せする部分。これに対してですね、ある程度のおおまかな要綱ぐらいはできちゃってもいいんじゃないかと考えておりますけれども、その辺についての要綱というものはなんかあるかどうか、この辺最後にお尋ねしたいと思います。

○委員長（猶野智和君） 佐々木企画政策課長。

○企画政策課長（佐々木昭治君） 岡山委員の再質問にお答えいたします。

本市では、美祢市ふるさと応援基金条例というのを設けておりまして、それに対して基金の管理をしております。また、いま先ほどおっしゃいました要綱というのは設置しておりませんが、その中で種類……。お待ちくださいませ——済みません。失礼しました、寄附金の用途につきまして、人づくりに対して、また秋吉台など美しい自然を守る、また市長にお任せする、この3種類について寄附される方から、御要望をお聞きして、それに沿って事業に充当しておる状況です。

ですので、平成29年度につきましては、例えば秋吉台など美しい自然を守るという御希望いただいた方の基金については、先ほど申しましたように秋吉台山焼き事業、あるいは美祢ジオパーク学習推進事業などに予算を充当しております。

また、人づくりに対しては、漫画・アニメ活用推進事業や美祢——これは教育委員会の事業ですけれど、美祢グローバル人材推進事業などの事業費として充当しております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 岡山委員。

○委員（岡山 隆君） まあ条例等でそういったところ、ある程度明確にしておるということで安心するんですけども、今後は今条例にないような、若干ちょっと入っていくようなそういった要綱についてもですね、今後は返礼品については、家電を送るとか、そういったことがないようにつけていくこともありますし、その辺も今後付け加えて、ふるさと美祢応援寄附金事業というものがいい方向になっていくようにですね、そういったところも視野に入れて検討していただきたいことをお願い申し上げまして、私の質問を終わります。

○委員長（猶野智和君） ほかに。三好委員。

○委員（三好睦子君） 数点お尋ねいたします。

まず、28ページなんですけど、概要の28ページ、防犯灯整備事業とありますが、これは金額がふえてほんとにありがたいと思いますが、市長の灯る街づくり事業と関連してるかと思いますが、防犯灯の設置で集落が多数にわたったり、その集落の人だけじゃなく、ほかの方も使用されるといった公共性がある場合があるのですが、そういうときもこれに入っているのかどうかという点と、もう1点は、マイナンバーにつ

いてですが、確定申告が今行われていますが、確定申告にマイナンバーを書くようにとありますが、これは強制ではないのですが、美祢市の対応はどうかということ、それから——済いません、時間とって。

それから、30ページの美東地域のにぎわい創出事業なんですけど、この報告というか、山大生の28、29でかけて「賑わいのあるまちづくりの創造」と提案があるのですが、報告がありましたでしょうか。ちょっと私記憶がないように思うんですが、この予算組まれたときに、その報告を兼ねてどのようなこの予算の付き方についてお尋ねします。

それと生活バス路線なんですけど、これは予算額がふえてありがたいんですが、県の支出金が減ってるんですけど、増額を要望するとかいったことはできなかったのかと思います。

それからもう1点。証明のコンビニの交付事業——間違えた。住民票の写しとか、——34ページなんですけど、住民票の写しなんですけど、この——マイナンバーカードで住民票を取ったりなんだろうというのは本当に危険極まりないと思うんですが、これはちょっと考えるべきではないか、やめるべきではないかと思います。

コンビニ収納——いえいえ、税金収納が、これ私たち市民の皆さんから、いつでも24時間税金が納められるようにコンビニ収納してほしいという御意見があって、これが実現に向けていることは本当にありがたいんですが、34ページですね。この証明書、カードを利用し、この証明書を取るにはカードが要るのでしょうか。どうかお尋ねします。

○委員長（猶野智和君） はい、では、先ほどの下井委員——最後の部分、下井委員の質問と被るのでここは無しで、よろしいですか。最後はなしでいいです。では防犯灯から、大野総務部次長。

○総務部次長（大野義昭君） それでは、最初の三好委員の御質問にお答えいたします。

まず、防犯灯整備事業なんですけど、この防犯灯整備事業の対象は、各区から要望が挙がってくる——新設なり、取り換えの事業が対象になります。先ほど言われた広域といいますか——それぞれの道路に関しまして多数の人が利用して、そういった所の必要な部分に関してはどうするかということだと思うんですけど、それに関しましては、例えば街路灯の整備に関しましてはそれぞれの、例えば市道であれば市道の関係の部署で検討したり、あるいは通学路等であればそういった通学路を扱う部署等で

必要性を考えながら、予算を計上いくのでありますので、ここでは防犯灯整備にしましては各区が主体となって要望——事業主体となるということを想定をしています。以上です。

○委員長（猶野智和君） では、次のマイナンバーの確定申告。細田総務部次長。

○総務部次長（細田清治君） ただいまの三好議員の質問にお答えいたします。

個人番号が記載された国税の関係書類ですが、今確定申告等もありますが、これは番号上の本人確認のために、今年の確定申告から国のほうが求められておりますので添付をするように指導をしておりますが、ただし、御本人さんが本人確認をできない——書類をお持ちでない方にはですね、そのまま番号の記載をなしに税務署のほうに確定申告書をですね、送っております。またその時にはですね、来年度からは書類を準備されて適切に実施するようにですね、お願いしておるような状況でございます。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 美東地域……はい、石田市長公室長。

○市長公室長（石田淳司君） 三好委員の30ページ一番下段になりますが、美東地域にぎわい創出事業の件でございます。

平成28年度に29年度までということで債務負担行為を設定して、この事業を2年間で実施しているところであります。29年度その報告はあったかということですが、まだ中間報告を受けた段階で最終的な報告を山口大学のほうからは受けておりません。

中間報告を受けた際にはですね、明治の時代から美東地域——今現在総合支所がある辺りの一番中心地だったと思いますが、その街並みを時代を追って図面におとされて、その地域の変革をわかりやすく表示されておる資料を作られておりました。それがどういう経緯でこういうふうに変革してきたのだ、というあたりを28年度では整理をされているんだろうというふうに思っております。29年度におきましては、山口大学として、この総合支所を中心地としてどういうまちづくりが適当だという提案をされるというふうに伺っております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 中嶋地域振興課長。

○地域振興課長（中嶋一彦君） 三好委員の生活バスについて県の支出金の減少……。

で、県に要望ができなかったかという御質問について、お答えいたします。



県の支出金につきましては、このたび平成29年度算定分から県の補助制度の見直しによりまして、県補助路線におきまして、輸送量要件の基準が上げられたということに基づきまして、補助金が減っております。

こちらにつきましては、国交省の承認のために、特に、自治体については——自治体に対しましては協議というものはございません。

ですが、その減少した部分ですけれども、こちらのほう、市の補助金となりまして、従来どおり、国の特別交付税の8割の対象ということにかかりますので、そちらのほうになろうというふうに考えております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） よろしいですか。はい、三好委員。

○委員（三好睦子君） 済いません。30ページの美東地域にぎわいの件で説明を受けましたが、総合支所を中心とするということでしたが、今の総合支所が、の件でちょっと今、総合支所がちょうど古くなってるんですが、それと場所とか——場所を変えろとか、こういったことの内容とかは、市のほうはどのように思っていらっしゃるのでしょうか。

○委員長（猶野智和君） 総合支所の場所を変える。お答えになりますか。はい、石田市長公室長。

○市長公室長（石田淳司君） 30ページの下から二つ目に公共施設マネジメント推進事業とも関連があらうかと思いますが、美東総合支所を中心とした賑わいのあるまちということですね。必ずしも、現在の美東総合支所を活用かどうかって言うと、上のマネジメント推進事業とも関連してまいりますので、必ずしも今の総合支所が中心になるかどうかっていうのはまた別になろうかと思いますが。他の施設を活用するだとか、いろんな方法が考えられようかと思いますが。

先だって、公共施設マネジメント推進事業でお話しをしたかと思いますが、今市が進めようとしておりますのは、総数の数を減らそう。共用化・共有化を進めようということだろうと思いますので、今約400ある箱ものを、今の状態で存続しますと、年間約28億円かかる、1,100億円かかるということを御説明いたしましたが、それを凝縮しよう、圧縮しようということのマネジメントになろうかと思いますが。

以上です。

○委員長（猶野智和君） よろしいですか。はい、ほかにございませんか。はい、杉山

委員。

○委員（杉山武志君） ちょっと教えてください。先ほど、市民が主役のまちづくりというですね、施策の中、32ページになりますが……。コミュニティ助成事業と地域創造プラン実現事業を新設したいというお話がありました。

創造プラン実現事業のほうはですね、1団体100万までということで、少し詳細にお話されたと思うんですが、私聞き漏らしたのか、上のコミュニティ助成事業ですね、これについて、具体的にどういったことを思ってるのかという辺をですね、金額も大きいことですし教えていただけたらと思うんですがよろしく願いいたします。

○委員長（猶野智和君） 中嶋地域振興課長。

○地域振興課長（中嶋一彦君） はい、杉山委員の御質問にお答えいたします。このたび新設いたしましたコミュニティ助成事業でございますけれども、この、まず、定義ですけれども、このコミュニティ助成事業ですけれども、こちらは市内で地域コミュニティ活動を行う団体に対し、団体が自ら企画・立案し、実施する事業等に対して支援し、地域コミュニティの充実・強化を図る事業ということでございます。

それからですね、対象事業といたしましては、5つ——5分野ほど分けております。拠点施設整備、それから、環境保全・美化、それから3つ目が、文化・スポーツ・伝統、4つ目が、地域支援・活用、5つ目が、コミュニティビジネスの5分野としております。

そして、そちらの平成29年度の予算ですけれども、こちらのほう、まず、拠点施設整備のほうですけれども、こちらのほうは、従来ありました、備品——コミュニティ活動に必要な設備等の整備ということで、対象経費は備品を想定しておりますけれども、こちらのほうが10分の10で限度額250万円想定しておりますして、こちらのほうは既に平成28年度の募集をしておりますものを、そのまま引き継ぎまして、29年度には2団体420万円を一応予算要望しております。

それから、同じく拠点施設整備の中で、活動拠点設備助成というもう一つの助成がありますけれども、こちらのほうは、対象団体を、地域住民組織というふうにしておりまして、補助率は3分の1、従来ありました集会施設、それから区集会所の新築・増築及び補修、これらのものに対しまして助成というものでございます。

こちら平成28年度に募集いたしまして、7箇所合計が130万7,000円を受

けておまして、こちらを平成29年度に予算要望するものでございます。

それから、残りの4つですけれど——4分野でございますけれども、こちらのほうにつきましては、2か年の計画と——2か年の事業計画ということで考えておりますので、まず、1年目が補助率が4分の3、それから2年目が補助率が4分の2ということで、それぞれ限度額も1年目が50万円、2年目が25万円ということで設定しております。

こちらにつきましては、新たに29年度に募集を——計画を地域に策定していただいたうえで募集をいたしますので、そちらの内容の審査に基づきまして、次年度に予算化を考えております。以上です。

○委員長（猶野智和君） よろしいですね。杉山委員。

○委員（杉山武志君） えっと、備品関係については、じゃあもう、締め切られて次に予定は入れられないということですか。

○委員長（猶野智和君） 中嶋地域振興課長。

○地域振興課長（中嶋一彦君） こちらのほうは事業の一本化ということで、平成28年度までに、事業をやっておりましたものをそのまま引き継いだ関係でですね、平成28年度で締め切りまして、次回は平成29年度に新たに募集をいたします。で、30年度の実施ということに考えております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 杉山委員。

○委員（杉山武志君） これは、市長さんがよく話しておられる公民館を介したという分の施策に入るんでしょうか、どうでしょうか。

○委員長（猶野智和君） 中嶋地域振興課長。

○地域振興課長（中嶋一彦君） こちらのほうは公民館を介したというところでは、直接ございまして、あくまでも地域コミュニティの助成制度ということで、地域の活性化及び地域コミュニティの推進に関する助成ということで補助制度を一本化して、新たに新設しておるものでございます。

以上です。

○委員長（猶野智和君） ほかにございますか。安富委員。

○委員（安富法明君） 時間が経っておりますが、一点だけお聞きをします。

32ページの先ほどもちょっと質疑がございましたが。ふるさと応援寄附金ですよ

ね。これ28年度予算もですね、同じような扱いがしてあったかどうかちょっとよく見てないんですが、要するに、6,000万の収入に9,400万ぐらいの支出が見えます。要するに、この予算の組み方というのはどういうふうに考えておられるのでしょうか。

○委員長（猶野智和君） 佐々木企画政策課長。

○企画政策課長（佐々木昭治君） はい、済いません。ふるさと美祢応援寄附金の支出なんですけれども、最初にも説明をいたしました、基金に積むためには歳出を通して、もらった、頂いた寄附金をですね、一旦歳出で基金積立金——元本積立金というかたちでですね、一旦歳出をしなくてははいけませんので、頂いた金額よりは歳出額が多くなってしまうという状況にあります。

ですので、支出はですね、9443万5000円になっておりますけれども、そのうち基金に積み立てる元本積立金が6000万、残りのお金の大半が業務委託料としまして、3038万9000円で返礼品の送付に係る分が3000万というかたちになっております。ですので、一旦支出を通して基金を積むようになっておりますので、御理解をいただけたらと思います。

○委員長（猶野智和君） よろしいですか。ほかにございますか。秋枝委員。

○委員（秋枝秀稔君） これは、本当お願いみたいなかたちになるんですけど、地域をまわりますと、交通弱者——お年寄りの方が、非常に交通が皆困っておられまして、昨年は大きな交通実施計画をつくられてまして、29年度で実施——細かい実施計画をつくられると思います。結局、言わば、効率よく運ぶという、なるべく空気を運ばんというかたちの、ぜひとも、効率のよい交通計画、ぜひとも、いろんなこと——いろんなことあると思いますけど。大なたを振るうなり、いろんなことがあると思いますが、ぜひとも頑張ってくださいと思います。特にこの場で何か言っておかれるような具体的な計画がございますか。

○委員長（猶野智和君） 中嶋地域振興課長。

○地域振興課長（中嶋一彦君） ただいまの秋枝委員の御質問にお答えいたします。

先ほど予算の説明のときに簡単に御説明させていただきましたけれども、平成29年度は再編実施計画に入るわけがございます。今年度のマスタープランを策定するときにも市民の皆様に対しましてアンケート調査もいたしました。それから、ワークショップもやっております。それで、いろんな声をお聴きしておりますので、いよいよ

実施計画につきましては、それを基に市民の方一人一人全員の御要望をお聴きすることはできませんけれども、私どもとしましては、できるだけ市民のニーズに合った路線・運行ダイヤを設定していくことが、まず一番と思っております。

その上で、やはり、バス路線に関しましては特別交付税の措置になっているといいますが、かなりの補助金の金額になっておりますので、できるだけ効率性を求めて——補助金をできるだけ削減できるような方向で今のところ計画を考えておりますので、やはり、地域によっては少し市民の方の御協力をいただかないといけないところはありますけれども、できるだけ市民のニーズに沿ったところで計画を進めていって、交通弱者対策ということを一番に念頭に置きまして、事業を進めていきたいというふうに考えますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（猶野智和君） ほかにございませんか。質疑なしと認め、質疑を終わります。  
ここで、この際、3時05分まで休憩いたします。

午後2時54分休憩

-----

午後3時07分再開

○委員長（猶野智和君） 休憩前に続き、委員会を開きます。次に、民生費を議題といたします。執行部より、説明を求めます。福田地域福祉課長。

○地域福祉課長（福田泰嗣君） それでは、3款民生費でございます。

予算の概要は35ページからでございます。予算書は162ページからでございます。ここでは、重点事業及び新規事業を中心に説明させていただけたらと思っております。

1項社会福祉費・1目社会福祉総務費、生活困窮者自立支援事業であります。

生活保護に至る前の生活困窮者に対し、自立支援策の強化を図るもので、委託料など1,163万9,000円を計上しております。近年の生活保護受給者の増加に歯止めをかける重要な事業と認識をしております。

特定財源として、国庫補助金等848万9,000円を計上しております。

続きまして、2目障害者福祉費に移ります。

障害福祉推進事業のうち、身体障害児介助用自動車購入費等補助であります。

車椅子を使用する在宅の身体障害児が住み慣れた地域で生活するため、通院や通学等の移動手段を確保するとともに、保護者など介助者の負担軽減を図ることを目的と

して、介助用車両購入費等の一部を補助するものであり、去る１２月議会定例会において御議決いただき、本年１月より施行しているものであり、１件あたりの上限５０万円を計上しております。

予算の概要は３６ページになります。障害福祉計画推進事業であります。

平成２８年度では、平成２９年度から５年間の障害者施策の基本的な考え方等を定めた美祢市障害者計画の策定を進めているところですが、平成２９年度におきましては、障害者施策のうち、生活支援に関する各種サービスの具体的方策等に特化した計画、美祢市障害福祉計画、これは平成３０年から３年間の計画となりますが、これを策定することとしており、これに係る委託料１８１万５，０００円を計上しております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 河村高齢福祉課長。

○高齢福祉課長（河村充展君） 続きまして、３目老人福祉費につきまして御説明いたします。

老人福祉推進事業につきましては、介護福祉士資格取得助成事業として、１００万円を計上しております。この事業につきましては、平成２８年度の新規事業として、総務管理費の共に生きるまち推進費に計上されておりましたが、所管替えにより、平成２９年度から高齢福祉課を窓口とすることから、このたび、老人福祉費に計上するものでございます。事業内容については、介護福祉士の資格取得の支援を行うものでございます。

次に、敬老祝金支給事業でございます。

人生の節目の年齢を迎えられた高齢者に対し、祝金を支給する事業経費として１，６４６万５，０００円を計上いたしております。

次に、介護保険事業特別会計繰出金であります。

予算額は５億２，２０７万５，０００円で、特定財源として、国庫負担金２７１万３，０００円、県負担金１３５万６，０００円を計上しております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 福田地域福祉課長。

○地域福祉課長（福田泰嗣君） 続きまして、４目福祉医療助成事業費に移ります。

予算の概要３８ページをお開きください。

乳幼児医療助成事業であります。乳幼児に係る医療費の自己負担額を助成するもので、平成28年8月分より、対象年齢をこれまで3歳未満としていたものを未就学児全域と広げ拡充し、所得制限を設けることなく、全額補助により自己負担ゼロとしております。

また、こども医療助成事業を新設し、平成28年8月分より小学生の医療に要する経費のうち、所得制限を設け、医療費の自己負担額を助成しております。

これら2つの事業を継続実施することにより、子育て世代の経済的負担の軽減を図るべく5,299万5,000円を計上しております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 河村高齢福祉課長。

○高齢福祉課長（河村充展君） 続きまして、5目共楽荘費について御説明いたします。

共楽荘運営事業についてであります。これは、養護老人ホーム共楽荘の運営に係る経費であり、事務費につきましては、2,428万6,000円、生活費につきましては、3,440万7,000円をそれぞれ計上しております。

財源につきましては、入所に係る負担金として463万7,000円と1,321万円をそれぞれ計上しております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 鮎川市民課長。

○市民課長（鮎川弘子君） 続いて、6目国民年金費・国民年金業務でございます。

これは、国民年金の届出の受付等に係る事務費でございます。予算額は31万円を計上しております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 福田地域福祉課長。

○地域福祉課長（福田泰嗣君） 続きまして、7目人権対策費に移ります。

人権啓発推進事業であります。人権に対する啓発活動に関する各種事業費等で、33万1,000円を計上しております。

特定財源としまして、県委託金18万2,000円を計上しております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 河村高齢福祉課長。

○高齢福祉課長（河村充展君） 続きまして、8目老人福祉施設費でございます。

カルストの湯管理運営事業につきましては、高齢者福祉施設カルストの湯の管理運営に要する経費であり、８６０万８，０００円を計上いたしております。

財源につきましては、施設の使用料等の３０８万１，０００円を計上いたしております。

続きまして、秋楽園組合運営事業であります。

山口市との一部事務組合で運営しております、養護老人ホーム秋楽園の運営に係る経費として、６８０万円を計上いたしております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 鮎川市民課長。

○市民課長（鮎川弘子君） 続きまして、９目国民健康保険費、国民健康保険事業でございます。

これは、一般会計から国民健康保険事業特別会計への繰出金でございます。

予算額は、３億４０２万４，０００円、特定財源は保険者支援分として国庫負担金が３，００７万３，０００円、また、県支出金としては、保険税軽減等として負担金９，５３４万４，０００円、軽減対策費助成として補助金１，０２１万８，０００円で、合わせて１億５５６万２，０００円を計上しております。

続きまして、１０目後期高齢者医療費・後期高齢者医療制度業務として、後期高齢者医療事業特別会計への繰出金を１億４，３３８万２，０００円、特定財源には保険基盤安定負担金の保険税軽減分として、県負担金９，４７３万８，０００円を計上しております。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 福田地域福祉課長。

○地域福祉課長（福田泰嗣君） 続きまして、２項児童福祉費・１目児童福祉総務費に移ります。

多子世帯等保育料軽減事業であります。

平成２７年度よりスタートしましたこの事業は、保育料について、所得制限を撤廃し、第２子を半額、第３子を無料とする県内トップクラスの事業であり、これに伴う市負担額は５，１７８万５，０００円となります。

さきに御説明いたしました医療費の自己負担額を助成する事業とあわせ、子育て世代の経済的負担の軽減を高い次元で実現しておるところでございます。



予算の概要４０ページをお開きください。

すくすくみね子育て応援事業であります。

子育てに必要な情報を総合的に提供しております、子育て応援サイト「つぼみねっ」とは、平成２８年４月のスタート以来、大変好評をいただき、８，０００人を超える方に御活用いただいております、県内に限らず、全国の都道府県からもアクセスいただいております。

このサイトの大きな特徴は、情報提供ツールに留まらず、「子育て」をキーワードに地域をつなげるコミュニケーションツールの役割をあわせ持つことにあります。

子育てにつながる地域の活動、例えば食育・知育・体育をはじめ、安全安心の野菜の直売、絵本の読み聞かせ等、世代を問わず柔軟にかかわりあいを広げていくことで、魅力ある地域が形成され、ひいては美祢市への定住につなげていきたいと考えております。

情報収集や更新などサイトの管理を行う専属の職員を配置するなど、２３８万２，０００円を計上しております。

また、子育て支援事業を推進するため、すこやか子育て基金事業として、１，０００万円を積み立てます。

次に、児童クラブ運営事業であります。

現在、市内１５カ所に設置をしております児童クラブに加え、平成２９年４月より新たに麦川小学校に児童クラブを設置します。地域の皆様が運営協議会を設置され、運営にあたられます。各児童クラブの運営に係る経費として、６，１３８万９，０００円を計上しております。

特定財源として、国庫補助金１，８０７万３，０００円、県補助金１，８１４万７，０００円、利用者負担５２４万１，０００円を計上しております。

次に、児童クラブ施設整備事業であります。

ここでは２つの児童クラブ施設の新設、及び移設工事費として６，８０５万８，０００円を計上しております。

１つは、平成３０年４月に開校予定の秋芳桂花小学校校舎に一体的に建設を進めております同地域の児童クラブ。１つは、平成２９年４月の厚保・川東・東厚の小学校統合に併せ、厚保児童クラブを移設するものです。

特定財源として、国庫補助金１，６１０万２，０００円、県補助金１，６１０

万2,000円を計上しております。

続きまして、2目児童措置費に移ります。

私立保育園委託事業及び認定こども園補助事業はごらんのとおりでございます。

予算の概要は41ページをごらんいただきまして、3目母子福祉費はごらんのとおりでございます。

次に、4目児童福祉施設費であります。

公立保育所管理運営事業のうち、秋芳北部地域統合保育園整備事業であります。

秋芳桂花小学校に隣接して、嘉万・別府の保育園を統合し、新設することとしており、工事費等2億8,286万2,000円を計上しております。

次に、厚保保育園整備事業であります。

厚保小学校増改築工事に伴う市道付け替えにより、現在の厚保保育園園庭の一部が、市道用地となりますことから、新たに園庭及び駐車場等の整備を行うものであり、用地買収費等1,500万円を計上しております。

続きまして、3項生活保護費に移ります。

1目生活保護総務費・2目扶助費は、ごらんのとおりであります。

予算の概要42ページをお開きください。

4項災害救助費に移ります。

1目災害救助費では、災害救助者に対する援護事業経費として、見舞金の支給、災害援護資金利子補給金を計上しております。

以上、民生費の説明を終わります。

○委員長（猶野智和君） 説明が終わりました。それでは、質疑を行います。質疑はございませんか。岡山委員。

○委員（岡山 隆君） それでは、1点質問してまいりたいと思います。

まず、35ページなんですけど、障害者福祉推進事業で、身体障害児介助用自動車購入費等補助ということで、車椅子を使用する在宅で身体障害児が住み慣れた地域で生活するために、通院や通学等の移動手段を確保するために、介助者の負担を軽減を図るということで、非常にこういったお子さんをもっておられるときに、車を改造して車椅子で自家用車に乗りやすいようにするというので、非常に介助をする方にとっての負担を軽減するというので、また、改造するにあたって50万円の予算をつけたということは、私は非常に素晴らしいことだな、よかったなと思っております。

それで今後もう既に、２９年１月で実施はされておりますけれども、今年度も５０万予算がついているということで、これについては実際、１名ほど通学等でもうそういった方がおられて、そういった予算を——その５０万をつけていった、今のところこれを要望する方というのは１名なのか、２名なのか、今のところ人数の把握というのはできておるのか、この辺についてお尋ねします。

○委員長（猶野智和君） 福田地域福祉課長。

○地域福祉課長（福田泰嗣君） ただいまの岡山委員の御質問にお答えをいたします。

先ほど御説明をいたしましたとおり、この事業はこの２９年１月から施行して、スタートをしております。これを施行するにあたりまして、どれ位の対象者がいるかということで事前に調べておりまして、対象者は——対象者といいますのは車椅子を利用される児童の方々です。これを見ますと１２名ということでおられました。今時点で言いますと１名の申請が早速ございました。

補正を組まさせていただきました理由といたしまして、年度変わり——新年度を迎えるにあたりまして学校の通学なども出てくる。そういったものに合わせて車の更新であるとか、お子様ですから年齢がだんだん大きくなると、今まで抱えて乗せていた車が、だんだん乗せられなくなるそういったものに対して車椅子をそのまま載せられるような車両、こういった補助を優先的に考えようということでスタートさせたものでございます。

ですから、今は——今現在は１名の申請で、それも間もなく支払いというかたちになろうかと思っております。それ以外はまだございませんが、これは積極的に市報等、周知を徹底してぜひ活用して地域になるべく出ていただくようなですね、家に閉じこもるのではなくて外に出ていただくようにしていただけたらな、活用していただけたらなと思っております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 岡山委員。

○委員（岡山 隆君） 自動車購入にあたっての補助制度については、新車を買う時にもう既に改造した車についてお支払いするのか、購入した後、中古やけれどもそれがしたいという場合もあると思いますので、これはどちらが対象になるのか、どちらであろうがとにかく５０万円を補助するというそういう考えなんでしょうか、どうでしょうか。この点についてお尋ねします。

○委員長（猶野智和君） 福田地域福祉課長。

○地域福祉課長（福田泰嗣君） ただいまの再質問にお答えをいたします。

これはどちらも対象となっております。新車の場合は通常の車両を買う場合、それと改造を加えた場合、この差額で限度額50万円として、その方の障害の状況に合わせて、必要であると認められた範囲で支給をしております。改造につきましても同様でございます。改造が必要であれば50万円の範囲で認めるということでございます。以上です。

○委員長（猶野智和君） 岡山委員。

○委員（岡山 隆君） 今回広報をしっかりとしていくということでありますので、今後は状況によっては1名ではなくて、2名・3名、そんなたくさんにはならないと思いますが、人数が2名・3名となったときにはまたその時点で補正を組まれるのでしょうか、どうでしょうか。この点について、再度お尋ねいたします。

○委員長（猶野智和君） 福田地域福祉課長。

○地域福祉課長（福田泰嗣君） 再質問にお答えをいたします。

29年度につきましては、1名、1件の満額として50万円を計上しております。どちらにしましても事前に、御相談というかたちをとりますので、その際必要であれば早急に補正対応というかたちもとる場合もございます。以上でございます。

○委員長（猶野智和君） ほかにございますか。三好委員。

○委員（三好睦子君） お尋ねいたします。ページが38ページなんですけど、こども医療助成事業なんですけど、これは昨年8月からということなんですけど、予算額的には下がっておるんですけど、所得制限なし——今現在が所得制限があるんですけど、これが所得制限を無くすという方向でできないのかどうか、という点が一点と、39ページで秋楽園組合運営事業なんですけど、これ入居者が何人いらっしゃるのでしょうか。それと、41ページなんですけど、低所得者福祉事業の中で生活保護事業実施のため嘱託医の報酬及びシステム更新委託等の経費とありますが、これのシステム更新とかいう場合にはマイナンバーが関係してくるのでしょうか。この点についてお尋ねします。

○委員長（猶野智和君） 福田地域福祉課長。

○地域福祉課長（福田泰嗣君） ただいまの三好委員の御質問にお答えをいたします。

まずは、こども医療費助成制度でございます。ただいまは、所得制限を設けて実施をしておるところでございます。

大体この小学生を見ましてですね、28年8月から始まりましたが、7割の方がこれを利用しておるところでございます。

これを所得制限を撤廃してということでございますが。これは全体的なバランスをとりながらですね、まだまだ子育て環境が整っていないところもございますので、全体のバランスをとりながら考えていきたいと思っております。

で、先に一つ飛びまして、低所得者福祉事業のシステム改修につきましてでございます。これはシステムの——古いシステムを今活用しておりますので、その更新ということでございます。マイナンバーにつきましては直接は関係がございません。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 河村高齢福祉課長。

○高齢福祉課長（河村充展君） はい、二番目の質問の秋楽園のほうに今現在何人いらっしゃるのかということでございますが、美祢市の方は2名ほどいらっしゃいます。

こちらの負担金の計算方法につきましては、基本割30%、人口割30%、財政規模割30%、入所者割20%という定めの中で負担金を積算しているところでございます。

以上です。

○委員長（猶野智和君） よろしいですね、三好委員。

○委員（三好睦子君） 41ページの生活保護事業実施のための嘱託医って、このちょっと、制度がわからないんですが、生活保護実施のために、この、別に、この医療がかったりするっていうほどの、なのです、この、この文言についてちょっともう少し詳しくお願いいたします。「嘱託医の報酬及び」っていうところです。

○委員長（猶野智和君） 医師の報酬の部分詳しくということですね。はい、福田地域福祉課長。

○地域福祉課長（福田泰嗣君） ただいまの再質問にお答えをいたします。

嘱託医の報酬でございますが、これは生活保護として認定をする際にですね、傷病されているか等もございます。そういったことで、その状況を把握するための経費でございます。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） よろしいですか。はい、ほかにございますか、はい、杉山委員。

○委員（杉山武志君） 私のほうから4点、ちょっと教えてください。

35ページの生活困窮者自立支援事業、これですね、あとにですね、41ページのほうに生活保護者の扶助事業等、金額が出てるわけなんですけど。一定の成果が上ってるのか、円滑に行われているのか。この予算額が順当なものなんだろうかという疑問を持ちましたので、その辺のお考えをお示してください。

それと36・37ページ、36ページの下に老人保護措置事業と37ページに緊急通報体制等整備事業。先ほど補正の時にですね、当初見込みに至らないということで108万4,000円補正をされております。なのにここではふえておるということは、当初見込みが増加しておるのかなという辺を教えてください。

それから、38ページ、共楽荘運営事業費ですが、先ほど補正の御説明の際、平均32名ということは、御説明にあがりましたが、339万3,000円補正をされております。にもかかわらず、ここでちょっと増額されておるということは、人がふえられる御予定があるのかという辺ですね。

それと、最後になりますが、39ページ、カルストの湯管理運営事業、これは今年度当初予算が100万近く減額されております。そのちょっと理由をですね、灯油代等いろいろありましようから、減額の理由を教えてください。

○委員長（猶野智和君） 福田地域福祉課長。

○地域福祉課長（福田泰嗣君） 杉山委員の御質問にお答えをいたします。

私からは最初の生活困窮者自立支援事業、この成果でございます。これは、平成27年度からスタートしておる事業でございます。内容は先ほど説明をいたしましたとおり、保護になる前ですね、これを未然に防ぐという事業でございます、主には相談です。相談が事業の主でございます。

それから、就労の支援でございます。こういったところで働かないかという、これはハローワークと連携をしてやっております。

成果が上がったかどうかという数字で言いますとですね、なかなかこれは正直申しまして、なかなか、難しゅうございます。まだ段階といたしましては、そういった生活困窮者の方とですね、話をしやすい関係をつくっていくというような段階でござい

ます。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 河村高齢福祉課長。

○高齢福祉課長（河村充展君） 御質問いただきました件にお答えいたします。

まず、36ページの老人保護措置事業の件でございます。補正減をかけたが当初予算が上がってるというところでございますけれども、実際に現状の、いわゆる養護老人ホーム等に御入所いただいている方については、少ないということでの決算見込みによって補正は減とさせていただいておりますけれども、ある程度受け入れられる態勢ということが必要ということで、予算は確保させていただいているというものでございます。

また必要度に応じまして、補正で減かけたり、補正で増というかたちをとらされていただければと思っております。

次に37ページ緊急通報体制等整備事業につきましては、これは一人暮らしの方の緊急事態に迅速な対応を行うための緊急通報システムの整備事業ということでございます。

古くからの転送方式というものと、今現在進めておりますセンター方式というものがございます。センター方式につきましては、事業者に委託をしまして、緊急時の対応を24時間受けていただくということになりますので、一定の経費がかかっております。今現在転送方式というものを、徐々にセンター方式に切り替える段取りをしております。今までの転送方式というものが、御近所の方、民生委員の方等に緊急時にお知らせがいくというものでございますけれども、なかなかそういう体制がとりづらい地域が多くなっているということがありまして、センター方式を今現在は進めておるという状況の中で、徐々に切り替えるにあたっての経費として29年度の予算を計上させていただいてるところでございます。

共楽荘につきましても、先ほどの措置事業と同じように現状としては、共楽荘の入所者が少なくなっている、今現在定員50名に対して25人という状況になっております。

しかしながら、こういった独居の高齢の方、日常生活に不安を覚えてらっしゃる方、そういった方々が徐々にふえることも加味しまして、受け入れができるほどの予算を組まさせていただいているというところでございます。

それと、カルストの湯——３９ページのカルストの湯管理運営事業費、こちらが１００万円減になっているというところでございますけれども、こちらにつきましては工事請負費を２８年度は計上させていただいております。老朽化に伴いまして、いろんな部位で故障が出ております。修繕もさることながら 新たな設備の設置、取り替えということが必要であったことから、２８年度については工事請負費等も計上させていただいておりますが、２９年度につきましては、大型のものが無いということで、修繕のみという対応をする関係で１００万円の減となったものでございます。

以上です。

○委員長（猶野智和君） よろしいですか。ほかにございませんか。秋枝委員。

○委員（秋枝秀稔君） お尋ねいたしますけど、３７ページに老人クラブが——老人クラブの関係でお尋ねいたしますけど。県費が若干ですけど、２万８０００円落ちているというのは、これはやはり組織率の低下とかそういう状況ですか。お尋ねいたします。

○委員長（猶野智和君） 河村高齢福祉課長。

○高齢福祉課長（河村充展君） ただいまの秋枝委員の御質問にお答えいたします。

こちらの老人クラブ育成事業に係る県支出金につきましては、年々減らされているというような現状でございます。これにつきましては、県の補助率の見直しといたしますか、全体枠が徐々に減っているという中で、按分をされておりますことから県内の全域で減らされているというのが現状であろうと思っております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 秋枝委員。

○委員（秋枝秀稔君） ありがとうございます。その減った分を市で補填されておるというのは、大変ありがたいなというふうに思っております。やはりこの老人——私、老人クラブ、よい——大変重要というかですね、やはり、高齢者の方を連れ出すというかたちで、大変老人福祉についてはよい事業だというふうに思っております。またひとつ、県の補助減に負けんと市の補助でひとつよろしく願いいたします。

○委員長（猶野智和君） ほかにございますか。戎屋委員。

○委員（戎屋昭彦君） 先ほどの杉山委員のカルストの湯の質問の続きと継続になるかと思いますが、先ほど河村課長のほうから今年度と来年度の予算は大型補修——済みません、いろんなことが無くなって今年は通常の修繕ということで減額してますと



いうお話だったと思うんですけど。このあたり、大型の設備の改修という、いろんなことがあったときに、今年度、私も有線放送で二度か三度、急遽カルストの湯がお休みします、ということで設備のいろんなことがあったかと思いますが、そのあたりと、この予算の部分との関係はあるんでしょうか。

○委員長（猶野智和君） 河村高齢福祉課長。

○高齢福祉課長（河村充展君） ただいまの戎屋委員の御質問にお答えしたいと思います。

カルストの湯の運営事業にあたりまして、休刊を余儀なくしたというところにつきましては、利用者の方々に大変御迷惑をおかけしたと思っております。

これにつきましては、先ほども申しましたように、いろんなところで不具合が生じているということもございます。必要に応じて新規の設備を導入するということに対応させていただいておるわけですが、ボイラー等一部で不具合が起きた段階で動かなくなって湯が出ないという事態もございました。こういった関係で休館を余儀なくしたわけですが、日常管理につきましては、カルストの湯の所長のほうとも合わせまして、一緒に何を優先的に更新していきながら、補修をしながらという対応をすべきなのかは現場のほうとは常に連絡を密にとりながら対応しているところでございます。できる限りそのようなことが無いように今後も対応したいと思っております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 戎屋委員。

○委員（戎屋昭彦君） 状況がわかりました。やはり、高齢の方もこのカルストの湯に行くのを非常に楽しみにしていらっしゃると思いますので、ぜひ来年度もそういった補修・点検等していただいて、急遽こういった休館というのがないようなことで運営していただけたらなと思って要望いたします。

○委員長（猶野智和君） ほかにございますか、三好委員。

○委員（三好睦子君） ページが37……37ページなんですけど、先ほど杉山委員から質問もありましたが、緊急通報体制整備事業についてお尋ねしますが、高齢者の方が緊急な時に、固定電話まで行くのが大変思うんですが、携帯電話でもできるようなシステムなのでしょうか。お尋ねします。

○委員長（猶野智和君） 河村高齢福祉課長。

○高齢福祉課長（河村充展君） ただいまの、三好委員の御質問でございますけれども、お手持ちの携帯電話で操作ができるというシステムではございません。特別なシステムということで御認識いただけたらと思います。

以上です。

○委員長（猶野智和君） ほかにございますか。高木委員。

○委員（高木法生君） 1点お伺いしたいと思います。41ページの扶助費で、先ほど杉山委員から質問があつて重複になるかもしれませんが、生活保護扶助事業でございます。リーマンショック以来ですね、受給者が大変急増しておるということでは、全国的に言われておるところでございますけど、美祢市におきまして予算額から見ますと、27年度が3億100万円、それから、28、29は同額の3億4000万円というふうな予算額になっております。

現在、状況が美祢市においてはふえつつあるのかどうか、その辺の状況と、この予算書の199ページで就労自立給付金というのがございまして、これは平成26年に改正——生活保護法によって就労自立給付金といものが制定されたと思うわけでございますけれども、この生活保護費の待遇者というか、廃止者を促すということで——の支援策として生まれたものと思いますけれども、この現状はどれぐらいの数の方がおられるのか、35万円は昨年と同様の額でございますけれども、その辺の状況がわかれば教えていただきたいと思います。

○委員長（猶野智和君） 福田地域福祉課長。

○地域福祉課長（福田泰嗣君） ただいまの高木委員の御質問にお答えをいたします。

まず、全体の生活保護者・被保護世帯・被保護者数ですが、これは微増ながらふえた状況でございます。

先ほど言われました。予算書199ページ、就労自立給付金につきましては、これは先ほどおっしゃいましたとおり、平成26年7月にできたものでございまして、これは就労——働くために、それによって保護が切れると。切れた場合、最初なかなかまだ安定してない状況を、ここ6カ月ぐらいを、例えば国保の保険料であるとか、医療費であるとか、こういったところを負担しましょう——補助しましょう、6カ月で見ましょうという事業でございます。

就労移行するには、大変有効な事業と思っておりますが、実際ここ2年の状況は、ゼロでございます。現状を申しますと、なかなか美祢市の中で、被保護者となってお

られる方、半数以上が高齢者でございます。それから、残りは障害のお持ちの方あるいは病気の方ということが大半でございます。

で、こちらから見て就労——何らかの仕事ができるのではないかなという方は1割程度でございますが、こういった方には積極的に話をさせてもらって……ですから、全く働いておられないというわけではございません。働いているけど収入が達しないから保護を受けている方もおられまして、ここの御指摘がありました就労自立給付金につきましては、現状を申しますと、仕事を始める、しかしなかなか継続しないというような現状でございます。

先ほど杉山委員の御質問にお答えいたしましたとおり、こちらと——市との関係性——委託をしております社会福祉協議会との関係、御本人との関係性をしっかりつけて、なるべく就労につなげていきたいと考えております。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 高木委員。

○委員（高木法生君） 生活保護費が少しでも圧縮されるならという思いで、今御質問をしたわけです。生活保護を受ける期間が長くなれば、なかなか支援というものが難しくなると言われておりますけれども、申請時とか、そういった時期に、そういった御相談等をしっかりしていただければいいかなと思っていますので、今後ともよろしく願いたいと思います。

以上です。

○委員長（猶野智和君） ほかにございますか。末永委員。

○委員（末永義美君） 済いません、この場から御質問を申し上げます。

まず、概要35ページの地域福祉推進事業という部分ですけれども、この地域福祉計画と活動計画は、市民の暮らしにとって福祉という文字では済まされない大変重要なものであると私は思っております。

そこで、この福祉の予算ですけど——当初予算ですか、これは担当部署から見れば十分であるという予算と思えるかって部分と、その次にこの文言があります、社会福祉関係団体の活動等に援助する、社会福祉関係団体というのはどういう基準で決められるのか。そして、支援を援助してから、厳しい言葉ですけど、要所要所でそれが誠実に実行されているかというふうな、途中どこかでのチェックとかそういうものはあるか、または用意されているか、または考えられるかっていう点を、まずお聞きしま

す。

そして次に、同じ概要 4 1 ページの児童扶養手当給付事業です。

これ、私もずっと福祉の現場にどっぷりといまして、よい思いも嫌な思いもしてきた部分でして、本当に家庭にいろんな事情があって、お父さんと一緒に子供たちがまた、いろんなケースがあるんですけれども、本当に頑張ってる方もおられれば、ペーパー上の離婚というかたちでほぼ同居、もしくは近所に住んでいていろんなことを考えて、このほうがこういう手当があると、そういう思惑で形式的には、こういうかたちをとっている、昔いた都民は結構ケースがあったんですね。美祢ではないというふうに信じてはいますけども。

この場合で、本当に苦しんでいる人たち、本当にこの助けがあったら子供たちが、いろんな意味で、笑顔があるのに、と同時に今言ったみたいないろんな方々いらっしゃります。全国的には。

そこで、そういう手当給付を決定した後の同じく先ほどと同じように、その実情・実態調査これが今まであったかなかったか。そこは美祢にはそういうケースはないから必要ないとおっしゃられるのか、その点のことちょっとお聞きしたいと思っています。

それは、同じく 4 1 ページにあります、先ほどからもう出ています生活保護扶助事業も同じであって、昔 6 0 代ある女性が事故で障害を体に持ってしまった。そうすると、御夫婦でいたよりは单身になったほうが、東京都の手当が多くもらえるから同じ団地の 3 階と 1 階に部屋を分かれてペーパー上で離婚した、そして多くをもらってるという方がたくさん、それを、そういうケースがいっぱい見てきました。

ですから、これは、そういう方をただこの——魔女狩りをするんじゃなくて本当に困っている場合は、本当にボンと助けるべきですし、そうじゃない場合はやはり適正に税とか市民やいろんな人の思いが使われるように、できれば、いろんなこの講習会を含めて、または厳しく言えばチェックも含めて、その辺のことがしっかりとチェックされ決められそれが——それによって市民が本当に生活が頑張って潤ってきてるのか、またそうでない場合のチェック、その後の対処・対応っていうのをどのように考えてらっしゃるのか、ここをちょっとお聞きしたいと思います。

○委員長（猶野智和君） 福田地域福祉課長。

○地域福祉課長（福田泰嗣君） ただいまの末永委員の御質問にお答えをいたします。

まず、地域福祉推進事業の件でございます。予算は十分かというところでございますが、実際に最後の質問にもありましたけど、どのように、実際やっているかを確認をしておるかというところにもつながるかと思いますが、これは実績報告というものを出していただいておりますところでございます。それを見て聞き取りをしながら、妥当性というものを計って次の年度を決めておるところでございますが、正直申しまして年々財政が厳しいなか若干減額方向にあるのが実情でございます。

で、関係団体の基準でございますが、今の現状を申しますと更生保護協議会というのがございます。これは、県の更生保護の協議会への負担金でございます、あとは美祢市の保護司会、それから更生保護女性会——これは美祢と美東・秋芳に、美東・秋芳が一緒になっておりますけど、これがございます。それから戦没者の遺族会でございます。それから多くは社会福祉協議会でございますが、これはチャイルドシートの貸与であるとか、高齢者の生活相談であるとか、あとは権利擁護であるとかそういった事業をされておる。営利目的ではない部分でございますが、そういったところへの補助というところでしております。正確な基準というものは設けておらないのが現状でございます。

児童扶養手当の件でございます。いろいろそういった不正受給であるとかそういったお話が全国的に問題となっておるところでございます。しかしながら、これは申請主義でございます。こちらの対策チェック機能といたしましては、やはり何らかのこれはちょっとおかしいんじゃないかという情報が入りましたらですね、なるべく当事者とお話しをするように、また当事者では話せない場合はその御家族であるとか、そういった方とお話しをするように努めておるのが現状でございます。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） ほかにございますか。質疑なしと認め、質疑を終わります。

この際、説明員交代のため、休憩いたします。

午後 3 時 5 分休憩

-----

午後 3 時 5 分再開

○委員長（猶野智和君） それでは休憩前に続きまして、委員会を続けます。

次に、衛生費を議題といたします。執行部より、説明を求めます。池田生活環境課長。

○生活環境課長（池田正義君） それでは、衛生費に入りまして、予算の概要の４２ページ、４款衛生費・１項保健衛生費・１目保健衛生総務費の飲料水水源確保事業でございます。

飲料水水源確保事業は、未給水地区における飲料水を確保するためのボーリング調査に対して、事業費の３分の１、３０万円を上限として補助する事業で、２９年度は２件６０万円の支出を見込んでおります。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 内藤健康増進課長。

○健康増進課長（内藤賢治君） 続きまして、地域医療推進事業の救急医療体制整備事業でございます。

これは、本市の救急医療の充実を図るため、民間の救急告示医療機関に対して救急医療に必要な医療機器購入に対する補助として１，４００万円計上しています。

次に、看護師奨学金貸付事業でございます。

これは、市内医療機関の看護師を確保するための奨学金貸付事業で、継続２名、新規３名分を見込み、３００万円を計上しています。

続きまして、２目予防費、予防接種事業でございます。

この事業の主なものは、予防接種法に基づく予防接種で、日本脳炎、高齢者のインフルエンザ、ＢＣＧ等、接種を法が規定する対象年齢者に個別接種する事業で、８，４７９万７，０００円を計上しております。

この特定財源として、予防接種事故健康被害補償負担金２９２万５，０００円、高齢者インフルエンザ予防接種及び成人用肺炎球菌予防接種個人負担金１，３２３万１，０００円を見込んでおります。

次に、予算の概要は４３ページがん検診事業でございます。

これは、がん予防の一環として、個別検診、集団検診の２つの方法により胃がん検診、肺がん検診、大腸がん検診、腹部超音波検診、乳がん検診、子宮がん検診、前立腺がん検診等を実施する予定としており、事業費４，４３９万６，０００円を見込んでおります。

この事業に関わる特定財源として、検診時の個人負担金４３３万４，０００円を計上しています。

次に、３目母子衛生費、不妊治療費助成事業でございます。

これは、医療保険適用治療である一般不妊治療費助成のほか、医療保険適用外の体外受精や顕微授精治療費の一部を助成し、治療費の負担を軽減するため、249万円を計上しております。

特定財源として、一般不妊治療費助成に係る県支出金として、19万5,000円を計上しています。

○委員長（猶野智和君） 以上で説明は終わりですか——池田生活環境課長。

○生活環境課長（池田正義君） 資料は44ページ、1項保健衛生費・4目環境衛生費でございます。

当該事業のうち、支出の大半を占めるのが、電気自動車充電設備管理運営事業でございます。市内には3カ所に設置してございますが、充電器の管理運営費として203万5,000円を計上しております。

なお、財源内訳にその他として198万円の歳入を見込んでおりますが、これはトヨタ、日産、ホンダ、三菱の4つの自動車メーカーが出資した合同会社である日本充電サービスからの施設の維持管理に関わる補助金を計上しておるものでございます。

次に、5目斎場費の斎場管理運営事業でございます。

市が運営する2つの斎場のうち、大嶺町にある「ゆうすげ苑」は、平成27年度より5年間、指定管理による管理運営を行うこととしており、3年目の平成29年度は2,326万1,000円を計上しております。

一方、美東町にある船窪山斎場につきましては、委託による管理運営を行うこととしており、委託料等928万8,000円を計上しています。

なお、財源内訳のその他は使用料でございます。

次に、6目環境保全費の大気等測定事業でございます。

こちらは、市内27カ所にあります測定器に雨水をため、毎月これを採取、分析して、降下ばいじん量を測定するもので、417万4,000円を計上しております。

次に、2項清掃費・1目清掃総務費の合併浄化槽設置整備事業でございます。

これは、公共下水道等の処理区域外での合併浄化槽設置に対しまして、補助を交付するもので、今年度と同数の60基分2,330万4,000円を計上しております。

この財源として、循環型社会形成推進交付金という国庫支出金776万8,000円を見込んでおります。

なお、ここでちょっと補足……後半に秋山議員に対して、人口——人口普及率です

ね。こちらの数字をお答えしましたけれど、一応補足として説明させていただきますと、60.1%とお答えしましたが、これは合併処理浄化槽を設置されている人口を下水道・農業集落排水の整備区域の人口を除いた純の浄化槽の整備区域の人口で割ったものでございます。総合計画に載っております合併処理浄化槽の整備数値に関しましては、参考までに申しますと、30.7ということになりますので、御留意いただければと思います。

資料のほうに戻りまして、45ページ、2項清掃費・2目塵芥処理費でございます。

1番上の廃棄物リサイクル推進事業におきましては、ごみ収集などを委託しておりますが、その経費として1億1,531万4,000円を計上しております。

なお、その他の3,409万4,000円は、ごみ収集料に係る——ごみの袋の販売手数料に係るものでございます。

次のカルストクリーンセンター運営費に関しましては、カルストクリーンセンターは主に市内の家庭から排出される可燃系の一般廃棄物を固形燃料化にする施設であります。その管理運営として1億3,250万1,000円を計上しております。

なお、財源内訳のその他は890万1,000円とありますのは、施設へのごみ持ち込み手数料でございます。

3番目の不燃物最終処分場管理運営事業でございますが、不燃系ごみの持ち込み先のうち、美東最終処分場と美祢最終処分場の維持管理に係る費用として1,713万5,000円を計上しております。

最後に、3目し尿処理費でございます。

し尿処理の衛生センター管理運営事業でございますが、衛生センターでは、市内で排出されるし尿及び浄化槽汚泥の処理を行っており、その処理に係る費用として6,065万4,000円を計上しております。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 内藤健康増進課長。

○健康増進課長（内藤賢治君） 次に、予算の概要は46ページでございます。

4項病院費・1目病院事業費、病院等事業会計繰出事業でございます。

昨年の当初予算に比べて1,425万9,000円の追加となっておりますが、これは主に介護老人保健施設の企業債の元金・利子償還分と送迎用車の更新によるもので、8億5,419万8,000円計上しております。



以上で、衛生費を終わります。

○委員長（猶野智和君） 説明が終わりました。それでは、質疑を行います。質疑はございませんか。岩本委員。

○委員（岩本明央君） 最後に説明がありました。病院費についてお尋ねいたします。

今説明がありましたように、28年度は8億4,000万弱。今度は——29年度は8億5,500万、約1,500万円ぐらい予算がふえるわけです。

いろいろ前からも、いろいろ話がありますが、この病院の今の8億5000万強の——はですね、一般会計の予算の168億6,000万の2%になるわけです。大変危惧しておるわけですが、やはり何とかですね、何とか支出を抑えないといけないんじゃないかと思っております。

で、私12月定例会でこのことについて質問いたしましたが、地方交付税で一部はみてもらえるというふうな答弁がありましたけど、前からいろいろ地方交付税が——お金がもらえるのが減ってきますよというふうな答弁もたくさん聞いておりますが、その辺のことはどのようなのでしょうかということが1件です。

それからもう一つ、山口県内に13市、市がありますがこの市立病院、市立病院は美祢市は2つあったり、山陽小野田は旧山陽町の病院があったり、萩にも市立病院があるようですが、この辺の——美祢市内の、あ、失礼。山口県内の市立病院、各市でどこがなんぼかということがもしわかれば教えていただきたいと思っております。

以上、その2件です。

○委員長（猶野智和君） 竹内財政課長。

○財政課長（竹内正夫君） ただいまの質問にお答えしたいと思います。繰出金の中身につきましては、毎回繰出基準に基づきましたものについて支出をしているものでございまして、その中身については病院の事業の体制もありますし、事業の内容もあります。主なものについては償還金でありますとか、実際の繰出基準に基づいた支出でございしますので、例年その算定根拠に基づいて出てきたものがこの額でございまして、

そして、地方交付税——その基本的に繰出基準に基づいたものにつきましては、地方交付税からの措置がございしますので、基本的にはその繰出基準に基づいたものでやっておりますので、要求があつて算定した結果ですね、結果が出るとということで、これを減額する方向でとかいうことは、病院事業のあり方のほうで体制を変えてとかいうことがございません限り、積極的に一般会計——繰出側からとしての削減の検討

というのは難しいものがあると思っています。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 篠田副市长。

○副市长（篠田洋司君） はい、失礼します。岩本委員の御質問にちょっと補足させていただきたいと思います。繰出基準については、病院への繰り出しについては、かつてからいろいろ委員から御指摘を受けて、本市は明確に区分しているというふうに自負しているところでございます。

他市の状況ということを言われました。これ、平成27年の決算カードでございます。本市は2病院で合わせて8億5,000万ちょっとの繰り入れをしてるわけですが、これは決算カードですから、公表しても構わないとは思いますが、萩市は1病院で5億5,470万2,000円というデータが残っておりますので、繰出基準に基づいて適正に繰り出ししてるものというふうに理解をしております。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 三浦市民福祉部長。

○市民福祉部長（三浦洋介君） 岩本委員の御質問にお答えをいたします。

県内の市立病院というか、公立病院の数ということでございます。申し上げます。下関が2カ所、萩が1カ所、山陽小野田同じく1カ所、それから周南市1カ所、それから光2カ所、それから岩国同じく2カ所、周防大島3カ所、美祢が2カ所で計14カ所ということでなっております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 岩本委員。

○委員（岩本明央君） そうすると今副市長のほうから答弁がありましたように、私が先ほど申し上げましたように、将来の美祢市の財政……危惧しておるわけです。その辺も考えて質問したわけですが、地方交付税——先般の質問にも一般質問でも答弁がありましたように、地方交付税で一部みてくれるということがありましたんで、それともう一つは時期も聞きましたけど、安心まではいきませんが、そういうふうなことで一応心配をしながら——危惧しながら、半分納得したようなかたちでございます。

で、もう一件のですね、市の市民病院——たとえば、山口なんかは全くないんですよ、日赤とか済生会とか、小郡の第一病院とか総合病院が大変発達しております。

また、防府なんかも県立病院の大きなのがありますし、山口の場合には私立の山口

病院ていうのがたしかあったと思いますが、そういうことでやはりいくら地方交付税でみてもらえとはいいながらこんな小さい人口が2万5,000しかないような人口で、予算も168億一般会計が、で、2つもあるという、大変私は危惧をしておるわけです。将来子供や孫のためにはぜひ少しでもこういうふうな繰出金を減らしていけるように私は希望しております。希望を兼ねまして終わります。

○委員長（猶野智和君） ほかにございますか。秋山委員。

○委員（秋山哲朗君） 岩本委員が病院のことを言われました。繰り出すほうですから場は違うかもわかりませんが、今の質問はやはり市長にすべきであろうというふうに私も思いますし、市民が不安がってるというのもこれはわかります。

が、しかし、正確な数字ですね、8億5,000万繰り出すからいくら戻ってくるんだ、一部じゃないんですよね。本当は、もっとあるとは思いますが、正確な数字をやはり市民の前で発表すべきじゃないかと思います。そこで安全・安心を確保するための、今そのために病院改革をやってるわけですから、その辺をきちんと誤解の無いようなことをこのカメラの前で言われたほうがいいんじゃないかと私は思っております。

○委員長（猶野智和君） その辺り正確な数字をまた市長がおられる総括質疑の時よろしいですか。（発言する者あり） 篠田副市長。

○副市長（篠田洋司君） 繰入金については、たしか病院のほうで正確な基準内と基準外と分けていると思いますので、またその資料を改めて……予算書の病院のほうの、7ページのほうにつけてあるので、ごらんいただければと思いますが……施設ごとに地方公営企業法の18条と17条の2と17条の3ということで、負担金と補助金に分けて記載しておりますのでごらんいただければと思います。

以上でございます。〔「はい、わかりました」と呼ぶ者あり〕

○委員長（猶野智和君） よろしいでしょうか。そのほかございますか。下井委員。

○委員（下井克己君） まず、合併浄化槽設置整備事業の中で、県、国——国支出金を7,768万円と言われました。776万8,000円に訂正してまずいきたい——お願いしたいということと、もう1件が42ページの緊急医療体制整備事業の「民間の救急告示医療機関に対して」ってあります。1,400万。これもしよろしければ、民間のお名前を教えていただければと思います。1,400万、確かに医療器具ですので高いというのはわかります。もしよろしければ、結構です。

○委員長（猶野智和君） 内藤健康増進課長。

○健康増進課長（内藤賢治君） ただいまの下井委員の御質問にお答えいたします。

今現在の美祢市内の民間の救急告示医療機関は松永救急クリニック、1社のみでございます。

ちなみにここに民間のと書いておりますのは、救急告示医療機関としては、市立病院と市立美東病院とがありまして、その中でこう区別したものでございます。市立病院と美東病院につきましては、うちのほうで繰出金を出しておりますので、この対象から外しておるということでございます。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 池田生活環境課長

○生活環境課長（池田正義君） 大変失礼いたしました。合併浄化槽整備事業におきまして、国庫支出金は776万8,000円でございます。済いません。

○委員長（猶野智和君） 高木委員。

○委員（高木法生君） ページの42ページでございますが、看護師奨学金貸付事業でございます。たしかこれは、平成25年だったと思いますけれども、市内の医療機関で大変看護師の確保が難しいということで、新しくこの制度ができた、こう記憶しておりますが、現在継続が2名と、それから貸付者が3名ということで、2名昨年しかしてないということであろうかと思えます。先ほどの補正でもお話しがありました。

最近の看護師の募集というか、利用者の状況がどんな状況であるのか、ちょっとお聞かせ願ったらと思えます。

○委員長（猶野智和君） 内藤健康増進課課長。

○健康増進課長（内藤賢治君） この募集状況につきましては、問い合わせは結構ございますけれども、実際の申出期間、4月1日から大体4月20日まで、20日間とっておりますけれども、この間で募集につきましては昨年で言いますと結局1名、その前でありますと、4名程度の募集があったかと記憶しております。

昨年——平成28年度につきましては、1名の募集に終わったので追加募集をいたしました。それで各学校を回って個別セールスしたんですけれども、その中で問い合わせがありましたけれども、結局追加募集には至らなかったという状況でございます。

○委員長（猶野智和君） 高木委員。

○委員（高木法生君） もう少しですね、本当募集人員がふえてこないとなかなか看護

師の確保というか——にはつながらないので、大変寂しい思いはしております。これが今少ないにしても、新規の貸付がうまく3名が5名になっても別に問題はないんですよね。ただ規則的には別に人数の縛りが無かったと思っておりますけれども。その辺ちょっと聞かせていただいたら。

○委員長（猶野智和君） 内藤健康増進課長。

○健康増進課長（内藤賢治君） ただいまの御質問にお答えします。人数には縛りはございません。

○委員長（猶野智和君） 高木委員。

○委員（高木法生君） このままの状況が続けばですね、看護師さんの確保もままならないということでございます。制定した意味があまり薄れてくるんじゃないかと、思っておりますけれども、このやっぱ、要望としてですね、例えば60万円が少ないとかそういった意見はないんですかね。これをやっぱり金額を上げたりすることで募集者がふえてくるとか、そういったことはないんでしょうか。

○委員長（猶野智和君） 内藤健康増進課長。

○健康増進課長（内藤賢治君） 特に増額の要望ってのはちょっと聞いてはおりません。

○委員長（猶野智和君） 高木委員。

○委員（高木法生君） だからですね、この確保者に必要……大変すばらしい制度だろうと思うんで、ふえてこなければまた確保が、病院も大変困ろうと思いますので、何か対策を考えられたり、アンケートとるというか、何かお聞きになったりして、何かこれを事業まだまだ推し進めていっていただきたいと個人的には思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○委員長（猶野智和君） ほかにございますか。三好委員。

○委員（三好睦子君） 2点お尋ねいたします。49ページの廃棄物リサイクル推進事業の件ですけど、可燃物のごみで、一般家庭のごみでも、事業系のごみも同じ料金で扱われているように思うんですが、そうなのでしょうか。

それとですね、44ページの合併浄化槽設置整備事業なんですけど、これは和式トイレを洋式に変えていた——変えてほしいという方——変えたいという方もたくさんいらっしゃると思います。

しかし、この中で、その合併浄化槽について補助金が出ておりますが、工事をすれば200万からか——以上かかると思います。

それで、住宅リフォーム助成制度とか、一緒——併用できるのかどうか、できるように聞いておりますがどうなのでしょう。この２点についてお尋ねいたします。

○委員長（猶野智和君） 池田生活環境課長。

○生活環境課長（池田正義君） 三好委員の２点の質問にお答えいたします。

まず、１点目の廃棄物リサイクル推進事業において、家庭系のごみに事業系のごみが入っているのではという趣旨の御質問だと思いますが、平成２６年９月議会の一般質問において、三好委員のほうから事業系ごみの実態についての一般質問がされております。その時の答弁では、「基準やルールの確立、対象事業所の把握など、５項目についての課題や方法論をまとめる必要があり、短期間で結果を出すのは少し大きいと考えておりますので、腰を据えて取り組みたいと考えております。」といった市長答弁がされておるところでございます。

それから約３年——２年半ですかね、経過がしておりますけども、課内では引き続き検討をしておりますが、いまだ結論に至っていないのが実情でございます、引き続き検討せざるをえないということを御理解いただければと思っております。

それと合併浄化槽の件でございますが。トイレだけの改修をということなんですが、これは国の制度でして、トイレだけの改修ではなく、台所から出る排水、浴室などがありますけども、これを全て処理する、工事するということが必要前提でございますので、一応申し添えておきます。

それとその中で、ほかの、家——リフォーム等との兼ね合いもおっしゃってましたけれど、現在のところリフォームとは全く切り離していただいていると思います。もうこれはあくまでも、浄化槽に係る部分だけの補助金でございますので——補助金ということで考えていただければと思います。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 三好委員。

○委員（三好睦子君） 合併浄化槽だけのはよくわかりますけれど、あの付帯工事がありまして、その床をやったりなんたり、ほかの窓つけたり、トイレをか……ほかに合併浄化槽についての補助金はわかるんですが、そういった付帯工事があるときに２００万ぐらいいると、そういうときに、次の商工労働課でも回答いただいてもいいんですが、住宅リフォーム助成制度が使えるという……使えると思うんですが、住宅リフォーム助成制度が使えるかどうかはつきりそこで言っていただきたいと思います。

それから、ごみの件についてでは、確かに３年前に私が質問しましたが、この可燃物において、これは農家の場合でしたら、農業資材の中でいくら可燃物であってもこれは一般ごみでは出せないようになっております。農家の資材は農家の資材で年に２回収があるんですが、この明らかに事業所のごみであるというのに家庭ごみと同じ扱いは本当に不自然ではないかと思いますが、区別されるべきだと思いますが、今後の取り組みで、なかなかではないということでしたが、前向きに考えていただけるかどうかお尋ねいたします。

○委員長（猶野智和君） 池田生活環境課長。

○生活環境課長（池田正義君） 三好委員の再質問にお答えいたします。

やはり、事業所の区分、これが大変難しいというのが実情です。まだ本当に時間かかるとは思いますけども、検討してまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○委員長（猶野智和君） ほかにございますか。質疑なしと認め、質疑を終わります。

この際、４時４０分まで休憩いたします。

午後４時２８分休憩

-----  
午後４時４５分再開

○委員長（猶野智和君） 休憩前に続き、委員会を開催いたします。続いて、労働費を議題といたします。執行部より、説明を求めます。白井建設経済部長。

○建設経済部次長（白井栄次君） それでは、労働費について御説明を申し上げます。

恐れ入りますが、予算の概要は４６ページをお開き願いたいと思います。

まず、１項労働諸費におきましては、前年度と比較して６８万７，０００円減の総額１，１０５万７，０００円を計上いたしております。

主な事業につきましては、ここに記載のとおりでございますけれども、まず、就職祝金給付事業につきましては、前年度と同額の８８万円を計上いたしてございます。

この就職祝金給付事業につきまして、新年度より若干運用方法を変更いたすこととしておりますので、この内容について御説明を申し上げます。

現在、中学校、高等学校、大学その他市長が認める学校のいずれかを卒業してから２年以内に、官公庁を除く市内事業所に正規社員として就職された新規学卒就職者、もしくは、市外から転入してきた４０歳以下の方で、市内事業所に正規社員として就

職された転入就職者、これらの方々に対して、それぞれ2万円を給付する事業でございますけれども、新年度におきましては、若者の市内への定住に対する意識付けを強化するため、新規学卒就職者または転入就職者で、就職後引き続き1年以上、市内に住所を有し、かつ同一事業所に在籍する方を、新たに「定住就職者」として定義し、祝金を給付することといたしております。

給付する額につきましては、新規学卒就職者または転入就職者に対しては、これまでの2万円から1万円に減額し、ある新規の定住就職者に対しましては2万円を給付することとしております。

また、これまで申請期間を設け募集しておりましたけれども、今後は、就職した日から2年以内であれば、いつでも申請できることとします。また、就職後1年を経過しておりますれば、合計した3万円を同時に給付することも可能とするように考えております。それから、祝金の交付につきましては、これまでは現金で支給してございましたけれども、今後は口座振り込みでの対応とする予定でございます。

事業変わりました、次にその下の人材・企業育成活性化事業として前年度と同額の490万3,000円を計上いたしております。この事業では、就職相談事業や人材育成講座開設事業の実施によりまして、雇用の創出や人材育成に努めるとともに合同就職面接会の実施を行うこととしております。

続きまして、47ページをお開き願えたらと――47ページでございますけれども、一番上に4目で勤労者福祉施設費におきまして、2,379万2,000円を計上いたしております。

これは、美祢市勤労福祉会館並びに美祢勤労者総合福祉センターの2施設の管理に係る経費でありまして、指定管理委託料として2,293万円の計上が主なものでございます。

前年度と比較して、113万9,000円の増につきましては、指定管理料の増額が主な要因となっております。

労働費につきましては、以上でございます。

○委員長（猶野智和君） 説明が終わりました。それでは、質疑を行います。質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（猶野智和君） 質疑なしと認め、質疑を終わります。



次に、農林費を議題といたします。執行部より、説明を求めます。末藤農業委員会事務局長。

○農業委員会事務局長（末藤勝巳君） それでは、農林費につきまして御説明をいたします。

ページは、同じく４７ページの中段になります。

６款農林費・１項農業費・１目農業委員会費でございます。平成２９年度の予算額は４，３４０万３，０００円となっております。農業委員会運営事業の中の農地流動化推進事業におきまして、１４９万４，０００円を計上しております。

これは、農地利用最適化推進委員が農地の貸し手・借り手の仲介を行いますが、農地を集積することによりまして、農業経営の規模拡大・安定を図るとともに耕作放棄地の発生を防止するための費用でございます。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 志賀農林課長。

○農林課長（志賀雅彦君） 続きまして、農業振興費以降の予算について御説明申し上げます。

予算の概要の４７ページの下の方になります。農業振興団体支援育成事業の農業管理センター運営事業として、１，０５０万円を計上しております。

これは、ＪＡ山口美祢に農業の総合窓口としての農業管理センターを設置しておりますが、この運営に対する補助金です。また、当センターに新規就農者相談窓口設置の支援を行い、新規就農者の掘り起こしを図ることとしております。

次に、はじめてみ～ね野菜チャレンジ事業として、１２０万円を計上しております。

これは、契約栽培を推進し作付け拡大を図るため、作物を新たに導入する初期経費の軽減を図るための事業です。

この事業は、契約栽培をされた面積に対して、１年目には１０ａ当たり３万円、２年目には２万円、３年目には１万円を補助するものです。

続きまして、予算の概要の４８ページをお開きください。

担い手育成総合支援事業の認定農業者生産振興支援事業として、個人認定農業者の農業用機械等の整備を支援する事業です。多くの要望に対応するため、２００万円を計上しております。

次に、新規就農者支援対策事業です。これからの３つの事業は、特に重要と考え

ており、積極的に推進してまいりたいと考えております。

1 青年就農給付金事業としまして、新規就農する青年に対する給付金として1,062万5,000円を計上しております。

財源といたしまして、国100%補助の県支出金を予定しております。

次に、2はじめてみ〜ね農業応援事業としまして、450万円を計上しております。

この事業は、山口県立農業大学生の学費等の補助を行い市内での就農を促進し、就農時の初期投資の軽減を図り、新規就農者の定住促進をするための事業です。この事業は、農業管理センターと連携し推進してまいりたいと考えております。

次に、3新規就農者定着促進事業につきまして、432万5,000円を計上しております。

この事業は、国の農の雇用事業終了後の1年目90万円、2年目60万円、3年目30万円を、新規就農者を雇い入れている事業者に支援するものです。

財源といたしまして、2分の1の県支出金を予定しております。

次に中山間地域等直接支払交付金事業として、1億4,258万円を計上しております。

この事業は、4期対策の3年目となります。110協定、1,215haに対し交付する予定としております。

財源は、国2分の1、県4分の1補助の県支出金1億693万4,000円を予定しております。

次に、農地中間管理事業として、2,125万4,000円を計上しております。

この事業は、農地中間管理機構を介して農地の集積・集約化を促進し、効率的かつ安定的な生産構造を目指すための事業です。主な予算の内容は、機構集積協力金の1,900万円です。

財源としまして、国全額補助の県支出金1,900万円、及びその他の財源で県委託金等の221万2,000円を予定しております。

続きまして、予算の概要49ページです。

次に、新規就業者受入体制整備事業につきまして、839万円を計上しております。

この事業は、集落営農法人等が新規就農者を雇用等した場合に必要な機械・施設等の整備を支援する事業です。今年度の事業につきましては、2法人において普通型コンバインの購入に対する事業費の2分の1を補助するものです。財源といたしまして、

事業費の3分の1が県支出金です。

次に、産地競争力強化対策事業につきまして、41万7,000円を計上しております。

この事業は、園芸品目や畜産物等のブランド化に必要な機械・施設の整備を支援するものです。1法人において、キャベツ等の防除機購入に対して事業費の2分の1を補助するものです。

財源といたしまして、事業費の3分の1が県支出金です。

続きまして、4目農地費、予算書については244ページから247ページになります。

単独土地改良事業において、852万2,000円を計上しております。

受益者が行う土地改良事業に関して50%の補助を行う事業です。農家の多くの要望に応えるため予算を増額しております。

次に、多面的機能支払事業として1億4,176万1,000円を計上しております。

27地区、約1,628haでの活動を予定しております。

財源としまして、国2分の1、県4分の1補助の県支出金1億652万円を予定しております。

続きまして、予算の概要50ページです。

団体営農地防災事業におきまして、5,020万円を計上しております。

これは、危険ため池を改修する事業で、伊佐町大浴地区のため池、及び秋芳町横尾3ため池の改修を行います。

財源としまして、国55%、県35%補助の県支出金4,518万円、及びその他の財源で2%の地元負担金100万4,000円を予定しております。

次に、単独県費土地改良調査事業において、325万円を計上しております。秋芳町岩永本郷西地区の事業計画書の作成及び伊佐町権坊地区の計画構想図を作成することとしております。

続きまして、5目畜産業費です。

畜産振興推進事業に、357万3,000円を計上しております。

これは、畜産振興を図るための経費で、主に山口美祢農業協同組合畜産部会に対する補助金231万円を予定しております。

続きまして、２項林業費です。

１目林業総務費、秋吉台山焼き事業として、１，０６２万３，０００円を計上しております。

これは、秋吉台の山焼きにかかる経費です。県より１６０万円の補助金があります。

なお、山焼き中の事故に対応するため、今後早急に安全対策のマニュアル等を作成することとしております。予算が必要な場合には、補正予算で対応してまいりたいと考えております。

続きまして、５１ページ２目林業振興費です。

森林整備地域活動支援交付金事業として、３００万円を計上しております。

これは、主に市と協定を締結した森林所有者が、計画に基づき、施業の集約化の促進、作業道の点検補修等を行うことに對し補助金を交付する事業です。

財源といたしまして、国５０％、県２５％の県支出金２２５万円を予定しております。

次に一番下の、５目治山事業費として、１，３６０万８，０００円を計上しております。

主に小規模治山整備事業として、民有林地の山地崩壊の復旧及び予防のための３カ所の小規模治山工事１，０７８万８，０００円と小規模治山事業補助事業として、個人の治山事業に対する補助金１５０万円を計上しております。

財源としまして、２分の１補助の県支出金７４９万２，０００円、及びその他といたしまして受益者分担金２９６万７，０００円を予定しております。

続きまして、５２ページ、６目有害鳥獣対策事業費です。

有害鳥獣捕獲奨励事業として、１，４４４万７，０００円を計上しております。

有害鳥獣捕獲奨励金の補助、狩猟免許取得に対する支援、小規模な防護柵等に対する補助を予定しております。また、サル用大型囲いわなの１基の設置及び移動を実施する予定としております。

次に、有害鳥獣捕獲委託事業としまして、猟友会に１年を通しての捕獲業務を委託する経費１００万円を計上しております。

次に、サル捕獲事業として１７４万８，０００円を計上しております。サルの捕獲業務を各猟友会に１年を通し委託します。

また、人的被害防止のため居住区域で銃による捕獲が困難な場合には、麻酔銃によ

る捕獲業務を委託することとしております。

次に、有害鳥獣被害防止対策事業として、2,244万6,000円を計上しております。

サル用大型囲いわな1基、先ほどの有害鳥獣捕獲奨励事業と合わせて2基になりますが——の設置、進入防止柵事業を予定しております。

財源といたしまして、国全額補助の県支出金を予定しております。

以上で、6款農林費の説明を終わります。

○委員長（猶野智和君） 説明が終わりました。それでは、質疑を行います。質疑はございませんか。三好委員。

○委員（三好睦子君） 有害、有害捕獲——52ページですけど、有害鳥獣捕獲奨励事業なんですけれど、これは昨年のを見ましたら、120万だったように思います。今年は127万9,000円が充てられているようなんですけれど、これはあの金額的に見れば2人か3人分に充当しないのではないかと思います。昨年、もう一昨年だったと思いますが——昨年はだったように思うんですけれど、なかなか、この足らなくてっていうか、申請しても締切が——締め切っていたと。多くの農家の方の要望に応えられなかった例があったと思いますが、もう少しこれをふやすわけにはいかないのでしょうか。お尋ねいたします。

○委員長（猶野智和君） 志賀農林課長。

○農林課長（志賀雅彦君） 予算の有害鳥獣捕獲奨励事業の予算が増額できないかという三好委員の御質問ですが、予算の増額については今のところ考えておりません。共同で一つの田んぼを囲むのではなくして、共同で多くの田んぼを囲んでいただくことで協力し合って事業効果が上がるように御協力をいただければと思っております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 三好委員。

○委員（三好睦子君） その事業っていうのは、52ページの有害鳥獣被害防止対策…これ、県が行っているこの事業で乗っかってくると思いますが、今の、先ほど申しましたのは、個人個人がやる分だと思いますが、なかなかこの、先ほどの県の事業に乗れない方が多いのではないかと思います。そのためにこの先ほどの有害鳥獣の……市独自のだと思うんですけれど、これに乗っかりたいという方が多いので、みなみなこの県事業には、乗っかれないと思うんですが、この県事業で大方のが、この賄えて

いけるのでしょうか。お尋ねいたします。

○委員長（猶野智和君） 志賀農林課長。

○農林課長（志賀雅彦君） 単市の柵——防護柵の事業のことだと思いますが、単市の個人個人の防護柵の事業におきましても、個人個人が1枚ずつの水田を囲むのではなくして、隣近所と御協力をさせていただいて、多くの面積を囲むことで同じ事業効果が図れると思いますので、申請者の皆様方にも御協力をいただきたいと考えております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 三好委員。

○委員（三好睦子君） あのですね、その場合は下のこの有害鳥獣被害防止対策事業に乗られるんですか。国の制度ですかね、国費の分——国費を県がやってる分ですけれど。

○委員長（猶野智和君） いや、個人ではなくて共同でやって効率よくやっていきましようという答弁だと思いますね。特に制限等は言われてないと思いますけど。（「もう一回中身を読みます」と呼ぶ者あり）ほかにございませんか。はい、岩本委員。

○委員（岩本明央君） 概要書の49ページの真ん中辺ですが、単独土地改良事業、予算——新年度予算書でいきますと、247ページの上から3行目になると思います。

もう少し工事の内容を具体的に教えてほしいと思います。よろしくお願いします。

○委員長（猶野智和君） 志賀農林課長。

○農林課長（志賀雅彦君） 岩本委員の単独土地改良事業についての御質問にお答えをいたします。

これは、受益者が行うさまざまな土地改良事業、例えば用排水路の補修であるとか、水田の排水であるとか……の事業……受益者が行われる事業に対して補助金50万円を支払う事業となっております。ですから、工事の内容……（発言する者あり）その受益者が行われた工事に対して50%の補助金を支払う事業です。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 岩本委員。

○委員（岩本明央君） ちょっともう一度ですが、その工事——例えば暗渠排水も入りますかね。それとも土壌をならすといいますか。結構こう……付録がありますけど、そういうのも、どういうふうな、割合が50%でしょうけど、どういう工事の、具体的にわかればお話を願います。

○委員長（猶野智和君） 西田建設経済部長。

○建設経済部長（西田良平君） ただいまの御質問にお答えいたします。

工事内容については特に限定はしておりません。先ほど課長言いましたように、用排水路の整備、あるいは補修、それから暗渠排水、もしくはその他補助内でのさまざまな補修関係等、要望があればですね、基本的には受け付けるというふうなかたちになっております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） ほかにございませんか。杉山委員。

○委員（杉山武志君） 私のほうからは2点——内容としましては、担い手の関係なんですが、まず47ページのですね、農業振興費1,700万円ぐらい減額されております。で、今も農業とですね……ですとか、農林業ですとか狩猟の関係——後継者育成が喫緊の課題となっておりますが、先日Uターンで地元に戻って農業を始められたという方の説明を受ける際に私ちょっと同席させていただいて、2時間ばかり説明を聞きましたが、県の施策等はとてもハードルが高い。その担い手を——新規就農者をどんどん育てるような施策ではないように思われます。

その中で、美祢市が1700万、これ減額して新規就農者支援対策費ですとか、担い手の総合支援事業のこれらを政策——制度的に少しハードルを下げてくださいとか、金額をふやしていただいて、もっと利用しやすい——どういう方なんだとか、どういう計画をお持ちなんだとか直に聞けるわけですから、もっと効果的なものにしていただけないだろうか、予算がふやしてもらえないだろうかということと、それと52ページにですね、有害鳥獣の捕獲委託事業というのがあるんですが、これが半額ぐらいになっておりますね、猟友会に捕獲を委託するというお金がですね。これも、今から高齢化によって人材の確保をしてかにかいけんのにですね、半額にされておると。どうしてこう半額にまでなつとるのかなという辺をお尋ねしたいと思います。よろしくをお願いします。

○委員長（猶野智和君） 志賀農林課長。

○農林課長（志賀雅彦君） ただいまの御質問にお答えをいたします。まず、担い手、新規就農者に関する御質問ですが、国・県の補助事業につきましては先ほど委員も申されたとおりハードルが少し高いというところがあります。それに対応するために、ちょっと説明不足だったかもしれませんが、48ページの新規就農者支援対策事業の

2、はじめてみ～ね農業応援事業ということで、これ単市の独自の補助金を450万円ほど予算を計上させていただいております。

これにつきましては、農大生の——山口県農業大学校に通われる方の学費の補助。また、農大で行われます研修にかかる費用の補助。また、就農後に定住をされるときに、家賃につきましては月2万円で最長5年間を家賃補助するもの。また、就農時に必要なさまざまな機械が必要になってくると思いますが、その機械等の補助をする補助制度を単市独自として予算を計上させていただいております。

続きまして、二つ目の——52ページ、有害鳥獣捕獲委託事業が予算減額になっているという御質問ですが、これにつきましては、今までも——あと減っております96万円が猿に限った捕獲を委託しておりました。

で、新しくその下の猿捕獲事業という新しい事業を設けましたので、猿の捕獲に対する分、96万円につきましては、猿捕獲事業の174万8,000円のうちに入っているということで、予算を減額したわけではありません。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 杉山委員。

○委員（杉山武志君） 今の御説明の中でですね、48ページ、はじめてみ～ね農業応援事業。これ、今農業大学の学費ですとか研修、家賃の5年間分ですとか、機器購入補助ということを言われたんですけど、これらが450万円で足りるとお考えでしょうか。

先ほどの狩猟のほうは説明でわかりましたが、こちらのほう再度お尋ねします。

○委員長（猶野智和君） 志賀農林課長。

○農林課長（志賀雅彦君） この事業——はじめてみ～ね農業応援事業につきましては、来年度で3年目の事業となります。1年目につきましては500万円を計上しておりましたが、不用額が残ってきたということで50万円減して今年度も450万円を予定しております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 杉山委員。

○委員（杉山武志君） この内容ですね、農業大学等に入らないと対象とならないとか、やはり少しハードルが高い面があるんじゃない——あるから利用がしにくいじゃないかならうかという思いもありますので、また今後一考いただけるようお願いして終わり



たいと思います。

○委員長（猶野智和君） ほかにございますか。高木委員。

○委員（高木法生君） それでは一件お伺いをしたいと思います。49ページでございますが、多面的機能支払事業ということでございます。一昨年、昨年に比べまして、三千百……30%近くの増加が……増が見られるわけでございますけれども、この理由といたしまして組織の増——先ほどおっしゃられましたように、27地区あるということでございましたけれども、この取り組む組織が増によるものなのか、あるいは長寿命化関連でそういった事業が含まれるということでふえておるのか、その点にわかりましたら、御説明を——お伺いをしたいと思います。

○委員長（猶野智和君） 志賀農林課長。

○農林課長（志賀雅彦君） ただいまの高木委員の御質問にお答えをいたします。

この多面的機能支払事業におきましては、農地維持支払い、資源工場支払い、資源工場支払いの長寿命化の3つからなっております。今回の予算増は、資源工場支払いの長寿命化の要望が多くなったため予算増となっております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） よろしいですか、ほかにございますか、徳並委員。

○委員（徳並伍朗君） 今の、有害鳥獣の関係でありますけれども、私の於福のですね、田代地区のわなを持った、そしてまた農業をやってる方がおられるわけであります、今年も秋にいったらもうとにかく耕作放棄地じゃなくて、収穫ができない。鹿、猿、いや、イノシシにやられて収穫ができない田がいっぱいある。本当に確かに……もうとにかく荒らされて稲がガサガサになって大変だ。「んーならあんたわな持ちちよるけえ捕りいや」と言ったら、わながそう簡単に捕れるものではないですねえ。

そしてまた、最近ですが猟師さんから聞きました。美祢カントリーのところで30頭以上群れなっておった……動物園になっていた。30頭以上ですよ。群れになっておった。そしてまた、カルスターのオープンの日に私行きました。そしたら、ある写真家の方々が「きのうの朝、カルスターの前に鹿がおったよ」と。

私は今までずっと一般質問したときですね。秋吉台にしかないといういろんな植物があろういうふうに、今展示会もやっている——花の展示会をやっているように、花と写真の展示会やってるようであります、おそらくあの秋吉台の中に鹿がものすごく、何十頭、何百頭と必ず来ます絶対に。

しかし、今の皆さん方は、それはないだろうと思います。先々の方が困られるわけですね。今手を打たないと。今はええですよ、すぐにふえるわけではないので。しかし、何年か、何十年かの後にはですね大変なことになる。もともとですね、例えば於福にしろこの美祢にしろ、吉則地区にしろ、秋芳町にしろ猿はいなかったんですから、いや、鹿は全然。十数年前まで鹿はいなかったんです、なんか足の長いものが捕れたぞと言うておりました。今は鳳翔山の方から小郡まで鹿がおるわけです。全部行ってるんですね、全部行ってる。今宇部も少ないと言いますけど、もう宇部もそろそろ猟師さんが捕られる。おそらく長門市と豊田町の方からずっと攻めてきて、だったというふうに思っておりますが。

今ですね、今本当に鹿を撲滅して、美祢市で宇部や山口の方に行かないように、そして、また秋芳洞にも、もうおるわけですが、今後そういう秋芳洞のように大切な草花を……彼ら一年に食べるわけですからね、田んぼに入るのを、子供が学校に行くのと一緒なんですよ、毎日食べるんですよ、だから困ると。本気にやらないと大変なことになる。ましてや、市役所の職員さんにもわなを持っておられる方がおられるとは思いますが。大変だと。難しい。人のおいを嗅いでくるわけですから。なかなかそう簡単にはいられません。大体わなかけたら一週間ぐらいそこに来ないんですね。鹿でもイノシシでも人間のにおいがするから。そういうものを退治するのに、これぐらいなら、極端に言うたら予算ではなかなか……。

ましてやだんだんと減っているように、有害鳥獣被害防止対策事業。去年は2,700万、今度は2,200万。これもどういうふうな内容か知りませんが、猿も大変人間に危害を与えるからいけないと、農作物にも被害を与えるわけですが。やはり、鹿とイノシシの田に入る被害というものは膨大なものだろうと。ましてや、また秋吉台を抱えている美祢市としては、非常にこう、真剣に考えて前向きにやらないと、絶対に困りますよ。絶対に困る。困らないはずはないですよ。秋吉台の上やあんた堤防打たれりゃへんのやから、あれ鹿が入ったら本当もう天国ですよ、鹿は。草花いっぱいある。

それを防止するためにはよっぽどですね、そりゃ防止柵も防護柵も大事だろうけれど、とにかく数を減らさんとですね、ダメなんです。その対策を今までの二倍も三倍も、県なり国なりに要望してやらなければ絶対だめだということをよく理解をして、またこのぐらいの予算では全然だめだというふうに思っておるわけでありまして。これ

は、おそらく皆さんも心の中で思うでしょう。けどなかなか予算がないかもしれんですけど、それをどうねえかせんと、しないとですね……本当に、本当に困りますよ。

また、その鹿というものは、鉄砲で撃っても脚が長い動物ですから、ぴよんこぴよんこ飛んでなかなか撃ちにくい。イノシシは私みたいにちょっと足が短いですから……そうそう、ゴソゴソと走るわけです。鹿はぴよんこぴよんこ飛んでなかなか撃ちにくいんですね。だから、大変なんです。

どうかですね、議員の皆さんも年間何回か有害鳥獣のことをやられます。一般質問でされますけれど、これほど大切なことはないだろうと思うところであります。市の職員と言いますか、看護師含めたら六百……何十名や中で鉄砲持っておられるのが一人でございますから、あんまり関心がないじゃろうというふうに思っております。

しかし、もう我々——私も鉄砲持ってわなもやるんですけど、もう趣味だとか道楽でやってるんじゃないですよ。本当に大変なんです。もう農家——農業されてる方が本当に、「徳さんちょっと来てくれ」とか、鹿からイノシシにやられたところを見たりですね、それから現実にあそこに猿がおると、撃っておくれと、しかし家から200m、300m離れんにゃ撃てないんですよ。鉄砲というのは。撃ったら捕まりますから。大変なんです。

だから猟師もなかなかそれも大変なんですけれども、その気持ちを汲んでというわけではないんですが、猟友会と一緒になってもう少し真剣にこの有害鳥獣をやろうという、駆除をやろうということを考えてもらいたいと思います。本当にそう思いませんか。

ですから、今からでもいいんですけど、本当にこれはもうとにかく農業——今の今までいろいろありました。農業に対する補助金等いろいろありました。しかし、こういうイノシシの被害があったらやる気にならんですよ、本当に。よく考えて、どれがどうじゃなく全般的に、もう3回も5回も県なり国なりに言うて先ほど言いましたように秋吉台を抱えている美祢市、特にそういうもの、有害鳥獣には力を入れていただきたい。というお願いをいたしたいと思います。

以上です。

○委員長（猶野智和君） 一応、答弁を……なしでいいですか。

〔「済いません。」という者あり〕

○委員（徳並伍朗君） もし、私の意見に、よっしゃ。というふうに、市長じゃなけれ

ばいけません、賛同していただけるなら、賛同というか本当現状を私が言わせていただいたんですけれど、なんか皆さんで意見というか思いがあったらですね、ぜひとも言っていただきたいなというふうに思います。

○委員長（猶野智和君） 何か執行部で……。はい、西田建設経済部長。

○建設経済部長（西田良平君） ただいまの徳並委員の御質問というか御意見ということで求められましたので、まさに委員の言われるとおりであろうかというふうに思っております。

で、やはり柵をしてただその農地に入らないということであれば、絶体数は減りません。その分ほかに逃げてしまいます。過去のことを言えば、もともとが下関方面の方からどんどん東の方に鹿が繁殖して分布が東の方に来たというところがございまして、10年程度前でしょうか、そういったようなことを鑑みて豊田前地区から於福地区のあたりにちょうど行政区間の山の尾根といいますか。その所に高さが1.8m程度の柵といいますか、鋼製ではないんですけど網をずっとやって今でも管理してるところがあるんですけども、それがもう少し早い段階でやってれば多少の美祢市への流入というのも防げたということも今となってはそういうふうな結果として思うところはあるんですけども、やはり今現状として見れば、どんどん東の方に流れて萩の方でも鹿が頻繁に出てくるというふうなことも耳にしております。

それも……猿も同様なんですけど、そこを農地を囲むということであれば、ほかの農地へ行ってしまう。そういったようなことから、委員がおっしゃいましたように、秋吉台地域におきましても農地以外の所、そういったような所でも出没がかなりひどくなくなってきているというふうな現状でございます。

ということは、やはり絶対数を減らすということについてはやっぱり一番必要なことではなかろうかというふうに思っておりますし、それにつきましては、やはり猟友会の皆様へのお願いというか、そこんところは非常に重要なことであろうというふうに考えております。

それで市としてできることとして、一つには捕獲奨励金というところを——捕獲意欲を猟友会の方に維持していただくということも考えながら、今回も補正のほう出させていただきました。これを年間予算がこれだけだから、実際のところは——例えばイノシシで言いますと、一頭あたり2万3,000円、で猿が2万6,000円だったと思うんですけども、これが予算の範囲内ということで歩切りをするということは今

後はないようにしよう。それはそれなりとしての補正をしっかりと取っていこうというふうな考え方で、猟友会の皆さんに我々としてできるところは、やはりそういうふうなところが一つ、それから、猟友会の方々も、高齢化ということがございますので、なるべく新規の方々に、捕っていただけるようにということで、免許の——取っていただくための補助等も考えて既に実施しているところです。

そういったようなところから言えば、やはり委員おっしゃるようにそういったようなところでもっと大胆な予算編成等もしていくということも必要かと思いますが、そういうことでの一般質問も、事あるごとにこの鳥獣被害については、御質問をうけているところでございます。

そういったような中で一方では、予算の——ひとつには限界といいますか。なかなかその予算を大胆にとるとということがされてないということでもありますので、先ほどの秋吉台地域にも出てきているということも踏まえますと、農林課の所管だけではなくて市全体としてこういうふうなところをしっかりと考えていくようなかたちで、市長じゃありませんので今それを断言はできませんが、建設経済部というところを一つのポイントとして、もうちょっと大きな広がりの中で予算確保ということは今後もしっかり検討していかなければならないというふうには考えております。

以上です。

○委員長（猶野智和君） はい、徳並委員。

○建設経済部長（西田良平君） 濟いませぬ。イノシシは3600円でした。濟いませぬ。

○委員（徳並伍朗君） 網を張るだとか、ネット張るだとかというふうにおっしゃいますけれど、ネットや網を張ったって……例えばネット張ったら雄の鹿がかかります。すぐにネットがだめになる。すぐそこから鹿がどんどん渡る。鉄のネットやります。金属の。イノシシが下掘ります。全然ですね、彼らは飯を食うためにやってるんですよ。動いてるんですよ。必死なんですから。1m80ぐらいのネットやったら、ゆっくり鹿がぴょんと飛び超えます。本当ですよ、1m80ぐらいやったら。その場でぴょんと飛び超えます。

ですから、もう上から飛ぶ、下から前に進むために鉄格子が——鉄のネットがあっても、掘って前に行くんですから。そしてそれも、鉄の……すぐ……したって……破てる。於福と渋木の間にずっと鉄のネットが張ってあります。たくさん鹿がかかって死んでおるし、もうボロボロです。本当に。ですからこれはですね、ネットを張った

からというて、もちろんいつときは動きません。だけど、絶対量を減らさないダメなんですよ。本当に。

ぜひとも、この分は今からもう、どねえないい猟の方法があるとしても、籠ぐらいのものです。籠でイノシシを入れたり、鹿を入れたりするぐらいのものです。しかし、動物もやっぱり賢いですからね。危ないと思ったら入らないようになるんですよ。はっきり言うてだんだんと賢くなっていく。また新しい方法を考えないといけないと思いますけれど。

しかし、早いうちにやっていかないといけないと、また今から鹿はイノシシも、この春には子供も産まれます。早いのは鹿もそろそろ産まれるんじゃないかと思います。またどんどんふえる。前も言いましたように、鹿はハーレムをつくりますから、雄1頭に雌5頭も10頭もおるわけです。ものすごく。ふえる量といたらすごいやろうと。恐らく美祢市内で美祢市の人口ぐらいに鹿がおるんじゃないかなと思っております。

とにかくですから、もう少し鹿、有害鳥獣に対してはもう少し予算を組んでそして、イノシシ3,600円でもいいんですけれど、しかしですね、大変なんですよ。イノシシ捕ったら、後またさばくの。前も話をしたですけれどね、さばくってやっぱ手間、そして皮を捨て骨を捨てそれもちちゃんと始末せんにゃいけん。皆さん見られたら、「うわーこんなことしよる」と思われるかもしれませんが、しかし、捕った以上はそれをしなくてははいけません。捨てられんから。そういうね、道楽とか趣味じゃないんです。もう仕事でやってると思って、もう少しイノシシにしよ、今、市が3600円だとか、鹿が6000円ですか。鳥取の方行くと、イノシシ1頭が3万ぐらいになる。そういうところもあります。そしたら、また猟する人もどんどん少なくなって、今だんだんと年々減っていきます。しかし、よしそれならもう一遍やろうかなというような雰囲気になってくるんじゃないかなと。そういう人たちを、農業をする人をどんどんふやすならそれと同時に、やはり鹿やイノシシで迷惑がかかっている人を少なくすることも非常に何百万も何千万もかけてやるべきじゃないかなと、それが将来につながるだろうというふうにこう思っております。

ぜひともですね、もうイノシシの3,600円とか、その大変なんですよ本当に。もう少し狩猟する人たちの気持ちになってですね、もらいたいと思います。

以上です。もう答弁はいりません。

○委員長（猶野智和君） それではほかにございますか。三好委員。

○委員（三好睦子君） 済みません、関連ですけど、今徳並委員の質問の関連ですが、イノシシの場合、市で３６００円、でもこれ狩猟期間中でなければ県と市のダブルでもらえるとあるんですけど、県の補助——成獣の場合は８０００円なんですけれど、この申請をしないと、市に市は申請は自分ですと思うんですけど。県の申請も自分でするんでしょうか。市に申請すれば県の申請もしていただけるのでしょうか。イノシシ８０００円、鹿だったら成獣の場合８０００円が県の補助ですけど、猿の場合も成獣で８０００円になってますけれど、この申請は自分でするんでしょうか、市がしてくれるんでしょうか、お尋ねします。

○委員長（猶野智和君） 志賀農林課長。

○農林課長（志賀雅彦君） ただいまの三好委員の御質問にお答えをいたします。

鳥獣被害防止対策事業の中の鳥獣被害緊急捕獲活動支援事業のことだと思います。

これにつきましては、イノシシ・鹿・猿で委員も言われましたとおり、成獣で単価が８０００円となっております。この申請につきましては、市に申請をしていただきましたら、この８０００円分もお支払いをします。

以上です。

○委員長（猶野智和君） よろしいですか、ほかにございますか。質疑なしと認め質疑を終わります。これにて、本日の審査を終了いたします。なお、本日審査をいたしました一般会計予算の残余の部分につきましては、あす引き続き審査いたします。

それでは３月７日午前９時３０分から当委員会を開催いたしますのでよろしくお願いいたします。本日はこれにて散会いたします。御審査、御協力まことにありがとうございました。お疲れ様でございました。

午後５時４１分散会

---

上会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

平成29年3月6日

予算決算委員長

猶野 智利